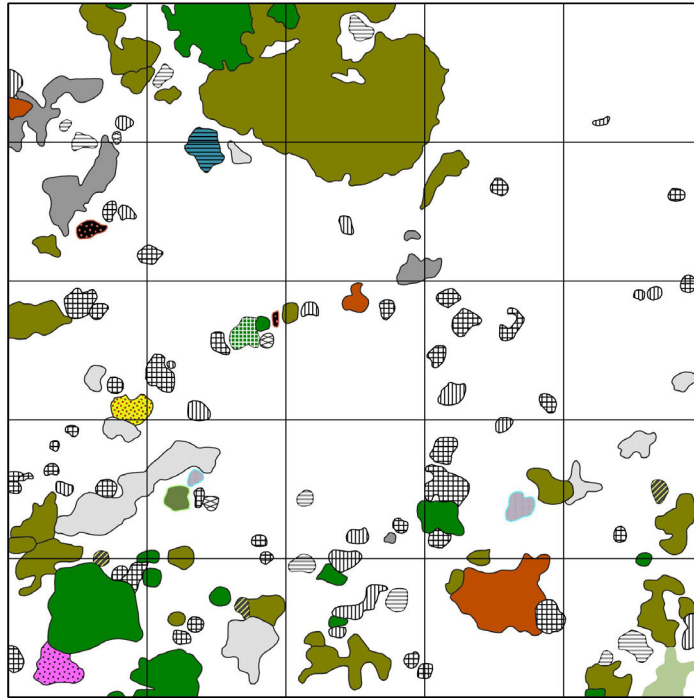


図-6.12.12 (2) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C12:令和3年度)

C13

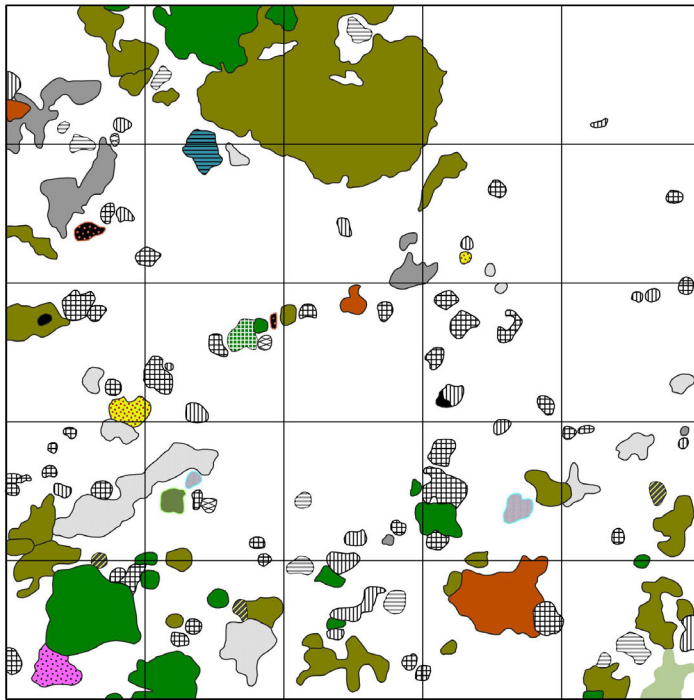
春季



- 凡例
- ミドリシ属
  - アナサンゴ属
  - ニオウミドリシ属
  - コモンサンゴ属
  - スリパチサンゴ属
  - ハマサンゴ属
  - Homophyllia属
  - マルキクメイシ属
  - ハリカメコクメイシ属
  - トゲクメイシ属
  - キクメイシ属
  - カメコクメイシ属
  - コカメコクメイシ属
  - サザナミサンゴ属
  - ウネカメコクメイシ属
  - ノサンゴ属
  - ハナヤサイサンゴ属
  - アナサンゴモドキ属

C13

夏季



- 凡例
- ミドリシ属
  - アナサンゴ属
  - ニオウミドリシ属
  - コモンサンゴ属
  - スリパチサンゴ属
  - ハマサンゴ属
  - Homophyllia属
  - マルキクメイシ属
  - ハリカメコクメイシ属
  - トゲクメイシ属
  - キクメイシ属
  - カメコクメイシ属
  - コカメコクメイシ属
  - サザナミサンゴ属
  - ウネカメコクメイシ属
  - ノサンゴ属
  - ハナヤサイサンゴ属
  - アナサンゴモドキ属
  - 死亡サンゴ

図-6.12.13 (1) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C13:令和3年度)

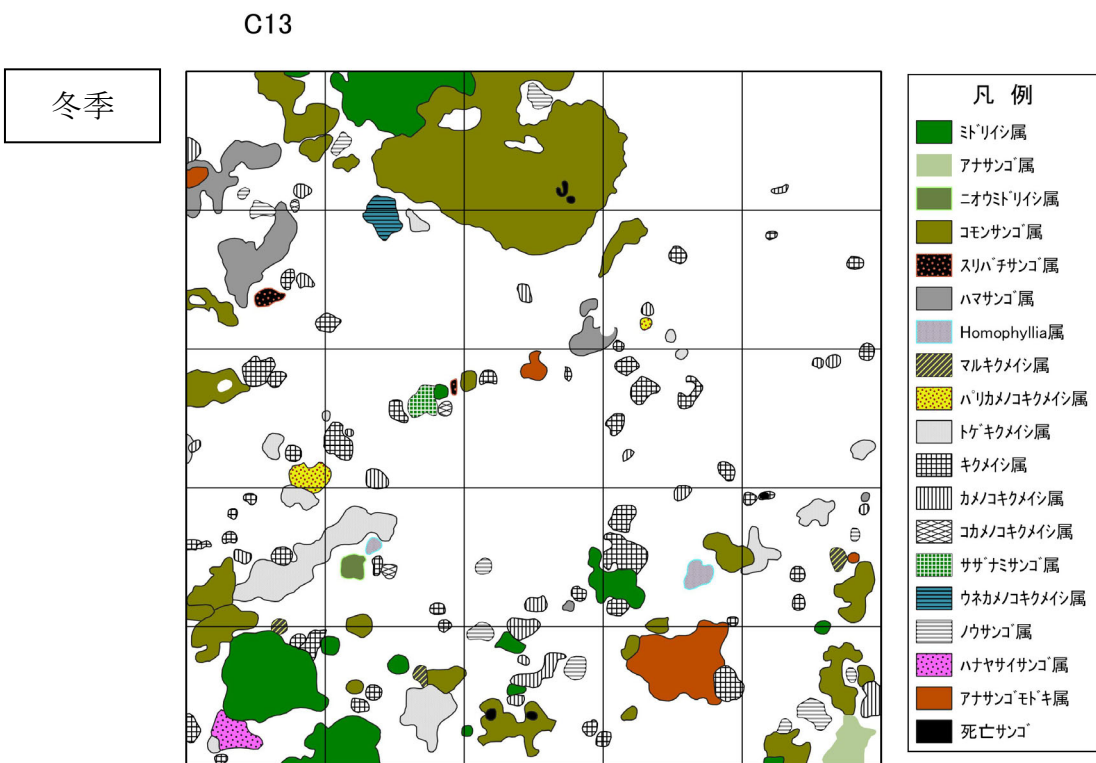
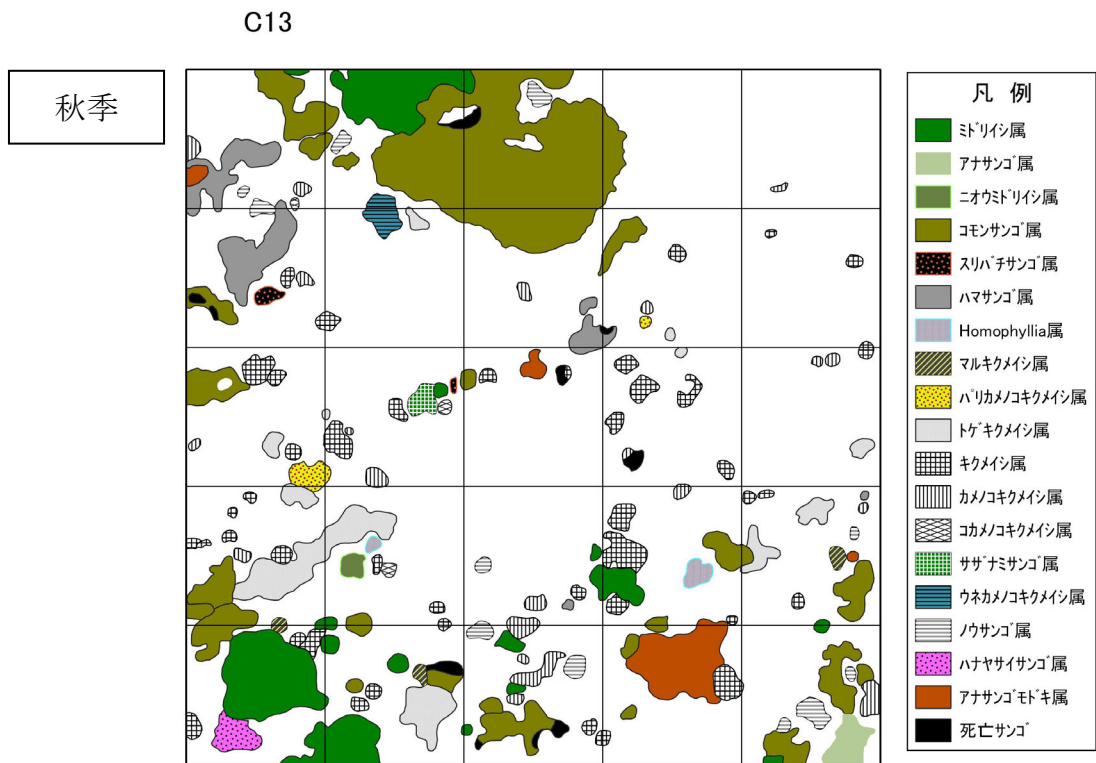


図-6.12.13 (2) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C13:令和3年度)

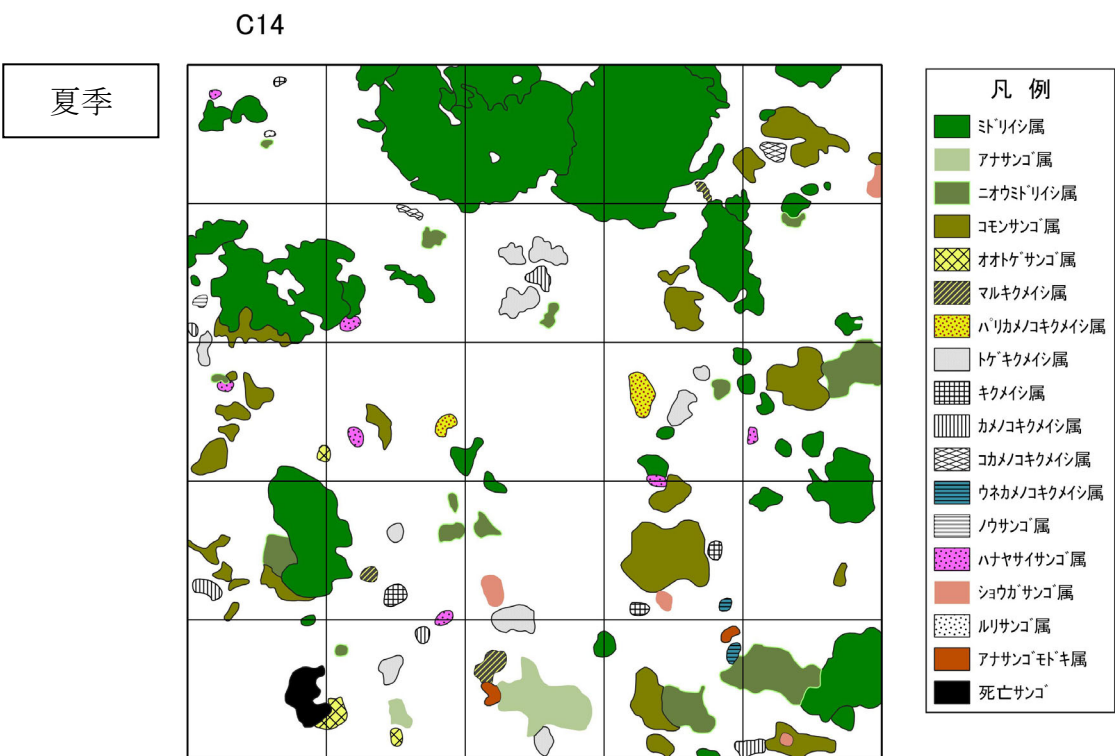
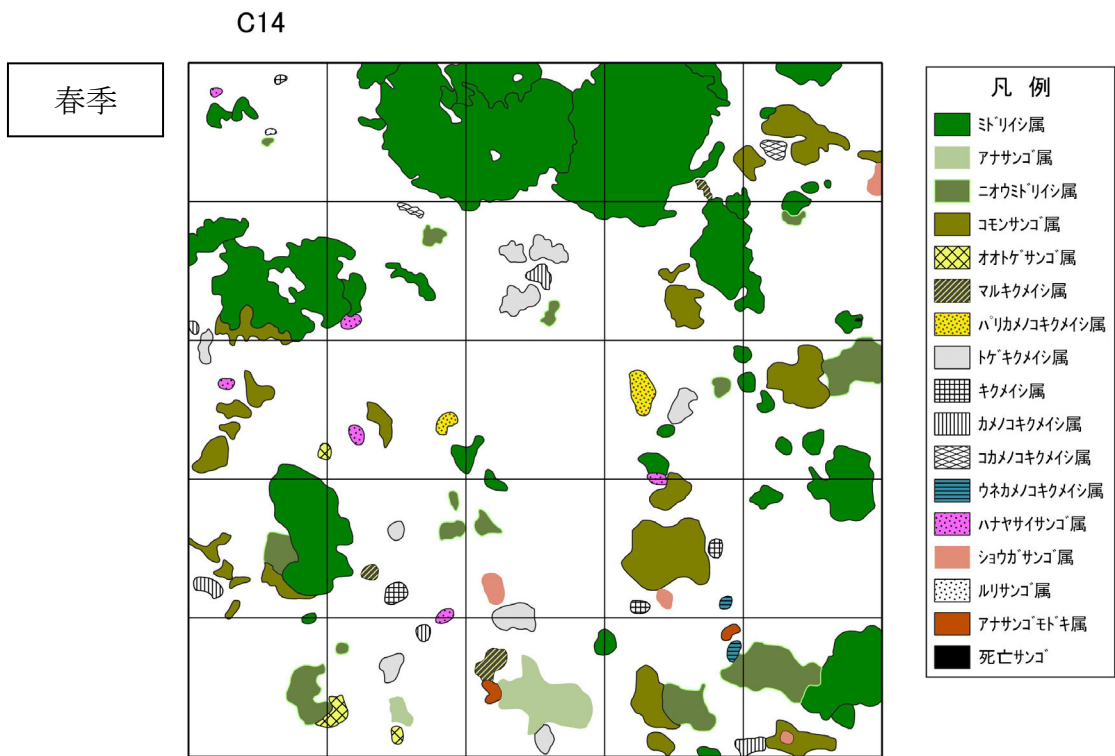


図-6.12.14 (1) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C14:令和3年度)

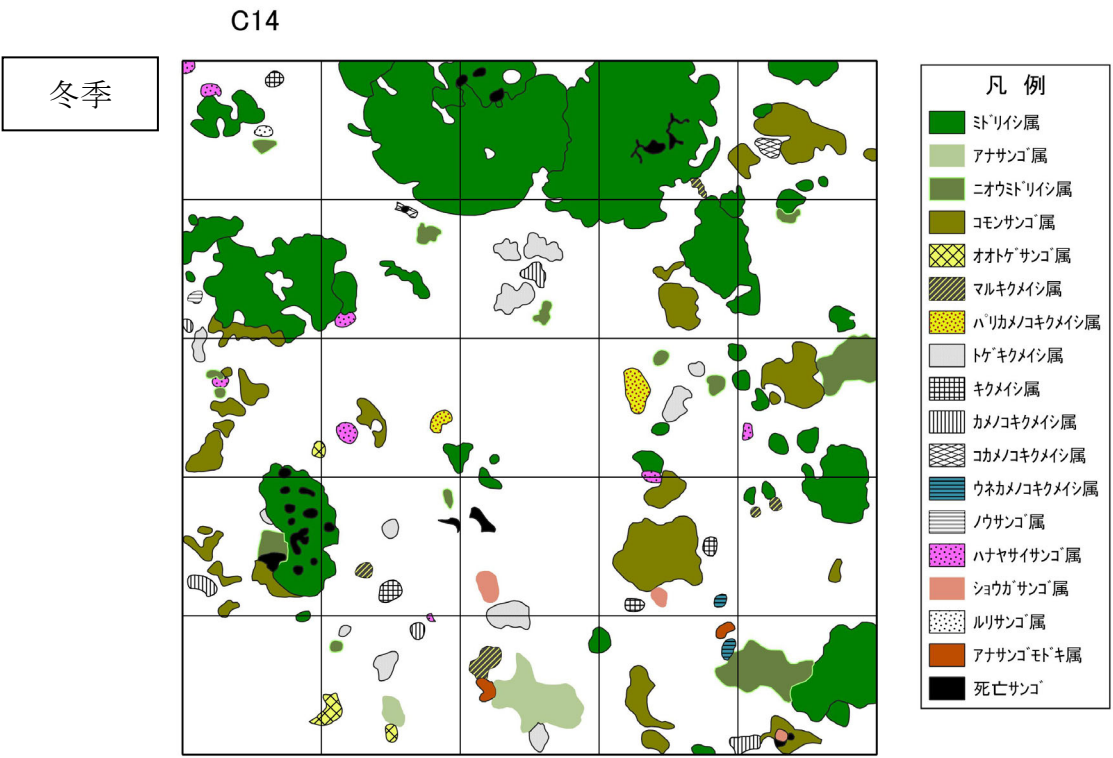
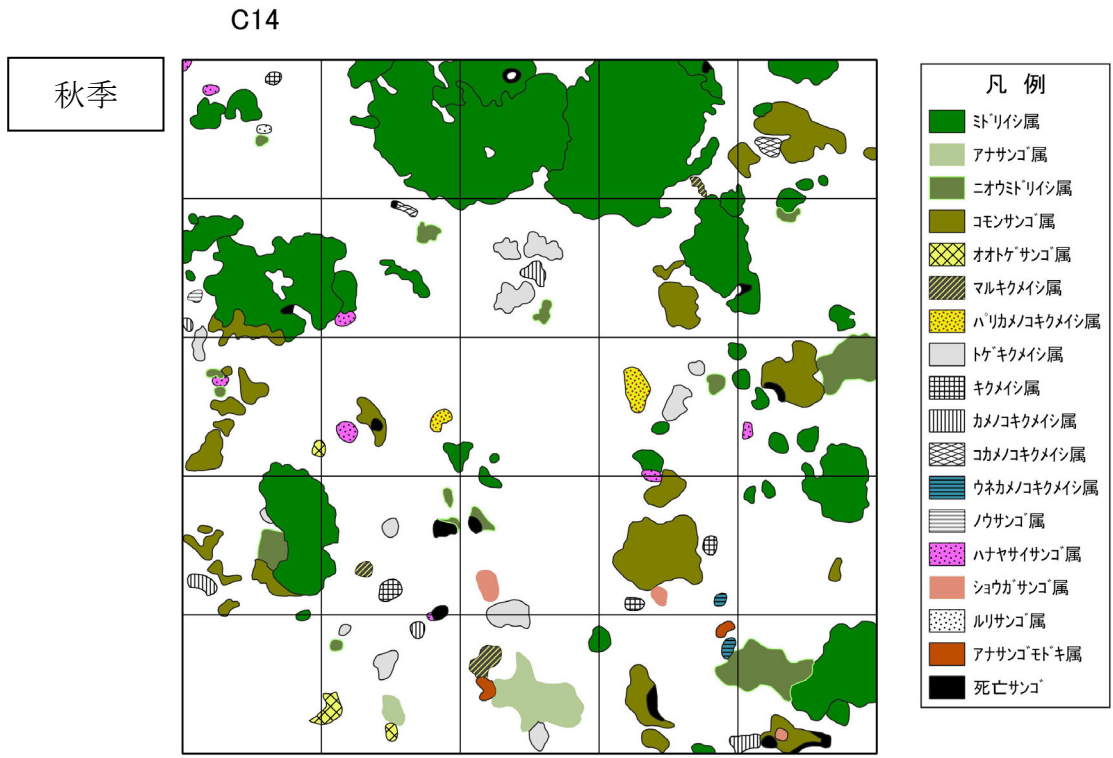


図-6.12.14 (2) サンゴ類生息状況 (定点調査: 5m×5m) (C14:令和3年度)

表-6.12.17 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (春季)

調査地点		C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	
調査日		令和3年5月25日	令和3年5月28日	令和3年5月25日	令和3年5月25日	令和3年5月22日	令和3年5月22日	令和3年5月23日	
水深		8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m	
底質概観		岩盤、巨礫	巨礫、砂	巨礫	岩盤	岩盤	岩盤	巨礫	
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%	
	死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%	
	出現種類数	13	12	10	17	16	20	6	
	主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	ミドリイシ属(テプ*状) 10%	-	ミドリイシ属(テプ*状) 20%	-	
	成育型	V	V	V	II	V	II	V	
	サンゴ加入度	I	I	I	I	I	II	I	
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	63, 48, 44, 33	-	-	289	-	328	-	
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	
	その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
	病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0		
海藻草類	被度	65%	45%	70%	55%	20%	45%	35%	
	出現種類数	64	55	52	57	62	51	54	
	藻場被度	<5%	10%	<5%	<5%	<5%	<5%	15%	
	主な藻場構成種	ホンダワラ属	<5%	ネレハモク 10%	ネレハモク <5%	ネレハモク <5%	ネレハモク <5%	ホンダワラ属 <5%	ホンダワラ属 15%
		ネレハモク	<5%		オハクサ属 <5%	オハクサ属 <5%	オハクサ属 <5%	オハクサ属 <5%	ネレハモク <5%
		オハクサ属	<5%			マクサ <5%			
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
付着藻類被度	10%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%		
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%	
	主な出現種	カミアザミ科 <5%	カトサカ属 <5%	カトサカ属 <5%	-	カトサカ属 <5%	カトサカ属 <5%	カミアザミ科 <5%	
備考		特外周辺にテプ*状大型キノ*あり。	特になし	特になし	特になし	特外周辺にテプ*状大型キノ*あり。	特になし	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石（等身大以上）、巨礫（等身大～人頭大）、大礫（人頭大～こぶし大）、小礫（こぶし大～米粒大）、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはいても濡らない、II：はたとと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一律に（厚く）堆積している」  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I（枝状ミドリイシ優占）、II（テプ\*状ミドリイシ優占）、III（枝状、テプ\*状ミドリイシ混成）、IV（特定種優占）、V（多種混成）、VI（ワフワフ\*優占）  
 7. ワフ\*加入度（群体数 / ㎡）：I（なし）、II（<5群体）、III（≧5群体）  
 8. ワフ\*食巻貝類によるワフ\*類の食害：I（食痕目立たない）、II（食害のある群体が散見）、III（大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない）、IV（斃死群体が目立ち、貝集団が散見される）  
 9. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」

表-6.12.17 (2) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (春季)

調査地点		C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日		令和3年5月28日	令和3年5月26日	令和3年5月26日	令和3年5月26日	令和3年5月23日	令和3年5月23日	令和3年5月24日
水深		4.3m	3.6m	3.9m	5.3m	10.8m	9.3m	7.7m
底質概観		岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		II	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
	死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
	出現種類数	14	17	10	19	25	19	21
	主な出現種 (被度5%以上)	-	ミドリイシ属(テープ)属状 5%	-	ミドリイシ属(テープ)属状 25%	ミドリイシ属(被覆状) 10%	コモンサンゴ属(被覆状) 5%	ミドリイシ属(テープ)属状 10%
						コモンサンゴ属(被覆状) 5%		ミドリイシ属(被覆状) 5%
	生育型	V	II	V	II	V	V	II
	サンゴ加入度	I	I	I	II	II	II	II
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	-	238, 50, 40, 34, 25	-	256, 240, 105, 100, 80	100, 15	108, 100, 70, 68, 60	150, 110, 90, 80, 80
	オニヒトデの観察个体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
	その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
海藻草類	被度	60%	55%	50%	60%	40%	55%	45%
	出現種類数	58	55	42	65	67	41	59
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	10%	<5%
	主な藻場構成種	ホシダケ属 <5%	キレハモク <5%	キレハモク <5%	キレハモク <5%	キレハモク <5%	キレハモク 10%	キレハモク <5%
		キレハモク <5%	オハクサ属 <5%		オハクサ属 <5%	オハクサ属 <5%		オハクサ属 <5%
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	<5%	<5%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	0%
	主な出現種	ウミアザミ科 <5%	ウミアザミ科 <5%	-	ウネケ属 <5%	ウミアザミ科 <5%	-	-
備考		特になし	特になし	ホシダケ属に浮泥が堆積。	特になし	枠外周辺にテープ)属大型サンゴあり。	枠外周辺にテープ)属大型サンゴあり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をはいても濡らない、II：はたと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 生育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テープ)属状ミドリイシ優占)、III(枝状、テープ)属状ミドリイシ混成)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワカボシ)優占)  
 7. サンゴ加入度(群体系数/㎡)：I(なし)、II(<5群体系)、III(5群体系)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体系が見える)、III(大きく食害のある群体系が目立つが100個体以上の群体系はみられない)、IV(脆死群体系が目立ち、群体系が散見される)  
 9. 白化の段階：「0」:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%

表-6.12.18 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (夏季)

調査地点		C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日		令和3年8月24日	令和3年8月24日	令和3年8月24日	令和3年9月3日	令和3年9月2日	令和3年9月3日	令和3年8月30日
水深		8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観		岩盤、巨礫	巨礫、砂	巨礫	岩盤	岩盤	岩盤	巨礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
	死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%
	出現種類数	13	13	10	19	16	20	8
	主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	ミドリイシ属(テフ*状) 10%	-	ミドリイシ属(テフ*状) 20%	-
	成育型	V	V	V	II	V	II	V
	サンゴ加入度	I	I	I	I	I	I	I
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	63, 48, 44, 33	-	-	291	-	328	-
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I	I(なし)	I	I(なし)
	その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	50%	35%	55%	55%	35%	45%	25%
	出現種類数	54	60	49	60	58	58	35
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	ホンダ*ワラ属 <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%	オハ*クサ属 <5%	キレハ*モク <5%	マクサ <5%	ホンダ*ワラ属 <5%
		キレハ*モク <5%			マクサ <5%			キレハ*モク <5%
		オハ*クサ属 <5%						ヒイラギ*モク <5%
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
付着藻類被度	20%	20%	20%	<5%	<5%	<5%	<5%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	0%	0%	<5%	<5%	<5%
	主な出現種	クミアザ*ミ科 <5%	チヂ*ミツカ科 <5%	-	-	カト*カ属 <5%	カト*カ属 <5%	クミアザ*ミ科 <5%
備考		枠外周辺にテフ*状大型*コ*あり。	特になし	特になし	特になし	枠外周辺にテフ*状大型*コ*あり。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても濡らない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テフ\*状ミドリイシ優占)、III(枝状、テフ\*状ミドリイシ混成)、IV(特定種優占)、V(多種混成)、VI(ワトコ\*優占)  
 7. \*コ\*加入度(群體数/㎡)：I(なし)、II(<5群體)、III(>5群體)  
 8. \*コ\*食巻貝類による\*コ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群體が散見)、III(大きく食害のある群體が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(酪死群體が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. 白化の段階：I0:<1%、I1:1~10%、I2:10~50%、I3:50~90%、I4:>90%



表-6.12.18 (2) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (夏季)

調査地点		C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日		令和3年9月2日	令和3年9月1日	令和3年9月1日	令和3年8月30日	令和3年8月31日	令和3年8月31日	令和3年8月31日
水深		4.3m	3.6m	3.9m	5.3m	10.8m	9.3m	7.7m
底質概観		岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
	死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
	出現種類数	14	18	11	20	28	20	21
	主な出現種 (被度5%以上)	-	ミドリイシ属(テプ*状) 5%	-	ミドリイシ属(テプ*状) 25%	ミドリイシ属(被覆状) 10%	コモンワコ*属(被覆状) 5%	ミドリイシ属(テプ*状) 10%
						コモンワコ*属(被覆状) 5%		ミドリイシ属(被覆状) 5%
	成育型	V	II	V	II	V	V	II
	サンゴ加入度	I	I	I	II	I	II	I
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	-	238, 53, 40, 34, 25	-	257, 240, 105, 100, 80	100, 15	114, 112, 76, 73, 60	153, 114, 90, 85, 84
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	65%	60%	50%	55%	40%	35%	45%
	出現種類数	57	60	49	50	50	40	56
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%	ケレハ*モク <5%
		マクサ <5%	マクサ <5%	マクサ <5%	マクサ <5%			
	食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	<5%	<5%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
	主な出現種	ウミアサ*ミ科 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	ウレツカ属 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	-	カトサカ属 <5%
備考	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	枠外周辺にテプ*状大型ワコ*あり。	枠外周辺にテプ*状大型ワコ*あり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても濡らない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テプ\*状ミドリイシ優占)、III(枝状、テプ\*状ミドリイシ混成)、IV(特定型優占)、V(多様混成)、VI(ワコ\*属優占)  
 7. ワコ\*加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(>5群体)  
 8. ワコ\*食巻貝類によるワコ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(酪死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. 白化の段階：I0:<1%、I1:1~10%、I2:10~50%、I3:50~90%、I4:>90%

表-6.12.19 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (秋季)

調査地点		C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日		令和3年10月6日	令和3年10月11日	令和3年10月4日	令和3年10月27日	令和3年10月11日	令和3年10月27日	令和3年10月11日
水深		8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観		岩盤、巨礫	巨礫、砂	巨礫	岩盤	岩盤	岩盤	巨礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
	死亡被度	0%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	0%
	出現種類数	15	12	12	18	16	20	9
	主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	ミドリイシ属(テプ) #状) 10%	-	ミドリイシ属(テプ) #状) 20%	-
	成育型	V	V	V	II	V	II	V
	サンゴ加入度	I	I	I	I	I	I	I
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	78, 61, 54, 45, 14	-	-	289	-	333	-
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I	I (なし)	I (なし)	I (なし)
	その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	35%	20%	55%	45%	15%	35%	30%
	出現種類数	50	52	66	57	59	47	42
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	キレハモク <5%	キレハモク <5%	キレハモク <5%	ホンダウラ属 <5%	キレハモク <5%	ホンダウラ属 <5%	ホンダウラ属 <5%
		オハクサ属 <5%		オハクサ属 <5%	オハクサ属 <5%		オハクサ属 <5%	キレハモク <5%
	食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	20%	<5%	<5%	20%	<5%	10%	
ソフトコーラ	被度	<5%	0%	0%	0%	<5%	<5%	<5%
	主な出現種	クミザミ科 <5%	-	-	-	カトサカ属 <5%	カトサカ属 <5%	クミザミ科 <5%
備考		枠外周辺にテプ #状大型サゴ あり。	特になし	特になし	特になし	枠外周辺にテプ #状大型サゴ あり。 ソフトコーラ類に部分死を確認。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石（等身大以上）、巨礫（等身大～人頭大）、大礫（人頭大～こぶし大）、小礫（こぶし大～米粒大）、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても濡らない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に（厚く）堆積している  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I（枝状ミドリイシ優占）、II（テプ #状ミドリイシ優占）、III（枝状、テプ #状ミドリイシ混成）、IV（特定類優占）、V（多種混成）、VI（ワトコウ #優占）  
 7. サゴ加入度（群数 / m<sup>2</sup>）：I（なし）、II（5群体）、III（25群体）  
 8. サゴ食巻貝類によるサゴ類の食害：I（食痕目立たない）、II（食害のある群体が散見）、III（大きく食害のある群体が目立つ100個体以上の貝集団はみられない）、IV（酪死群体が目立ち、貝集団が散見される）  
 9. 白化の段階：T0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%

表-6. 12. 19 (2) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (秋季)

調査地点		C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日		令和3年10月26日	令和3年10月20日	令和3年10月20日	令和3年10月4日	令和3年10月21日	令和3年10月21日	令和3年10月21日
水深		4. 3m	3. 6m	3. 9m	5. 3m	10. 8m	9. 3m	7. 7m
底質概観		岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
	死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
	出現種類数	15	18	12	20	28	22	21
	主な出現種 (被度5%以上)	-	ミドリイシ属(テプ*ル状) 5%	-	ミドリイシ属(テプ*ル状) 25%	ミドリイシ属(被覆状) 10%	コモンショ*属(被覆状) 5%	ミドリイシ属(テプ*ル状) 10%
						コモンショ*属(被覆状) 5%		ミドリイシ属(被覆状) 5%
	成育型	V	II	V	II	V	V	II
	サンゴ加入度	I	I	I	I	I	I	I
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	-	239, 52, 40, 34, 26	-	257, 240, 105, 100, 80	100, 15	119, 117, 76, 75, 60	148, 110, 93, 85, 84
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	55%	50%	25%	40%	40%	35%	30%
	出現種類数	70	59	57	53	48	49	52
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	ホンタ*ワラ属 <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%	キレハ*モク <5%
		キレハ*モク <5%	オハ*クサ属 <5%		オハ*クサ属 <5%	オハ*クサ属 <5%		
		オハ*クサ属 <5%	マクサ <5%		マクサ <5%			
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	20%	<5%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	0%
	主な出現種	ウミアサ*ミ科 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	ウレタ*カ属 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%	-	-
備考		特になし	特になし	特になし	特になし	枠外周辺にテプ*ル状大型ウレタ*カあり。	枠外周辺にテプ*ル状大型ウレタ*カあり。	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をたいても濡らない、II：はたくと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している  
 4. 被度：<1%、<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テプ\*ル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テプ\*ル状ミドリイシ混成)、IV(特定型優占)、V(多様混成)、VI(ワラ\*属優占)  
 7. ウレタ\*カ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(>5群体)  
 8. ウレタ\*カ食巻貝類によるウレタ\*カ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(酪死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. 白化の段階：T0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%

表-6. 12. 20 (1) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (冬季)

調査地点		C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7
調査日		令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月7日	令和3年12月2日	令和3年12月7日	令和3年12月2日
水深		8.6m	7.0m	3.9m	3.8m	7.9m	4.8m	10.1m
底質概観		岩盤、巨礫	巨礫、砂	巨礫	岩盤	岩盤	岩盤	巨礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	<5%	<5%	15%	<5%	25%	<5%
	死亡被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%
	出現種類数	14	13	12	19	16	20	9
	主な出現種 (被度5%以上)	-	-	-	ミドリイシ属(テフ*状) 10%	-	ミドリイシ属(テフ*状) 20%	-
	成育型	V	V	V	II	V	II	V
	サンゴ加入度	II	II	I	I	I	I	I
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	78, 61, 54, 45, 14	-	-	289	-	333	-
	オニヒトデの観察个体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I	I (なし)	I	I (なし)
	その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	40%	15%	60%	55%	20%	40%	20%
	出現種類数	52	52	57	54	55	50	36
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	クレハモク <5%	ホンダ*ウラ属 <5%	ホンダ*ウラ属 <5%	ホンダ*ウラ属 <5%	ホンダ*ウラ属 <5%	ホンダ*ウラ属 <5%	ホンダ*ウラ属 <5%
		オハ*クサ属 <5%	クレハモク <5%	オハ*クサ属 <5%	オハ*クサ属 <5%	オハ*クサ属 <5%	オハ*クサ属 <5%	クレハモク <5%
	食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
付着藻類被度	<5%	20%	<5%	<5%	20%	<5%	10%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%
	主な出現種	ウミアサ*ミ科 <5%	チ*ミソカ科 <5%	チ*ミソカ科 <5%	-	カタサカ属 <5%	カタサカ属 <5%	ウミアサ*ミ科 <5%
備考		格外周辺にテフ*状大型ワコ*あり。	ケル*イシ属、カノ*ケル*イシ属の部分死を数群確認。	特になし	特になし	格外周辺にテフ*状大型ワコ*あり。	特になし	特になし

(注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石（等身大以上）、巨礫（等身大～人頭大）、大礫（人頭大～こぶし大）、小礫（こぶし大～米粒大）、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I」：海底面をはいでも濡らない、II：はたとく濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に（厚く）堆積している」  
 4. 被度：<1%、5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I（枝状ミドリイシ優占）、II（テフ\*状ミドリイシ優占）、III（枝状、テフ\*状ミドリイシ混成）、IV（特定種優占）、V（多種混成）、VI（ワコ\*優占）  
 7. ワコ\*加入度（群体数 / m）：I（なし）、II（5群体）、III（≧5群体）  
 8. ワコ\*食巻貝類によるワコ\*類の食害：I（食痕目立たない）、II（食害のある群体が散見）、III（大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない）、IV（犠死群体が目立ち、貝集団が散見される）  
 9. 白化の段階：「0」:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%

表-6. 12. 20 (2) サンゴ類・海藻草類定点調査結果概要 (冬季)

調査地点		C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14
調査日		令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日
水深		4.3m	3.6m	3.9m	5.3m	10.8m	9.3m	7.7m
底質概観		岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	生存被度	<5%	10%	<5%	30%	20%	15%	20%
	死亡被度	<5%	<5%	0%	<5%	<5%	0%	<5%
	出現種類数	15	18	13	21	28	22	20
	主な出現種 (被度5%以上)	-	ミドリイシ属(テプ'状) 5%	-	ミドリイシ属(テプ'状) 25%	ミドリイシ属(被覆状) 10%	コモンサンゴ属(被覆状) 5%	ミドリイシ属(テプ'状) 10%
						コモンサンゴ属(被覆状) 5%		ミドリイシ属(被覆状) 5%
	成育型	V	II	V	II	V	V	II
	サンゴ加入度	I	I	I	II	II	II	II
	卓状ミドリイシの最大径(cm)	-	239, 54, 41, 34, 27	-	257, 240, 105, 100, 80	100, 16	119, 117, 80, 76, 60	138, 114, 93, 85, 84
	オニヒトデの観察個体数	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	サンゴ食巻貝類による食害の状況	I(なし)	I	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
その他食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
病気の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
白化段階	0	0	0	0	0	0	0	
海藻草類	被度	55%	30%	35%	50%	45%	60%	40%
	出現種類数	44	52	48	61	49	47	51
	藻場被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な藻場構成種	ホンダ'ワラ属 <5%	ホンダ'ワラ属 <5%	ホンダ'ワラ属 <5%	キレバ'モク <5%	キレバ'モク <5%	ホンダ'ワラ属 <5%	キレバ'モク <5%
		キレバ'モク <5%	キレバ'モク <5%	キレバ'モク <5%	オハ'クサ属 <5%	キレバ'モク <5%	キレバ'モク <5%	オハ'クサ属 <5%
		オハ'クサ属 <5%	オハ'クサ属 <5%	オハ'クサ属 <5%	マクサ <5%			
食害の状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
付着藻類被度	<5%	10%	20%	0%	<5%	20%	<5%	
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	0%
	主な出現種	ウミアサ'ミ科 <5%	ウミアサ'ミ科 <5%	ウミアサ'ミ科 <5%	ウネタ'ク属 <5%	ウミアサ'ミ科 <5%	-	-
					ウミアサ'ミ科 <5%	カト'サカ属 <5%		
備考	特になし	特になし	特になし	枠外周辺にテプ'状大型サンゴあり。	枠外周辺にテプ'状大型サンゴあり。	枠外周辺にテプ'状大型サンゴあり。	特になし	

(注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 底質：岩盤、転石（等身大以上）、巨礫（等身大～人頭大）、大礫（人頭大～こぶし大）、小礫（こぶし大～米粒大）、砂礫、砂、砂泥、泥  
 3. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはいいても濡らない、II：はたと濡る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に（厚く）堆積している」  
 4. 被度：<1%、5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. 主な出現種は被度の上位3種を示す。  
 6. 成育型：I（枝状ミドリイシ優占）、II（テプ'状ミドリイシ優占）、III（枝状、テプ'状ミドリイシ混成）、IV（特定種優占）、V（多種混成）、VI（ワラ'ワラ優占）  
 7. ワ'加入度（群体数 / m<sup>2</sup>）：I（なし）、II（5群体）、III（≧5群体）  
 8. ワ'食巻貝類によるワ'類の食害：I（食痕目立たない）、II（食害のある群体が散見）、III（大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない）、IV（犠死群体が目立ち、貝集団が散見される）  
 9. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」

表-6. 12. 21 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7	
調査日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月14日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月9日	
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、転石	砂、巨礫	岩盤、小礫	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%	
	主な出現種	ミドリイシ属(テブ*ル状) <5%	サザナミサンゴ属 <5%	コモンサンゴ属 <5%	ミドリイシ属(テブ*ル状) 10%	ミドリイシ属(テブ*ル状) <5%	カメノキメイト属 <5%	スリバチサンゴ属 <5%
		カメノキメイト属 <5%	ナガレサンゴ属 <5%	ハマサンゴ属 <5%	ハマサンゴ属(被覆状) <5%	アササンゴ属 <5%	ネケメイト属 <5%	ミドリイシ属(テブ*ル状) <5%
		アササンゴ属 <5%	カメノキメイト属 <5%	スリバチサンゴ属 <5%	トゲネケメイト属 <5%	カメノキメイト属 <5%	ナリサンゴ属 <5%	カメノキメイト属 <5%
	成育型	V	V	V	II	V	V	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリイシ属(テブ*ル状)のサイズ上位5群体(cm)	50, 40, 34	40	22, 18	100, 80, 40, 40, 20	27	—	21	
海藻草類	被度	15%	50%	40%	40%	50%	20%	
	主な出現種	アジシ*グ*属 5%	フタエオキ* 20%	フタエオキ* 25%	サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) 10%	ウカサギ 20%	フタエオキ* 15%	アジシ*グ*属 15%
		サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) 5%	アジシ*グ*属 20%	ウカサギ 5%	ソ*属 10%	フタエオキ* 15%	ウカサギ <5%	キハス*グ*属 15%
フタエオキ* <5%		ウカサギ <5%	アジシ*グ*属 <5%	アジシ*グ*属 5%	アジシ*グ*属 <5%	アジシ*グ*属 <5%	サゴ*モ目(無節サゴ*モ類) <5%	
藻場	被度	0%	<5%	<5%	0%	0%	<5%	
	主な出現種	—	ホク*ワ属 <5%	ホク*ワ属 <5%	—	—	—	
ソフト類コーラ	被度	0%	0%	0%	0%	<5%	0%	
	主な出現種	—	—	—	—	カト*カ属 <5%	—	
ヒト*の観察個体数	0	0	0	0	0	0		
サゴ*食巻貝類によるサゴ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)		
特記事項	特になし	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテブ*ル状サゴ*あり。	特になし	特になし		

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サゴ\*類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブ\*ル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブ\*ル状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ワコーラ\*優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1～10%、2:10～50%、3:50～90%、4:>90%」  
 7. サゴ\*加入度(群体数 / n)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サゴ\*食巻貝類によるサゴ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 21 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点		St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14
調査日		令和3年5月9日	令和3年5月9日	令和3年5月13日	令和3年5月9日	令和3年5月13日	令和3年5月14日	令和3年5月14日
底質概観		砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	II
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%
	主な出現種	ハマサンゴ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	ミドリイシ属(テブ#状) <5%	ミドリイシ属(テブ#状) <5%	ミドリイシ属(テブ#状) <5%	ミドリイシ属(テブ#状) <5%	ハマサンゴ属(塊状) <5%
		キクメイシ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%	トゲキクメイシ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%	ハマサンゴ属 <5%
		カメノキメイシ属 <5%		キクメイシ属 <5%	ショウガサンゴ属 <5%	アササンゴ属 <5%	アササンゴ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	II	I
ミドリイシ属(テブ#状)のサイズ上位5群体(cm)	—	—	27	110	73, 56, 41, 29	120, 50, 30, 22, 11	—	
海藻草類	被度	15%	50%	30%	30%	40%	30%	50%
	主な出現種	フタエオキ* 5%	フタエオキ* 35%	フタエオキ* 10%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 15%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 15%	フタエオキ* 10%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 15%
		アジ*グ*サ <5%	ウカサミ 5%	アサ属 <5%	アジ*グ*サ属 <5%	フタエオキ* 10%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 10%	アジ*グ*サ属 10%
ウカサミ <5%		アジ*グ*サ属 <5%	ウカサミ <5%	イソカワ科 <5%	アジ*グ*サ属 <5%	ウカサミ <5%	フタエオキ* 5%	
藻場	被度	<5%	<5%	5%	<5%	<5%	<5%	<5%
	主な出現種	ホヅ*ワ属 <5%	ホヅ*ワ属 <5%	ホヅ*ワ属 5%	ホヅ*ワ属 <5%	ホヅ*ワ属 <5%	ホヅ*ワ属 <5%	ホヅ*ワ属 <5%
ソフトコーラ	被度	<5%	<5%	0%	<5%	0%	<5%	0%
	主な出現種	カサカサ属 <5%	ウツク属 <5%	—	ウツク属 <5%	—	チ*ミサカ科 <5%	—
ヒトデの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
サコ*食巻貝類によるサコ*類の食害		I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項		特になし	特になし	岩盤上は局所的にホヅ*ワ属繁茂。気泡を持ったホヅ*ワ属を確認。	アサ*グ*サを1個体確認。	特になし	周囲に1mを超えるテブ#状サコ*あり。	局所的にホヅ*ワ属が繁茂する巨礫あり。

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サコ\*類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブ#状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブ#状ミドリイシ混生)、IV(特定型優占)、V(多種混成)、VI(ワコ\*ワ#優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. サコ\*加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サコ\*食巻貝類によるサコ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 21 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点		St. 15	St. 16	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21
調査日		令和3年5月14日	令和3年5月14日	令和3年5月13日	令和3年5月13日	令和3年5月13日	令和3年5月10日	令和3年5月13日
底質概観		砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
	主な出現種	ハマサンゴ属(塊状) <5%	ミドリイシ属(テブル状) 15%	ミドリイシ属(テブル状) 35%	ミドリイシ属(テブル状) 5%	ミドリイシ属(枝状) 20%	ミドリイシ属(テブル状) <5%	チナミサンゴ属 5%
		キクメイシ属 <5%	アナサンゴ属 <5%	ニカミドリイシ属(被覆状) <5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	ミドリイシ属(テブル状) 10%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	コモンサンゴ属(被覆状) 5%
		カモノキクメイシ属 <5%	カモノキクメイシ属 <5%	ハマチサンゴ属 <5%	カモノキクメイシ属 <5%	シロハチサンゴ属 <5%	ショウガサンゴ属 <5%	ハマチサンゴ属 <5%
	成育型	V	II	II	V	III	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	II	II	II	II	II	I
ミドリイシ属(テブル状)のサイズ上位5群体(cm)	—	140, 61	180, 150, 100, 80, 80	90	110, 28, 20, 12, 11	70, 58, 35, 33, 30	—	
海藻草類	被度	10%	30%	35%	60%	40%	30%	40%
	主な出現種	ウチワミ <5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 10%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 10%	イゲス科 20%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 20%	ハイトキ属 5%	ウチワミ 15%
		ウチワミ <5%	ハイトキ属 10%	ウヅ属 5%	イバラリ属 15%	ハイトキ属 10%	藍藻綱 5%	ウチワミ 15%
		サンゴモ目(無節サンゴモ類) <5%	ウチワミ <5%	イバラリ属 5%	ウチワミ 10%	ウチワミ科 <5%	微小紅藻類 5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) <5%
藻場	被度	<5%	0%	<5%	<5%	0%	0%	0%
	主な出現種	ホトケウザ類 <5%	—	ホトケウザ属 <5%	ホトケウザ属 <5%	—	—	—
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	<5%	0%	0%	0%
	主な出現種	—	—	—	カトカ属 <5%	—	—	—
ヒトデの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害		I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I	I(なし)	I(なし)
特記事項		特になし	特になし	特になし	特になし	ゴブシ5個体の産卵行動確認。	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブル状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ワコラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。



表-6. 12. 21 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点		St. 22	St. 23	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28
調査日		令和3年5月13日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月15日	令和3年5月10日
底質概観		岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%	45%
	主な出現種	ミドリイシ属(テブム状) 10%	ミドリイシ属(テブム状) 5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	ミドリイシ属(テブム状) 40%	ミドリイシ属(テブム状) <5%	ミドリイシ属(テブム状) 40%	ミドリイシ属(テブム状) 30%
		ミドリイシ属(被覆状) 10%	ハナヤシサンゴ属 5%	カモノキス属 <5%	ハナヤシサンゴ属 <5%	ニオミドリイシ属(被覆状) <5%	ショウカサンゴ属 <5%	ミドリイシ属(被覆状) 10%
		ミドリイシ属(樹枝状) 5%	ノカサンゴ属 <5%	キヌメ属 <5%	ニオミドリイシ属(被覆状) <5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	ハナヤシサンゴ属 <5%	ハナヤシサンゴ属 <5%
	成育型	II	V	V	II	V	II	V
	白化段階	0	0	0	1	0	1	0
	加入度	II	I	I	II	II	III	II
ミドリイシ属(テブム状)のサイズ上位5群体(cm)	110, 90, 70	110	—	240, 200, 180, 100, 100	100, 30, 28, 23	320, 200, 120, 100, 80	240, 180, 180, 120, 100	
海藻草類	被度	40%	30%	50%	35%	50%	30%	20%
	主な出現種	キノモ目(無節キノモ類) 20%	ワカサギ 10%	フタエオキ 15%	微小紅藻類 20%	フタエオキ 15%	キノモ目(無節キノモ類) 15%	微小紅藻類 5%
		ハヤオキ属 10%	キノモ目(無節キノモ類) 5%	アジダタ属 10%	キノモ目(無節キノモ類) 10%	ハヤオキ属 10%	キハダ属 <5%	キノモ目(無節キノモ類) 5%
		ワカサギ科 <5%	藍藻綱 <5%	キノモ目(無節キノモ類) 10%	サキケリ <5%	キノモ目(無節キノモ類) 5%	リゾ属 <5%	キハダ属 <5%
藻場	被度	<5%	0%	0%	0%	0%	<5%	0%
	主な出現種	ヒダマシ属 <5%	—	—	—	—	ハバクシ属 <5%	—
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	—	—	—	—	—	—	—
ヒビクの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
キノモ食巻貝類によるキノモ類の食害		I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項		特になし	ワカサギを1個体確認。	特になし	食害とおもわれる群体を確認。	特になし	特になし	特になし

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブム状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブム状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ワカサギ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1～10%、2:10～50%、3:50～90%、4:>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数/nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるキノモ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 21 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：春季)

調査地点		St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33
調査日		令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月10日	令和3年5月15日
底質概観		岩盤、小礫	岩盤、大礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	10%	5%	45%	5%	20%
	主な出現種	ミドリイシ属(テブム状) 5%	ミドリイシ属(テブム状) <5%	ミドリイシ属(テブム状) 40%	ミドリイシ属(テブム状) <5%	ミドリイシ属(テブム状) 10%
		キタメシ属 <5%	コモンサンゴ属 <5%	ショウガサンゴ属 <5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%
		トゲキタメシ属 <5%	アササンゴ属 <5%	コモンサンゴ(被覆状) <5%	トゲキタメシ属 <5%	ショウガサンゴ属 <5%
	成育型	II	V	II	II	II
	白化段階	0	0	0	0	0
	加入度	I	II	II	II	II
ミドリイシ属(テブム状)のサイズ上位5群体(cm)	60, 53, 47, 37	42, 23	500, 400, 100, 90, 40	110, 41	70, 44, 43, 20, 13	
海藻草類	被度	30%	35%	20%	60%	30%
	主な出現種	フタエオキ 15%	フタエオキ 10%	微小紅藻類 10%	フタエオキ 20%	微小紅藻類 15%
		サンゴモ目(無節サンゴモ類) 5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 10%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 5%	藍藻綱 15%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 5%
アサギクサ属 <5%		ウカサマ 5%	イワカサ科 <5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 10%	ツグ属 <5%	
藻場	被度	<5%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	ホタテワ属 <5%	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	<5%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	ウツクサ属 <5%	-	-	-	-
ホタテの観察個体数		0	0	0	0	0
サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害		I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)
特記事項		特になし	特になし	特になし	特になし	食害の可能性のある最近死亡した2群体を確認。

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブム状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブム状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / n)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.22 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：春季)

調査地点		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日		令和3年5月4日	令和3年5月4日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月19日
水深		17.5m	28.6m	29.1m	23.1m	29.6m	27.5m	23.1m
底質概観		大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
	主な出現種	カメノキメシ属 5~25%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	特になし	ウツノメノキメシ属 <5%
		キメシ属 <5%	カメノキメシ属 <5%	ウツノメノキメシ属 <5%	カメノキメシ属 <5%	カメノキメシ属 <5%		カメノキメシ属 <5%
		ノサンゴ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	カメノキメシ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%		キメシ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	-	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリシ属(テブメ状)のサイズ上位5群体(cm)	10, 15, 15, 20, 30(推定値)	なし	なし	15(推定値)	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	50~75%	25~50%	25~50%	25~50%	5~25%	0%	5~25%
	主な出現種	フクロコキ 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25%	特になし	フクロコキ 5~25%
		ヒラカワガラ 5~25%	フクロコキ属 5~25%	フクロコキ属 5~25%	フクロコキ属 5~25%	フクロコキ属 5~25%		フクロコキ属 <5%
藍藻綱 5~25%		微小紅藻類 5~25%	フクロコキ <5%	フクロコキ 5~25%	フクロコキ <5%		藍藻綱 <5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ヒトシテの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害		I	I	I	I	I	-	I
特記事項		塊状や被覆状のサンゴ群体が目立つ。海藻類は礫上に生育。	特になし	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。生息するサンゴ類は被覆状の群体が多い。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。

注) 1. 水深は、T.M.S.L(東京湾平均海面)表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テブメ状ミドリシ優占)、III(枝状、テブメ状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウモリ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数/㎡)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St.1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.22 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：春季)

調査地点		R8	R9	R10	R11
調査日		令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日	令和3年5月3日
水深		26.4m	26.5m	23.7m	26.2m
底質概観		砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況		I	I	I	I
サンゴ類	被度	0%	0%	<5%	0%
	主な出現種	特になし	特になし	キメイシ属 <5%	特になし
				カミノキメイシ属 <5%	
				スリバチサンゴ属 <5%	
	成育型	-	-	V	-
	白化段階	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I
ミドリイシ属(テープ状)の #1以上5群体(cm)	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	0%	0%	5~25%	0%
	主な出現種	特になし	特になし	7種属 5~25%	特になし
				ツカサミ 5~25%	
藍藻綱 5~25%					
藻場	被度	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-
ワヒトテの観察個体数		0	0	0	0
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害		I	I	I	I
特記事項		砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。アナゴ科の魚類が砂地から多数顔を出す。	特になし	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。

注) 1. 水深は、T.M.S.L (東京湾平均海面) 表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テープ状ミドリイシ優占)、III(枝状、テープ状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウモリ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 23 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7								
調査日	令和3年8月20日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日								
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m								
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂礫	砂、巨礫	岩盤、小礫								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テープル状)	<5%	コヒサンゴ属(被覆状)	<5%	コヒサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(テープル状)	10%	ナミサンゴ属	<5%	カニコケミイシ属	<5%	スリハチサンゴ属	<5%
		カニコケミイシ属	<5%	アササンゴ属	<5%	ハマサンゴ属	<5%	コヒサンゴ属	<5%	ネケミイシ属	<5%	ネケミイシ属	<5%	ミドリイシ属(テープル状)	<5%
		アササンゴ属	<5%	カニコケミイシ属	<5%	スリハチサンゴ属	<5%	トゲネケミイシ属	<5%	カニコケミイシ属	<5%	リュウキュウネケミイシ属	<5%	カニコケミイシ属	<5%
	成育型	V	V	V	II	V	V	V							
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0							
	加入度	I	I	I	I	I	I	I							
ミドリイシ属(テープル状)の イシ'上位5群体(cm)	60, 55	25	-	180, 80, 70	-	-	23								
海藻草類	被度	20%	50%	30%	40%	40%	20%								
	主な出現種	フタエオキ'	10%	フタエオキ'	30%	フタエオキ'	10%	ヤスダケ''	15%	フタエオキ'	20%	フタエオキ'	10%	ヤスダケ''	15%
		サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	5%	ウカサマ	5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	5%	ウカサマ	5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	5%	アジシ'ク''	<5%
アジシ'ク''		<5%	ウカサマ	<5%	アジシ'ク''	<5%	ウカサマ	5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	5%	ウカサマ	<5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類)	<5%	
藻場	被度	<5%	0%	0%	0%	0%	<5%								
	主な出現種	ホンダ'ワ''	<5%	-	-	-	-	ホンダ'ワ''	<5%	ホンダ'ワ''	<5%	ホンダ'ワ''	<5%		
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	<5%								
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	カトサ''	<5%						
ホトト'の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
サンゴ'食巻貝類による サンゴ'類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	特になし	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテープル状サンゴ'あり。	周囲に1mを超えるテープル状サンゴ'あり。	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ'類成育型：I(枝状ミドリイシ'優占)、II(テープル状ミドリイシ'優占)、III(枝状、テープル状ミドリイシ'混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ'優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ'加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ'食巻貝類によるサンゴ'類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 23 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14	
調査日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月19日	令和3年8月16日	
水深	16.4m	12.4m	13.6m	4.6m	8.5m	6.8m	4.5m	
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂	
浮泥堆積状況	II	I	I	I	I	I	II	
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%
	主な出現種	スリバチンコ属 <5%	スリバチンコ属 <5%	ミドリイシ属(テープル状) <5%	ミドリイシ属(テープル状) <5%	ミドリイシ属(テープル状) <5%	ミドリイシ属(テープル状) <5%	ハマサンゴ属(塊状) <5%
		キクメイシ属 <5%	カニコキクメイシ属 <5%	スリバチンコ属 <5%	スリバチンコ属 <5%	スリバチンコ属 <5%	カニコキクメイシ属 <5%	コモサンゴ属 <5%
		カニコキクメイシ属 <5%		キクメイシ属 <5%	ショウガサンゴ属 <5%	コモサンゴ属(被覆状) <5%	アササンゴ属 <5%	ミドリイシ属(被覆状) <5%
	成育型	V	V	V	V	V	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	II	I	I
ミドリイシ属(テープル状)の イシ'上位5群体(cm)	—	—	22	53, 38	45, 22	130, 67, 66, 55, 40	—	
海藻草類	被度	15%	40%	30%	30%	40%	30%	50%
	主な出現種	フクロオキ' 5%	フクロオキ' 15%	フクロオキ' 10%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) 15%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) 10%	フクロオキ' 10%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) 15%
		アジ'ガ'キ属 <5%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) 10%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) <5%	ハズ'ガ'キ属 <5%	フクロオキ' 10%	サンゴ'モ目(無節サンゴ'モ類) 10%	ハチオキ'属 10%
ワカサミ <5%		ワカサミ科 5%	ワカサミ <5%	ワカ'属 <5%	ハズ'ガ'キ属 <5%	ハズ'ガ'キ属 <5%	フクロオキ' 5%	
藻場	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	
	主な出現種	ホン'ガ'ワ属 <5%	ホン'ガ'ワ属 <5%	ホン'ガ'ワ属 <5%	ホ'ク'属 <5%	ホン'ガ'ワ属 <5%	ホン'ガ'ワ属 <5%	ホン'ガ'ワ属 <5%
ソフト コーラ	被度	0%	0%	0%	<5%	<5%	0%	
	主な出現種	-	-	-	ウツク属 <5%	フ'ミ'サカ科 <5%	フ'ミ'サカ科 <5%	-
ホト'テ'の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サンゴ'食巻貝類による サンゴ'類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	特になし	テープル状サンゴ'が一部欠落。	特になし	周囲に1mを超えるテープル状サンゴ'あり。	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底下をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ'類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テープル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テープル状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ワトコロ'優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ'加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ'食巻貝類によるサンゴ'類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 23 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 15	St. 16	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21	
調査日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	
水深	15.3m	9.0m	1.7m	10.3m	4.4m	9.9m	15.9m	
底質概観	砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤	岩盤	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
	主な出現種	トゲキメシ属 <5%	ミドリシ属(テブ*状) 15%	ミドリシ属(テブ*状) 35%	ミドリシ属(テブ*状) 5%	ミドリシ属(枝状) 15%	ミドリシ属(テブ*状) <5%	サナギサンゴ属 5%
		キクメシ属 <5%	アサシコ属 <5%	ニホミドリシ属(被覆状) <5%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	ミドリシ属(テブ*状) 15%	コモンサンゴ属(被覆状) <5%	イサシコ属 5%
		カニコキメシ属 <5%	カニコキメシ属 <5%	ハナサシコ属 <5%	カニコキメシ属 <5%	ミドリシ属(被覆状) <5%	ショウガサンゴ属 <5%	ハナサシコ属 5%
	成育型	V	II	II	V	III	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	II	II	II	II	I
ミドリシ属(テブ*状)の サイズ上位5群体(cm)	—	120, 60, 40, 34, 23	180, 150, 100, 80, 80	95	300, 120, 110, 50	70, 45, 40, 37, 30	—	
海藻草類	被度	10%	30%	35%	20%	40%	30%	40%
	主な出現種	ウツギミ <5%	フエオキ* 10%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 10%	フエオキ* 10%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) 20%	ハイオキ*属 10%	フエオキ* 20%
		フエオキ* <5%	ハイオキ*属 10%	ソグ*属 5%	ハイオキ*属 <5%	ハイオキ*属 10%	フエオキ* 10%	藍藻綱 5%
ヤス*グ*属 <5%		サコ*モ目(無節サコ*モ類) 5%	イワカキ科 5%	ウツギミ <5%	ヤス*グ*属 <5%	ヤス*グ*属 <5%	サコ*モ目(無節サコ*モ類) <5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	<5%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	ウツギ*属 <5%	-	-
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	<5%	0%	0%	
	主な出現種	-	-	-	カトカ属 <5%	-	-	
サコ*の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サコ*食巻貝類による サコ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	サコ*と思われる食痕あり。	特になし	サコ*と思われる食痕あり。	局所的に高被度なテブ*状ミドリシ群集あり。	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたとく濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サコ\*類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テブ\*状ミドリシ優占)、III(枝状、テブ\*状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サコ\*加入度(群体数 / n): I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サコ\*食巻貝類によるサコ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 23 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 22	St. 23	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28								
調査日	令和3年8月16日	令和3年8月16日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日								
水深	7.2m	14.3m	17.4m	3.1m	11.3m	2.7m	3.8m								
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テプ)属状	10%	ミドリイシ属(テプ)属状	5%	コモンサンゴ属(被覆状)	<5%	ミドリイシ属(テプ)属状	40%	ミドリイシ属(テプ)属状	35%				
		ミドリイシ属(被覆状)	5%	ハナガササンゴ属	5%	カメノキメシ属	<5%	カメノキメシ属	<5%	ニホミドリイシ属(被覆状)	<5%	ショウガサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(被覆状)	5%
		ミドリイシ属(樹枝状)	5%	カメノキメシ属	<5%	ケクメシ属	<5%	ニホミドリイシ属(被覆状)	<5%	コモンサンゴ属(被覆状)	<5%	ハナガササンゴ属	<5%	ハナガササンゴ属	<5%
	成育型	II	V	V	II	V	II	V							
	白化段階	0	0	0	1	0	1	0							
	加入度	II	I	I	II	I	II	II							
ミドリイシ属(テプ)属状の 個体上位5群体の体高(cm)	80, 70, 63, 54, 53	60, 34, 34, 26	73	240, 200, 180, 100, 100	100, 30, 25, 20	310, 130, 127, 120, 110	213, 195, 140, 122, 100								
海藻草類	被度	40%	30%	40%	35%	60%	30%								
	主な出現種	ワカサギ科	10%	フクモクサ	10%	フクモクサ	20%	フクモクサ	20%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	15%	微小紅藻類	5%		
		サンゴモ目(無節サンゴモ類)	5%	藍藻綱	<5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	10%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	10%	ハナガサ属	10%	ハナガサ属	<5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	5%
		ハナガサ属	5%	ハナガサ属	<5%	ハナガサ属	<5%	ツグ属	<5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	5%	ツグ属	<5%	ハナガサ属	<5%
藻場	被度	0%	<5%	0%	0%	0%	<5%								
	主な出現種	-	ホバク属	<5%	-	-	-	ホバク属	<5%	ホバク属	<5%	ホバク属	<5%		
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%								
	主な出現種	-	-	-	-	-	-								
ホビトの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	特になし	特になし	特になし	食害と思われる群体を確認。 ハナガサ科の加入群体を複数確認。	特になし	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一般に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テプ)属状ミドリイシ優占、III(枝状、テプ)属状ミドリイシ混生、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ)優占  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。



表-6. 12. 23 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：夏季)

調査地点	St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33						
調査日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日	令和3年8月20日						
水深	10. 4m	14. 3m	6. 1m	9. 1m	2. 3m						
底質概観	岩盤、小礫	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤、小礫						
浮泥堆積状況	I	I	I	I	II						
サンゴ類	被度	10%	5%	45%	5%	20%					
	主な出現種	ミドリシ属(テフ*状)	5%	ミドリシ属(テフ*状) <5%	ミドリシ属(テフ*状)	40%	ミドリシ属(テフ*状) <5%	ミドリシ属(テフ*状)	10%		
		カメコキメシ属	<5%	コモンサコ*属	<5%	コモンサコ*属(被覆状)	<5%	コモンサコ*属(被覆状)	<5%		
		アサコ*属	<5%	アサコ*属	<5%	コモンサコ* (被覆状)	<5%	トゲキタメシ属	<5%		
	成育型	II	V	II	II	II					
	白化段階	0	0	0	0	0					
	加入度	II	I	II	I	II					
ミドリシ属(テフ*状)のサイズ(上位5群体(cm))	80, 70, 45, 40, 30	78, 67, 42, 41, 16	250, 200, 200, 90, 80	112, 44, 37, 35, 32	80, 80, 80, 60, 30						
海藻草類	被度	30%	35%	20%	60%	30%					
	主な出現種	フタエオキ*	15%	フタエオキ*	20%	微小紅藻類	10%	フタエオキ*	20%	微小紅藻類	15%
		ハイトギ*属	5%	サコ*モ目(無節サコ*モ類)	5%	サコ*モ目(無節サコ*モ類)	5%	ウチサギ	20%	サコ*モ目(無節サコ*モ類)	5%
		サコ*モ目(無節サコ*モ類)	<5%	ウチサギ	<5%	イナカ科	<5%	サコ*モ目(無節サコ*モ類)	10%	ウチ*属	<5%
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%					
	主な出現種	-	-	-	-	-					
ソフトコーラ	被度	<5%	0%	<5%	0%	<5%					
	主な出現種	ウチサギ科	<5%	-	ウチサギ属	<5%	-	ウチサギ属	<5%		
ヒトテ*の観察個体数	0	0	0	0	0						
サコ*食巻貝類によるサコ*類の食害	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)						
特記事項	特になし	特になし	特になし	東側にテフ*状群集有り。	周辺は小礫や砂。						

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ビッチで示す。  
 5. サコ\*類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テフ\*状ミドリシ優占)、III(枝状、テフ\*状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サコ\*加入度(群体数 / nt)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サコ\*食巻貝類によるサコ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：夏季)

調査地点		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日		令和3年8月21日	令和3年8月22日	令和3年8月22日	令和3年8月22日	令和3年8月22日	令和3年8月22日	令和3年8月21日
水深		17.5m	28.6m	29.1m	23.1m	29.6m	27.5m	23.1m
底質概観		大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
	主な出現種	カメノキメイシ属 5~25%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	特になし	カメノキメイシ属 <5%
		キクメイシ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%	ウツノメイシ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%		キクメイシ属 <5%
		ミドリイシ属(テブ)属状 <5%	スリハチサンゴ属 <5%	カメノキメイシ属 <5%	トゲキクメイシ属 <5%	スリハチサンゴ属 <5%		スリハチサンゴ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	-	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリイシ属(テブ)属状のイシ上位5群体(cm)	30, 40, 70, 80, 90(推定値)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	50~75%	25~50%	5~25%	5~25%	5~25%	<5%	5~25%
	主な出現種	フクロクサ 25~50%	ウツノミ 5~25%	藍藻綱 5~25%	ウツノミ 5~25%	ウツノミ 5~25%	ウツノミ <5%	ウツノミ 5~25%
		ヒラカワガラ 5~25%	藍藻綱 5~25%	ウツノミ 5~25%	アサギ属 <5%	アサギ属 <5%	アサギ属 <5%	アサギ属 <5%
ウツノモ目(無節ウツノモ)類 25%		アサギ属 <5%	アサギ属 <5%	ウツノモ目(無節ウツノモ)類 <5%	ウツノモ目(無節ウツノモ)類 <5%		ウツノモ目(無節ウツノモ)類 <5%	
藻場	被度	0	0	0	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0	0	0	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ウツノミの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
ウツノミ食巻貝類によるウツノミ類の食害		I	I	I	I	I	-	I
特記事項		塊状や被覆状のサンゴ群体が目立つ。所々にテブ属状ミドリイシ属が見られる。海藻類は礫上に生育。	特になし	サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。被覆状群体が優占する。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。生息するサンゴ類は被覆状の群が多い。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻がほとんどで着生している海藻は少ない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。

注) 1. 水深は、T.M.S.L(東京湾平均海面)表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. ウツノミ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブ属状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブ属状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. ウツノミ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>): I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. ウツノミ食巻貝類によるウツノミ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.24 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：夏季)

調査地点		R8	R9	R10	R11
調査日		令和3年8月22日	令和3年8月22日	令和3年8月28日	令和3年8月29日
水深		27.0m	25.0m	24.1m	26.0m
底質概観		砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況		I	I	I	I
サンゴ類	被度	0	0	<5%	0
	主な出現種	特になし	特になし	キメイシ属 <5%	特になし
				カミノキメイシ属 <5%	
				スリバチサンゴ属 <5%	
	成育型	-	-	V	-
	白化段階	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I
ミドリイシ属(テップル状)の #1以上5群体系(cm)	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	<5%	0	5~25%	0
	主な出現種	7種属 <5%	特になし	7種属 5~25%	特になし
				ウカサマ 5~25%	
シロオキナ <5%					
藻場	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
ソフトコーラ	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
カビトテの観察個体数		0	0	0	0
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害		I	I	I	I
特記事項		砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。海底にみられる海藻はほとんどが流れ藻で着生していない。	ニザダイの群れが遊泳。サンゴの生息はわずしか見られず。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。アオサ属の流れ藻は見られるが、着生は見られず。

注) 1. 水深は、T.M.S.L (東京湾平均海面) 表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一様に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テップル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テップル状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウサビ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体系数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体系)、III(≧5群体系)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体系が散見)、III(大きく食害のある群体系が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体系が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 25 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7								
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月5日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月6日								
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m								
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂	砂、巨礫	岩盤、小礫								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テープ状)	<5%	ワウサンゴ属	<5%	ワウサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(テープ状)	10%	カメコキメシ属	<5%	カメコキメシ属	<5%	スリハチサン属	<5%
		カメコキメシ属	<5%	アササンゴ属	<5%	アササンゴ属	<5%	コモサンゴ属	<5%	キメシ属	<5%	キメシ属	<5%	ミドリイシ属(テープ状)	<5%
		コモサンゴ属	<5%	カメコキメシ属	<5%	スリハチサン属	<5%	ニホミドリイシ属	<5%	スリハチサン属	<5%	スリハチサン属	<5%	カメコキメシ属	<5%
	成育型	V	V	V	II	V	V	V							
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0							
	加入度	I	I	I	I	I	I	I							
ミドリイシ属(テープ状)の イシ'上位5群体(cm)	60, 55	-	-	190, 90, 80, 25	-	-	23								
海藻草類	被度	10%	40%	20%	30%	40%	30%								
	主な出現種	フタエオキ'	10%	フタエオキ'	20%	フタエオキ'	15%	ソゾ'属	15%	フタエオキ'	25%	フタエオキ'	25%	ヤハズ'ク'属	15%
		ヤハズ'ク'属	<5%	ク'モ目(無節ク'モ類)	5%	ク'モ目(無節ク'モ類)	<5%	ヤハズ'ク'属	5%	ク'モ目(無節ク'モ類)	5%	アジ'ク'属	<5%	アジ'ク'属	<5%
アジ'ク'属		<5%	ヤハズ'ク'属	<5%	ヤハズ'ク'属	<5%	アジ'ク'属	<5%	微小紅藻類	<5%	微小紅藻類	<5%	ク'モ目(無節ク'モ類)	<5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%								
	主な出現種	-	-	-	-	-	-								
ソフトコーラ	被度	0%	0%	<5%	0%	0%	<5%								
	主な出現種	-	-	ク'サ'ミ科	<5%	-	0%	ク'サ'ミ属	<5%	ク'サ'ミ科	<5%				
ホトテ'の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
ク'モ'食巻貝類によるク'モ'類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	高波浪により一部のサンゴが埋没。	特になし	高波浪により一部のサンゴが埋没。	周囲に1mを超えるテープ'状ク'モ'あり。岩盤上に砂の堆積あり。	周囲に1mを超えるテープ'状ク'モ'あり。	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一般に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. ク'モ'類成育型：I(枝状ミドリイシ'優占)、II(テープ'状ミドリイシ'優占)、III(枝状、テープ'状ミドリイシ'混生)、IV(特定類優占)、V(多種混生)、VI(ソフトコーラ'優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. ク'モ'加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. ク'モ'食巻貝類によるク'モ'類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 25 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14	
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日	
水深	16.4m	12.4m	13.6m	4.6m	8.5m	6.8m	4.5m	
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂	
浮泥堆積状況	II	I	I	I	I	I	II	
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%
	主な出現種	スリパチサンゴ属 <5%	スリパチサンゴ属 <5%	トゲキメシ属 <5%	ミドリシ属(テブ*状) <5%	ミドリシ属(テブ*状) <5%	ミドリシ属(テブ*状) <5%	トゲキメシ属 <5%
		キクメイシ属 <5%	カメコキメシ属 <5%	カメコキメシ属 <5%	カメコキメシ属 <5%	アササンゴ属 <5%	カメコキメシ属 <5%	コモサンゴ属(被覆状) <5%
		カメコキメシ属 <5%	キクメイシ属 <5%	キクメイシ属 <5%	アササンゴ属 <5%	カメコキメシ属 <5%	アササンゴ*モト*キ属 <5%	ハナチサンゴ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリシ属(テブ*状)の *イ*上位5群体(cm)	-	-	-	100, 50	50, 25	130, 80, 70, 50, 40	-	
海藻草類	被度	15%	30%	20%	30%	30%	30%	40%
	主な出現種	フタエオキ* 5%	フタエオキ* 20%	フタエオキ* 10%	ヤハズ*グ*シ属 10%	フタエオキ* 10%	フタエオキ* 15%	ヤハズ*モ目(無節サンゴ*毛類) 15%
		アジ*グ*シ属 <5%	アジ*グ*シ属 10%	アジ*グ*シ属 <5%	アジ*グ*シ属 5%	ヤハズ*グ*シ属 5%	ヤハズ*グ*シ属 5%	ヤハズ*グ*シ属 10%
ヤハズ*グ*シ属 <5%		ヤハズ*グ*シ属 5%	ヤハズ*グ*シ属 <5%	フタエオキ* <5%	ヤハズ*グ*シ属 <5%	アジ*グ*シ属 <5%	フタエオキ* 5%	
藻場	被度	0%	0%	<5%	0%	0%	<5%	
	主な出現種	-	-	ホダ*ワ*属 <5%	-	-	ホダ*ワ*属 <5%	
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	<5%	<5%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	ウツク*属 <5%	アサ*ミ*科 <5%	-
ホビト*の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サンゴ*食巻貝類による サンゴ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	気泡を持ったホダ*ワ*属を確認。	特になし	特になし	周囲に1mを超えるテブ*状サンゴ*あり。	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底下をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ\*類成育型：I(枝状ミドリシ\*優占)、II(テブ\*状ミドリシ\*優占)、III(枝状、テブ\*状ミドリシ\*混生)、IV(特定類優占)、V(多種混生)、VI(ソフトコーラ\*優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ\*加入度(群体数 / m<sup>2</sup>): I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ\*食巻貝類によるサンゴ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 25 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 15	St. 16	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21	
調査日	令和3年10月2日	令和3年10月2日	令和3年10月7日	令和3年10月3日	令和3年10月7日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	
水深	15.3m	9.0m	1.7m	10.3m	4.4m	9.9m	15.9m	
底質概観	砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
	主な出現種	トゲキメシ属 <5%	ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状) 15%	ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状) 35%	ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状) 5%	ミドリシ属(枝状) 15%	ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状) <5%	サナギサンゴ属 5%
		キメシ属 <5%	アナサンゴ属 <5%	ニホミドリシ属(被覆状) <5%	モモンサンゴ属(被覆状) <5%	ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状) 15%	モモンサンゴ属(被覆状) <5%	イボサンゴ属 5%
		カニコキメシ属 <5%	カニコキメシ属 <5%	ハナサイヤサンゴ属 <5%	アナサンゴモトキ属 <5%	ミドリシ属(被覆状) <5%	ショウガサンゴ属 <5%	ハナギサンゴ属 5%
	成育型	V	II	II	V	III	II	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	II	I	II	II	I
ミドリシ属(テブ <sup>®</sup> 状)の サイズ上位5群体(cm)	—	100, 80, 40, 40, 20	150, 130, 130, 100, 100	110	150, 120, 50, 40	40, 30, 30, 30	—	
海藻草類	被度	5%	20%	25%	25%	30%	40%	
	主な出現種	フクロオキ <sup>®</sup> <5%	フクロオキ <sup>®</sup> 5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類) 5%	フクロオキ <sup>®</sup> 15%	微小紅藻類 10%	ハイオキ <sup>®</sup> 属 10%	フクロオキ <sup>®</sup> 20%
		藍藻綱 <5%	ハイオキ <sup>®</sup> 属 5%	微小紅藻類 5%	ハイオキ <sup>®</sup> 属 <5%	ヤスダケ <sup>®</sup> 属 5%	フクロオキ <sup>®</sup> 10%	藍藻綱 5%
ヤスダケ <sup>®</sup> 属 <5%		ヤスダケ <sup>®</sup> 属 5%	イリカ科 5%	ヤスダケ <sup>®</sup> 属 <5%	ツツ <sup>®</sup> 属 <5%	ヤスダケ <sup>®</sup> 属 <5%	イリカ科 <5%	
藻場	被度	0%	0%	<5%	0%	0%	0%	
	主な出現種	-	-	わか <sup>®</sup> 属 <5%	-	-	-	
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	
ワヒト <sup>®</sup> の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	アサギ <sup>®</sup> 1個体を確認。	ワヒト <sup>®</sup> と思われる食痕あり。	特になし	特になし	局所的に高被度なテブ <sup>®</sup> 状ミドリシ群集あり。	特になし	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたとく濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一緒に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テブ<sup>®</sup>状ミドリシ優占)、III(枝状、テブ<sup>®</sup>状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混生)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 25 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 22	St. 23	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28								
調査日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月4日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日								
水深	7.2m	14.3m	17.4m	3.1m	11.3m	2.7m	3.8m								
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	30%	15%	10%	45%	10%	45%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テープ状)	10%	ハカササンゴ属	10%	ササナミサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(テープ状)	40%	ミドリイシ属(テープ状)	40%	ミドリイシ属(樹枝状)	35%		
		コモンサンゴ属(被覆状)	5%	カメノキメシ属	5%	カメノキメシ属	<5%	カメノキメシ属	<5%	ニホミドリイシ属(被覆状)	<5%	ショウガサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(樹枝状)	5%
		ミドリイシ属(樹枝状)	<5%	ワササンゴ属	<5%	キクメシ属	<5%	ニホミドリイシ属(被覆状)	<5%	コモンサンゴ属(被覆状)	<5%	ハナササイサンゴ属	<5%	ハナササイサンゴ属	<5%
	成育型	II	V	V	II	V	II	V							
	白化段階	0	0	0	1	0	1	0							
	加入度	II	I	I	II	I	II	II							
ミドリイシ属(テープ状)の サイズ上位5群体(cm)	140, 120, 120, 80, 60	-	80, 10	250, 200, 180, 100, 100	120, 80, 60, 40	310, 130, 130, 120, 110	200, 200, 150, 130, 100								
海藻草類	被度	30%	15%	40%	30%	60%	20%								
	主な出現種	微小紅藻類	10%	フクオキ	5%	フクオキ	20%	藍藻綱	20%	フクオキ	30%	キノモ目(無節キノモ類)	15%	微小紅藻類	5%
		ヤスダマシ属	<5%	藍藻綱	<5%	キノモ目(無節キノモ類)	10%	微小紅藻類	5%	ヤスダマシ属	5%	微小紅藻類	5%	ワサ属	<5%
ハイオキ属		<5%	ワカサキ科	<5%	ヤスダマシ属	<5%	ヤスダマシ属	<5%	ワカサキ科	5%	ワサ属	<5%	ヤスダマシ属	<5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%	0%								
	主な出現種	-	-	-	-	-	オハクシ属	<5%	-	-	-	-	-		
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
ソフトコーラ	被度	0%	0%	<5%	0%	0%	0%								
	主な出現種	-	-	クマサミ科	<5%	-	-	-	-	-	-	-	-		
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
オビトケの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	特になし	特になし	特になし	食害と思われる群体を確認。 ハナササイサンゴ科の加入群体を複数確認。	コモンサンゴ属に魚による食害を確認。	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一緒に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テープ状ミドリイシ優占)、III(枝状、テープ状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多様混成)、VI(ワカサキ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / nf)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 25 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：秋季)

調査地点	St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33						
調査日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月3日	令和3年10月6日	令和3年10月6日						
水深	10. 4m	14. 3m	6. 1m	9. 1m	2. 3m						
底質概観	岩盤	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤、砂	岩盤、小礫						
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I						
サンゴ類	被度	10%	5%	45%	5%	20%					
	主な出現種	ミドリイシ属(テープ状)	5%	ミドリイシ属(テープ状) <5%	ミドリイシ属(テープ状)	40%	ミドリイシ属(テープ状) <5%	ミドリイシ属(テープ状)	10%		
		カメノキメシ属	<5%	コモンキノコ属	<5%	コウミドリイシ属(被覆状)	<5%	コモンキノコ属(被覆状)	<5%	コモンキノコ属(被覆状)	<5%
		コモンキノコ属(被覆状)	<5%	キメシ属	<5%	コモンキノコ属(被覆状)	<5%	アナキノコモドキ属(被覆状)	<5%	ショウガキノコ属	<5%
	成育型	II	V	II	II	II					
	白化段階	0	0	0	0	0					
	加入度	II	I	II	II	II					
ミドリイシ属(テープ状)のサイズ上位5群体(cm)	80, 60, 45, 30, 20	75, 30, 15, 15, 15	250, 200, 150, 100, 90	120	110, 110, 35, 10						
海藻草類	被度	30%	40%	10%	30%	30%					
	主な出現種	フタエオキ	15%	フタエオキ	25%	ツグ属	<5%	フタエオキ	20%	微小紅藻類	15%
		ハイオキ属	5%	キノコモ目(無節キノコモ類)	5%	ヤブツグ属	<5%	キノコモ目(無節キノコモ類)	5%	キノコモ目(無節キノコモ類)	5%
		キノコモ目(無節キノコモ類)	<5%	ハイオキ属	<5%	微小紅藻類	<5%	アミシグサ属	<5%	ツグ属	<5%
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%					
	主な出現種	-	-	-	-	-					
ソフルトコウラ	被度	<5%	0%	0%	0%	0%					
	主な出現種	ウミヅミ科	<5%	-	-	-	-				
ホヒテの観察個体数	0	0	0	0	0						
キノコ食巻貝類によるキノコ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)						
特記事項	特になし	特になし	特になし	1mを超えるテープ状キノコが多数あり。	周辺は小礫や砂。						

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたくと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. キノコ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テープ状ミドリイシ優占)、III(枝状、テープ状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフルトコウラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. キノコ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. キノコ食巻貝類によるキノコ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。



表-6.12.26 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：秋季)

調査地点		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日		令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日
水深		17.5m	28.6m	29.1m	23.1m	29.6m	27.5m	23.1m
底質概観		大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%	<5%
	主な出現種	カメノキメシ属 5~25%	ハカチサソコ属 <5%	ハカチサソコ属 <5%	ハカチサソコ属 <5%	ハカチサソコ属 <5%	特になし	カメノキメシ属 <5%
		ハカチサソコ属 <5%	トゲキメシ属 <5%	トゲキメシ属 <5%	カメノキメシ属 <5%	カメノキメシ属 <5%		キメシ属 <5%
		ミドリシ属(テープ状) <5%	スリハチサソコ属 <5%	カメノキメシ属 <5%	トゲキメシ属 <5%	キメシ属 <5%		コマキメシ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	-	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリシ属(テープ状)の サイズ上位5群体(cm)	40, 50, 80, 90, 90(推定値)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	50~75%	5~25%	5~25%	5~25%	5~25%	0	5~25%
	主な出現種	フクロオキ 5~25%	フクロオキ 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 <5%	特になし	ヤスダケシ属 <5%
		ヤスダケシ属 5~25%	藍藻綱 <5%	フクロオキ <5%	フクロオキ <5%	フクロオキ <5%		微小紅藻類 <5%
	サソコモ目(無節サソコモ類) <5%	サソコモ目(無節サソコモ類) <5%	サソコモ目(無節サソコモ類) <5%	サソコモ目(無節サソコモ類) <5%	サソコモ目(無節サソコモ類) <5%		サソコモ目(無節サソコモ類) <5%	
藻場	被度	0	0	0	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0	0	<5%	0	0	0	<5%
	主な出現種	-	-	ウツケ属 <5%	-	-	-	ウツケ属 <5%
サソコモ目の観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
サソコモ目食巻貝類による サソコモ目の食害		I	I	I	I	I	-	I
特記事項		塊状や被覆状のサンゴ群体が目立つ。所々にテーブル状ミドリシ属が見られる。海藻類は礫上に生育。	特になし	サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。被覆状群体が優占する。海藻類は巨礫上で疎らにみられるのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。アカエイ科が遊泳。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。生息するサンゴ類は被覆状の群体が多い。コロダイが遊泳。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻がほとんどで着生している海藻はない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。海藻の生育も少ない。

注) 1. 水深は、T.M.S.L(東京湾平均海面)表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サソコモ目類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テープ状ミドリシ優占)、III(枝状、テープ状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウモリ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サソコモ目加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サソコモ目食巻貝類によるサソコモ目の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.26 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：秋季)

調査地点		R8	R9	R10	R11
調査日		令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日	令和3年11月3日
水深		27.0m	25.0m	24.1m	26.0m
底質概観		砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況		I	I	I	I
サンゴ類	被度	0	0	<5%	0
	主な出現種	特になし	特になし	キメイト属 <5%	特になし
				ハカキサンゴ属 <5%	
				トクキメイト属 <5%	
	成育型	-	-	V	-
	白化段階	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I
ミドリイシ属(テップル状)の #1以上5群体系(cm)	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	0	0	5~25%	0
	主な出現種	特になし	特になし	フタヒタシ 5~25%	特になし
				ヤスガキ属 5~25%	
微小紅藻類 5~25%					
藻場	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
ソフトコーラ	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
ヒトデの観察個体数		0	0	0	0
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害		I	I	I	I
特記事項		砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻はわずかにみられるが、基盤がないため着生なし。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。アナゴ科が砂地で見られる。	砂地が広がっており、点在する転石にサンゴが付着している。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻はみられるが、着生していない。

注) 1. 水深は、T.M.S.L (東京湾平均海面) 表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テップル状ミドリイシ優占)、III(枝状、テップル状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウモリ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体系数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体系)、III(≧5群体系)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体系が散見)、III(大きく食害のある群体系が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体系が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 24 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	St. 6	St. 7								
調査日	令和3年12月11日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月11日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月11日								
水深	13.9m	17.0m	15.9m	2.7m	12.6m	16.3m	4.6m								
底質概観	大礫、岩盤	巨礫、岩盤	岩盤、砂礫	岩盤、巨礫	巨礫、砂	砂、巨礫	岩盤、小礫								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	10%	<5%	<5%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テプ*状)	<5%	ウツソコ*属	<5%	ウツソコ*属	<5%	ミドリイシ属(テプ*状)	10%	カニコキメイシ属	<5%	カニコキメイシ属	<5%	スバ*チソコ*属	<5%
		カニコキメイシ属	<5%	アナソコ*属	<5%	アナソコ*属	<5%	アナソコ*モト*キ属	<5%	キメイシ属	<5%	キメイシ属	<5%	ミドリイシ属(テプ*状)	<5%
		キメイシ属	<5%	カニコキメイシ属	<5%	スバ*チソコ*属	<5%	ニウミドリイシ属	<5%	スバ*チソコ*属	<5%	スバ*チソコ*属	<5%	カニコキメイシ属	<5%
	成育型	V	V	V	II	V	V	V							
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0							
	加入度	I	I	I	II	I	II	I							
ミドリイシ属(テプ*状)の サイズ上位5群体(cm)	70, 60	-	-	160, 90, 60, 30	-	-	25								
海藻草類	被度	10%	20%	20%	30%	25%	40%								
	主な出現種	アシ*グ*シ属	5%	フタエオキ*	10%	フタエオキ*	10%	ソ*属	10%	ソ*モ目(無節ソ*モ類)	10%	フタエオキ*	10%	ヤハ*グ*シ属	30%
		ヤハ*グ*シ属	<5%	ソ*モ目(無節ソ*モ類)	<5%	ヤハ*グ*シ属	5%	ヤハ*グ*シ属	5%	フタエオキ*	5%	アシ*グ*シ属	<5%	イリカリ科	<5%
フタエオキ*		<5%	ヤハ*グ*シ属	<5%	ソ*モ目(無節ソ*モ類)	<5%	アシ*グ*シ属	<5%	微小紅藻類	<5%	ソ*モ目(無節ソ*モ類)	<5%	ソ*モ目(無節ソ*モ類)	<5%	
藻場	被度	0%	<5%	<5%	<5%	<5%	0%								
	主な出現種	-	ホ*グ*ワ*属	<5%	ホ*グ*ワ*属	<5%	ホ*グ*ワ*属	<5%	ホ*グ*ワ*属	<5%	ホ*グ*ワ*属	<5%	ホ*グ*ワ*属	<5%	
ソフト コーラ	被度	0%	0%	<5%	0%	<5%	<5%								
	主な出現種	-	-	ウ*ア*ミ*科	<5%	-	ウ*ア*ミ*科	<5%	-	ウ*ア*ミ*科	<5%	-	ウ*ア*ミ*科	<5%	
ホ*ヒ*テ*の観察個体数	0	0	0	0	0	0									
ソ*食巻貝類による ソ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)									
特記事項	特になし	特になし	高波浪により一部のサンゴが埋没。お*メを確認。周囲に1mを超えるテプ*状ソ*あり。	周囲に1mを超えるテプ*状ソ*あり。	周囲に1mを超えるテプ*状ソ*あり。	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底部をはたいても濁らない、II：はたとく濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. ソ\*類成育型：I(枝状ソ\*類優占)、II(テプ\*状ソ\*類優占)、III(枝状、テプ\*状ソ\*類混生)、IV(特定類優占)、V(多種混生)、VI(ワ\*コ\*ラ\*優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. ソ\*加入度(群体数 / m<sup>2</sup>): I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. ソ\*食巻貝類によるソ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 24 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St. 8	St. 9	St. 10	St. 11	St. 12	St. 13	St. 14								
調査日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月21日	令和3年12月9日	令和3年12月21日								
水深	16. 4m	12. 4m	13. 6m	4. 6m	8. 5m	6. 8m	4. 5m								
底質概観	砂、巨礫	巨礫、砂	巨礫、砂	岩盤、小礫	岩盤、砂礫	岩盤	岩盤、砂								
浮泥堆積状況	II	I	II	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	<5%	<5%	<5%	<5%	<5%	5%	<5%							
	主な出現種	スリハチサンコ属	<5%	スリハチサンコ属	<5%	トゲキメシ属	<5%	ミドリシ属(テブム状)	<5%	ミドリシ属(テブム状)	<5%	ミドリシ属(テブム状)	<5%	トゲキメシ属	<5%
		キメシ属	<5%	カメコキメシ属	<5%	体ノコ属	<5%	カメコキメシ属	<5%	トゲキメシ属	<5%	コモンサンコ属	<5%	コモンサンコ属(被覆状)	<5%
		カメコキメシ属	<5%	キメシ属	<5%	キメシ属	<5%	アサシコモトキ属(被覆状)	<5%	アサシコモトキ属	<5%	キメシ属	<5%	ハナチサンコ属	<5%
	成育型	V	V	V	V	V	V	II	V						
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0	0						
	加入度	I	I	I	I	I	I	I	I						
ミドリシ属(テブム状)の サイズ上位5群体(cm)	—	—	—	50, 20, 15	55, 35, 30	60, 60, 40, 30	—								
海藻草類	被度	10%	25%	20%	25%	30%	30%	40%							
	主な出現種	フクエオキ	<5%	フクエオキ	20%	フクエオキ	10%	フクエオキ	10%	フクエオキ	15%	フクエオキ	15%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	15%
		ホンダワラ属	<5%	アジシダ属	<5%	ホンダワラ属	5%	アジシダ属	5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	5%	ヤハズダ属	5%	ヤハズダ属	10%
ヤハズダ属		<5%	ホンダワラ属	<5%	ハチオキ	<5%	サンゴモ目(無節サンゴモ類)	<5%	シロヤハズ	<5%	アジシダ属	<5%	ウツ	<5%	
藻場	被度	<5%	<5%	5%	<5%	<5%	0%	<5%							
	主な出現種	ホンダワラ属	<5%	ホンダワラ属	<5%	ホンダワラ属	5%	ホンダワラ属	<5%	ホンダワラ属	<5%	—	ホンダワラ属	<5%	
ソフトコーラ	被度	0%	0%	<5%	0%	<5%	<5%	<5%							
	主な出現種	—	—	ウツ	<5%	—	ウツ	<5%	ウツ	<5%	ウツ	<5%	ウツ	<5%	
ヒトデの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	特になし	特になし	特になし	ハチオキ<5%	特になし	周囲に1mを超えるテブム状サンゴあり。	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底下をほたいも濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一緒に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状シイロシイロ優占)、II(テブム状シイロシイロ優占)、III(枝状、テブム状シイロシイロ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 24 (3) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St. 15	St. 16	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21	
調査日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	
水深	15. 3m	9. 0m	1. 7m	10. 3m	4. 4m	9. 9m	15. 9m	
底質概観	砂、大礫	岩盤	岩盤	岩盤、大礫	岩盤	岩盤	岩盤	
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I	
サンゴ類	被度	<5%	20%	40%	10%	40%	5%	20%
	主な出現種	トゲキメイシ属 <5%	ミドリシ属(テブ)属状 15%	ミドリシ属(テブ)属状 35%	ミドリシ属(テブ)属状 5%	ミドリシ属(枝状) 15%	ミドリシ属(テブ)属状 <5%	ハマシコ属 5%
		キメイシ属 <5%	ミドリシ属(被覆状) <5%	ニホミドリシ属(被覆状) <5%	ハカクシコ属 <5%	ミドリシ属(テブ)属状 15%	ヨモシコ属(被覆状) <5%	体シコ属 5%
		カノキメイシ属 <5%	カノキメイシ属 <5%	ハナシコ属 <5%	アサシコ属 <5%	ミドリシ属(被覆状) <5%	ショウシコ属 <5%	アサシコ属 5%
	成育型	V	II	II	V	III	II	V
	白化段階	0	I	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	II	I	II	II	I
ミドリシ属(テブ)属状の サイズ上位5群体(cm)	—	220, 120, 110, 30	180, 130, 130, 120, 100	100	120, 115, 45, 30, 20	100, 100, 30, 35, 20	—	
海藻草類	被度	25%	20%	35%	30%	30%	20%	
	主な出現種	フクロオキ 10%	ハイオキ属 10%	微小紅藻類 20%	フクロオキ 20%	シコモ目(無節シコモ類) 10%	ハイオキ属 10%	フクロオキ 10%
		藍藻綱 5%	フクロオキ 5%	シコモ目(無節シコモ類) 5%	イワカリ科 5%	ハイオキ属 5%	微小紅藻類 10%	藍藻綱 5%
ヤスダケ属 <5%		ヤスダケ属 <5%	藍藻綱 5%	ヤスダケ属 5%	ゾウ属 <5%	フクロオキ <5%	イワカリ科 <5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	<5%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	ハクシ属 <5%	-	-
ソフトコーラ	被度	<5%	0%	0%	0%	0%	0%	
	主な出現種	カミサミ科 <5%	-	-	-	-	-	
ホトテの観察個体数	0	0	0	0	0	0	0	
シコモ食巻貝類による シコモ類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	
特記事項	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	局所的に高被度なテブ)属状ミドリシ群集あり。	枠外にテブ)属状シコモ(2m)あり。	

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいも濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一緒に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大～人頭大)、大礫(人頭大～こぶし大)、小礫(こぶし大～米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. シコモ類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テブ)属状ミドリシ優占)、III(枝状、テブ)属状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコラ)優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1～10%、2：10～50%、3：50～90%、4：>90%」  
 7. シコモ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. シコモ食巻貝類によるシコモ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1～33では目視観察、R1～11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 24 (4) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点	St. 22	St. 23	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28								
調査日	令和3年12月9日	令和3年12月9日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日	令和3年12月11日								
水深	7. 2m	14. 3m	17. 4m	3. 1m	11. 3m	2. 7m	3. 8m								
底質概観	岩盤	岩盤、砂	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤	岩盤								
浮泥堆積状況	I	I	I	I	I	I	I								
サンゴ類	被度	30%	15%	15%	45%	10%	45%								
	主な出現種	ミドリイシ属(テブ*状)	10%	ハカ*サンゴ属	10%	カメコキメシ属	5%	ミドリイシ属(テブ*状)	40%	ミドリイシ属(テブ*状)	40%	ミドリイシ属(テブ*状)	35%		
		コモンサンゴ属(被覆状)	5%	カメコキメシ属	5%	キクメシ属	<5%	カメコキメシ属	<5%	ミドリイシ属(テブ*状)	<5%	ショウカ*サンゴ属	<5%	ミドリイシ属(樹枝状)	5%
		ミドリイシ属(樹枝状)	<5%	ハカ*サンゴ属	<5%	コモンサンゴ属	<5%	ミドリイシ属(被覆状)	<5%	コモンサンゴ属(被覆状)	<5%	ハナハチイシ属	<5%	ショウカ*サンゴ属	<5%
	成育型	II	V	V	II	V	II	II							
	白化段階	0	0	0	1	0	0	0							
	加入度	I	I	I	II	I	II	II							
ミドリイシ属(テブ*状)の サイズ上位5群体(cm)	120, 110, 90, 90, 75	-	60, 60	150, 150, 120, 100, 100	55, 50	160, 150, 150, 140, 110	200, 200, 130, 120, 90								
海藻草類	被度	25%	15%	30%	40%	40%	20%								
	主な出現種	微小紅藻類	5%	フクロオキ*	5%	フクロオキ*	15%	藍藻綱	20%	ヤス*グ*属	10%	サンゴ*モ目(無節サンゴ*モ類)	10%	微小紅藻類	5%
		ヤス*グ*属	5%	藍藻綱	<5%	サンゴ*モ目(無節サンゴ*モ類)	5%	微小紅藻類	10%	ハナハチ*属	5%	微小紅藻類	5%	ゾウ*属	<5%
ハナハチ*属		<5%	イワノカ*科	<5%	ヤス*グ*属	<5%	ヤス*グ*属	<5%	フクロオキ*	<5%	ゾウ*属	<5%	ヤス*グ*属	<5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	<5%	0%	<5%								
	主な出現種	-	-	-	ハナ*科属	<5%	-	ハナ*科属	<5%	ハナ*科属	<5%	ハナ*科属	<5%		
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%	<5%								
	主な出現種	-	-	-	-	-	カ*科属	<5%	-	-	-	-			
ホト*の観察個体数	0	0	0	0	0	0	0								
サンゴ*食巻貝類による サンゴ*類の食害	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)	I(なし)								
特記事項	特になし	特になし	岩盤の周辺は小礫、砂。	食害と思われる群体を確認。 ハナ*科属の加入群体を複数確認。	特になし	特になし	特になし								

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底部をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一般に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. サンゴ\*類成育型：I(枝状ミドリイシ属優占)、II(テブ\*状ミドリイシ属優占)、III(樹枝、テブ\*状ミドリイシ属混生)、IV(特定類優占)、V(多種混生)、VI(ソフトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. サンゴ\*加入度(群体数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. サンゴ\*食巻貝類によるサンゴ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6. 12. 24 (5) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (スポット法：冬季)

調査地点		St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33
調査日		令和3年12月11日	令和3年12月6日	令和3年12月6日	令和3年12月11日	令和3年12月11日
水深		10. 4m	14. 3m	6. 1m	9. 1m	2. 3m
底質概観		岩盤	岩盤、小礫	岩盤、砂	岩盤	岩盤、小礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	15%	5%	45%	5%	20%
	主な出現種	ミドリイシ属(テブ*形状) 5%	ミドリイシ属(テブ*形状) <5%	ミドリイシ属(テブ*形状) 40%	ミドリイシ属(テブ*形状) <5%	ミドリイシ属(テブ*形状) 10%
		コモンキノ*属(被覆状) 5%	トゲキクメイシ属 <5%	コオシミドリイシ属(被覆状) <5%	コモンキノ*属(被覆状) <5%	コモンキノ*属(被覆状) <5%
		カミノキクメイシ属 <5%	マルネキメイシ属 <5%	コモンキノ* (被覆状) <5%	アナキノ*モト*キ属(被覆状) <5%	ショウガ*キノ*属 <5%
	成育型	II	V	II	II	II
	白化段階	0	0	0	0	0
	加入度	II	I	II	I	II
ミドリイシ属(テブ*形状)のサイズ上位5群体(cm)	80, 50, 45, 30, 25	60, 30, 15	250, 200, 150, 100, 100	200, 70, 70	110, 110, 80, 60, 40	
海藻草類	被度	20%	40%	10%	30%	40%
	主な出現種	アシ*グ*キ属 10%	フタエオキ* 25%	アシ*グ*キ属 <5%	フタエオキ* 10%	微小紅藻類 25%
		フタエオキ*属 5%	アシ*グ*キ属 5%	ツグ*属 <5%	キノ*モ目(無節キノ*モ類) 10%	キノ*モ目(無節キノ*モ類) 5%
キノ*モ目(無節キノ*モ類) <5%		ハイオキ*属 <5%	微小紅藻類 <5%	ヤス*グ*キ属 <5%	ツグ*属 <5%	
藻場	被度	0%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0%	0%	0%	0%	0%
	主な出現種	-	-	-	-	-
ワヒ*テ*の観察個体数		0	0	0	0	0
キノ*食巻貝類によるキノ*類の食害		I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)	I (なし)
特記事項		特になし	特になし	部分死群体あり。	1mを超えるテブ*形状キノ*が多数あり。	周辺は小礫や大礫、砂。

注) 1. 水深は、標高表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたとく濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：<5%、それ以上を5%ピッチで示す。  
 5. キノ\*類成育型：I(枝状ミドリイシ優占)、II(テブ\*形状ミドリイシ優占)、III(枝状、テブ\*形状ミドリイシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(ツグ\*属優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. キノ\*加入度(群体数 / nt)：I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. キノ\*食巻貝類によるキノ\*類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

表-6.12.25 (1) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV 方式：冬季)

調査地点		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査日		令和3年12月5日	令和3年12月3日	令和3年12月3日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日
水深		17.9m	23.4m	30.2m	25.0m	32.8m	29.1m	23.6m
底質概観		大礫・砂	砂礫・大礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂礫・巨礫	砂	砂・大礫
浮泥堆積状況		I	I	I	I	I	I	I
サンゴ類	被度	5~25%	<5%	<5%	<5%	<5%	0	<5%
	主な出現種	カメコキメイシ属 5~25%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	ハカチサンゴ属 <5%	特になし	カメコキメイシ属 <5%
		ハクサンゴ属 <5%	トケキメイシ属 <5%	スバチサンゴ属 <5%	カメコキメイシ属 <5%	カメコキメイシ属 <5%		キメイシ属 <5%
		ミドリシ属(テブ)状 <5%	キメイシ属 <5%	カメコキメイシ属 <5%	ハクサンゴ属 <5%	キメイシ属 <5%		ハカチサンゴ属 <5%
	成育型	V	V	V	V	V	-	V
	白化段階	0	0	0	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I	I	I	I
ミドリシ属(テブ)状の サイズ上位5群体(cm)	90, 80, 60, 60, 40(推定値)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	60(推定値)
海藻草類	被度	25~50%	5~25%	5~25%	5~25%	5~25%	0	5~25%
	主な出現種	フクロキ 5~25%	藍藻綱 5~25%	藍藻綱 <5%	キノモ目(無節キノモ)類<25%	藍藻綱 <5%	特になし	フクロキ 5~25%
		キノモ目(無節キノモ)類<25%	フクロキ <5%	フクロキ <5%	藍藻綱 <5%	フクロキ <5%		微小紅藻類 <5%
ヤスダケ属 <5%		キノモ目(無節キノモ)類 <5%	キノモ目(無節キノモ)類 <5%	微小紅藻類 <5%	キノモ目(無節キノモ)類 <5%		キノモ目(無節キノモ)類 <5%	
藻場	被度	0	0	0	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-	-	-	-
ソフトコーラ	被度	0	0	<5%	0	0	0	<5%
	主な出現種	-	-	ウツケ属 <5%	-	-	-	ウツケ属 <5%
ワヒテの観察個体数		0	0	0	0	0	0	0
キノモ食巻貝類による キノモ類の食害		I	I	I	I	I	-	I
特記事項		塊状や被覆状のサンゴ群体が目立つ。所々にテブル状ミドリシ属が見られる。海藻類は礫上に生育。	特になし	サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。被覆状群体が優占する。海藻類は巨礫上で疎らにみられるのみ。	着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。サンゴ類が生息するのは、点在する巨礫にわずかに着生するのみ。	砂地が広がり、着生基盤が少ないためサンゴ類は少ない。コロダイが遊泳。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	砂地に点在する大礫上にサンゴがわずかに生息する。アカエイ科の魚類が遊泳。

注) 1. 水深は、T.M.S.L(東京湾平均海面)表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたと濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. キノモ類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テブ)状ミドリシ優占、III(枝状、テブ)状ミドリシ混生、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコウ)優占  
 6. 白化の段階：「0:<1%、1:1~10%、2:10~50%、3:50~90%、4:>90%」  
 7. キノモ加入度(群体数 / m<sup>2</sup>): I(なし)、II(<5群体)、III(≧5群体)  
 8. キノモ食巻貝類によるキノモ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体が散見)、III(大きく食害のある群体が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St. 1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。



表-6.12.25 (2) サンゴ類・海藻草類分布調査結果 (ROV方式：冬季)

調査地点		RS	R9	R10	R11
調査日		令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日	令和3年12月5日
水深		28.2m	27.7m	24.6m	25.7m
底質概観		砂	砂	砂礫・大礫	砂
浮泥堆積状況		I	I	I	I
サンゴ類	被度	0	0	<5%	0
	主な出現種	特になし	特になし	キメイシ属 <5%	特になし
				ハカクサンゴ属 <5%	
				カミノキメイシ属 <5%	
	成育型	-	-	V	-
	白化段階	0	0	0	0
	加入度	I	I	I	I
ミドリシ属(テープ状)の #1以上5群体系(cm)	なし	なし	なし	なし	
海藻草類	被度	0	0	5~25%	0
	主な出現種	特になし	特になし	フタヒタシ 5~25%	特になし
				サンゴモ目(無節サンゴ)類 5~25%	
微小紅藻類 5~25%					
藻場	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
ソフトコーラ	被度	0	0	0	0
	主な出現種	-	-	-	-
				-	
-					
ヒトデの観察個体数		0	0	0	0
サンゴ食巻貝類による サンゴ類の食害		I	I	I	I
特記事項		砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。流れ藻はわずかにみられるが、基盤がないため着生なし。	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。	特になし	砂地が広がっており、サンゴ、藻類ともにほとんど確認されない。

注) 1. 水深は、T.M.S.L(東京湾平均海面)表示。  
 2. 浮泥堆積状況：「I：海底面をはたいても濁らない、II：はたとく濁る、III：浮泥がまばらに堆積している、IV：浮泥が一樣に(厚く)堆積している」  
 3. 底質：岩盤、転石(等身大以上)、巨礫(等身大~人頭大)、大礫(人頭大~こぶし大)、小礫(こぶし大~米粒大)、砂礫、砂、砂泥、泥  
 4. 被度：0%、5%未満、5%以上25%未満、25%以上50%未満、50%以上75%未満、75%以上100%で表示。  
 5. サンゴ類成育型：I(枝状ミドリシ優占)、II(テープ状ミドリシ優占)、III(枝状、テープ状ミドリシ混生)、IV(特定類優占)、V(多種混成)、VI(フトコーラ優占)  
 6. 白化の段階：「0：<1%、1：1~10%、2：10~50%、3：50~90%、4：>90%」  
 7. サンゴ加入度(群体系数 / m<sup>2</sup>)：I(なし)、II(<5群体系)、III(≧5群体系)  
 8. サンゴ食巻貝類によるサンゴ類の食害：I(食痕目立たない)、II(食害のある群体系が散見)、III(大きく食害のある群体系が目立つが100個体以上の貝集団はみられない)、IV(斃死群体系が目立ち、貝集団が散見される)  
 9. St.1~33では目視観察、R1~11ではROV方式で調査を実施した。

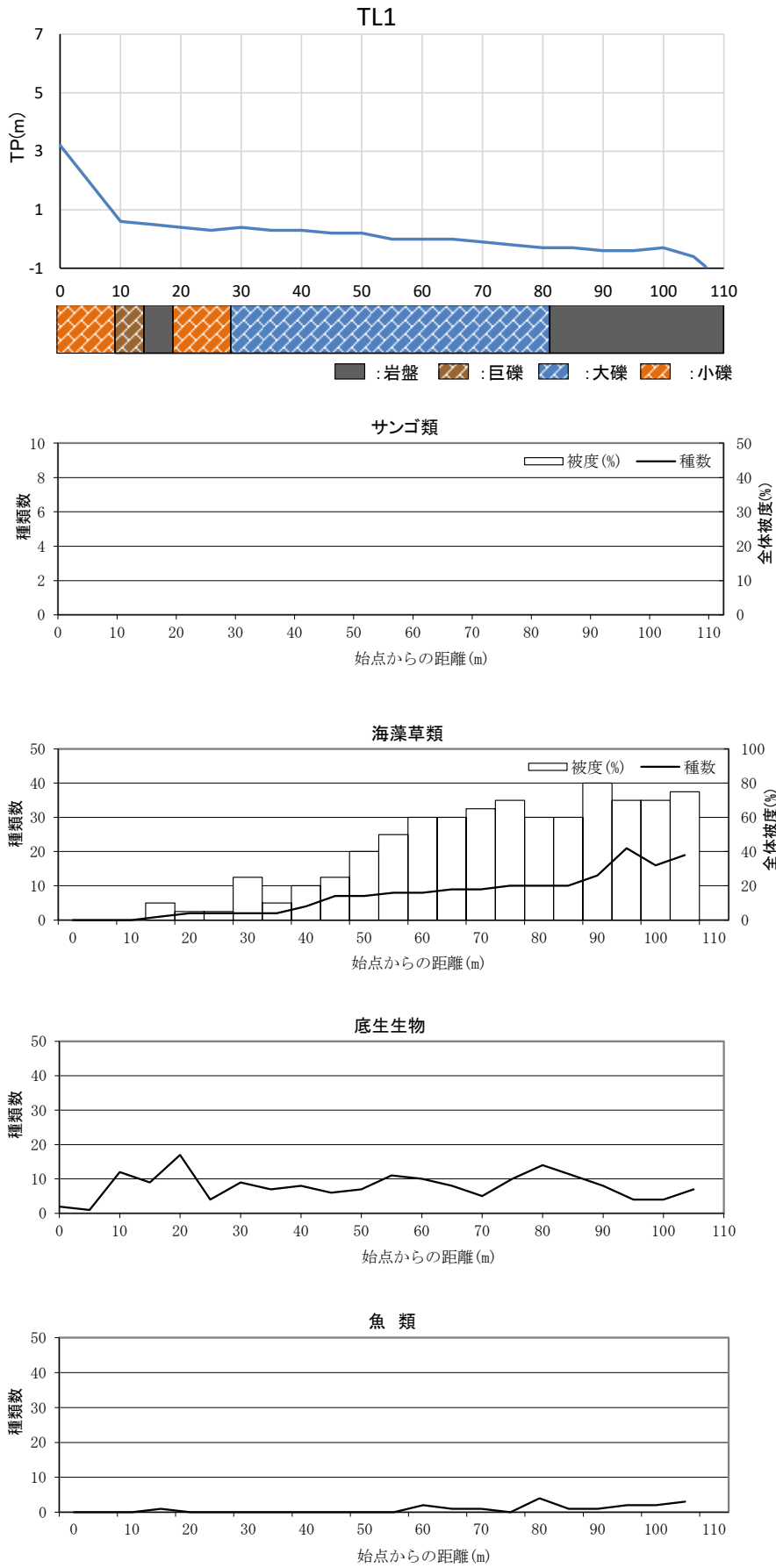


図-6.12.15 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 春季

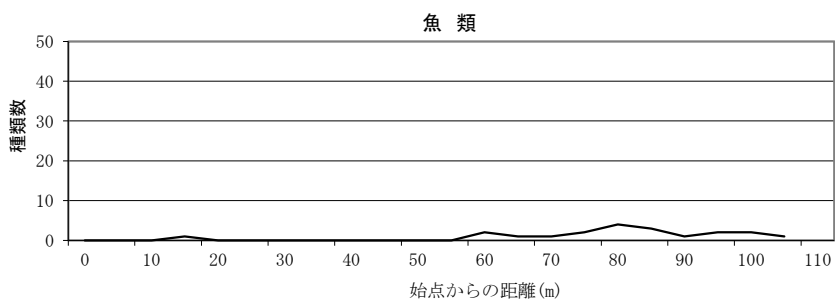
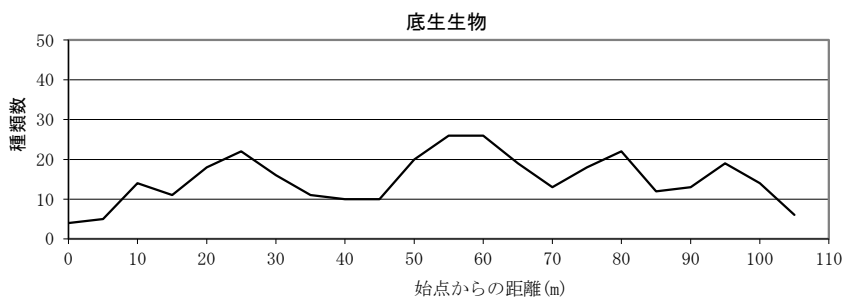
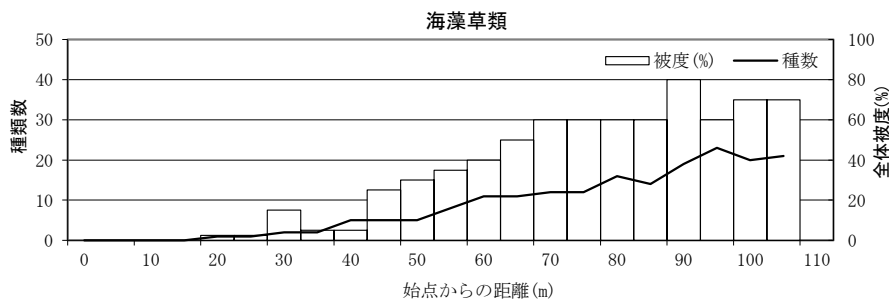
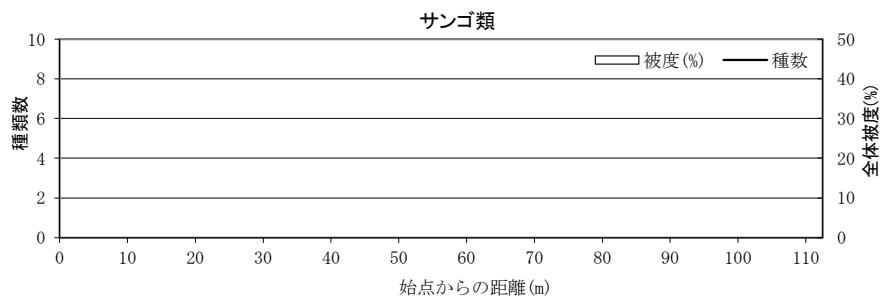
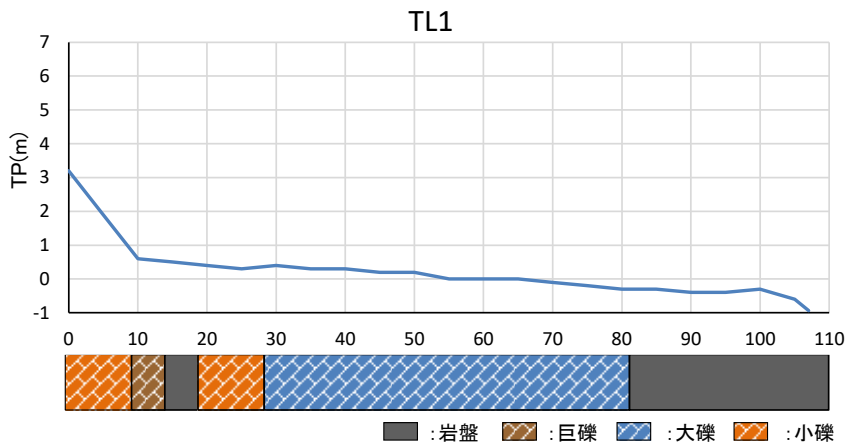


図-6.12.15 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 夏季

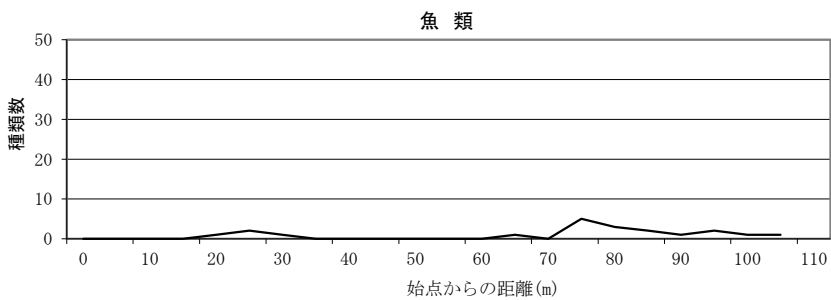
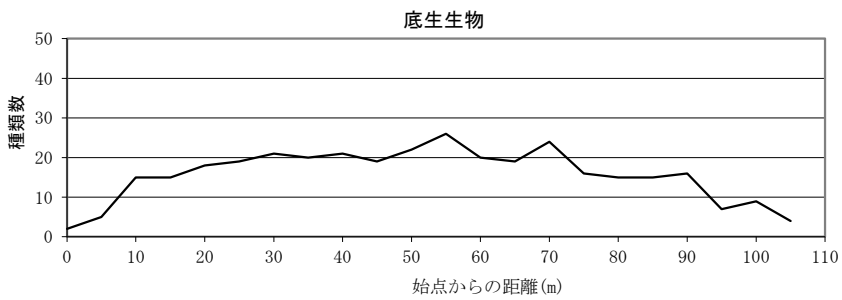
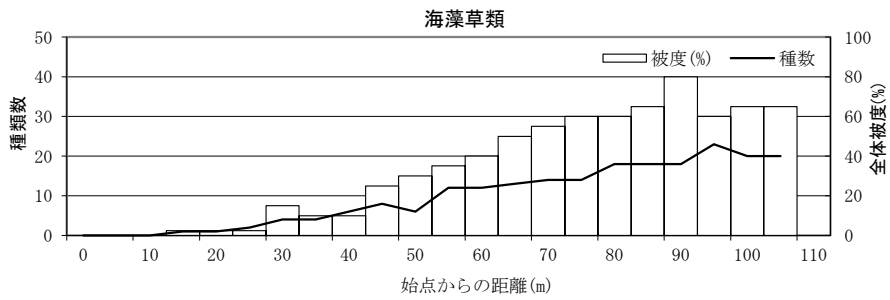
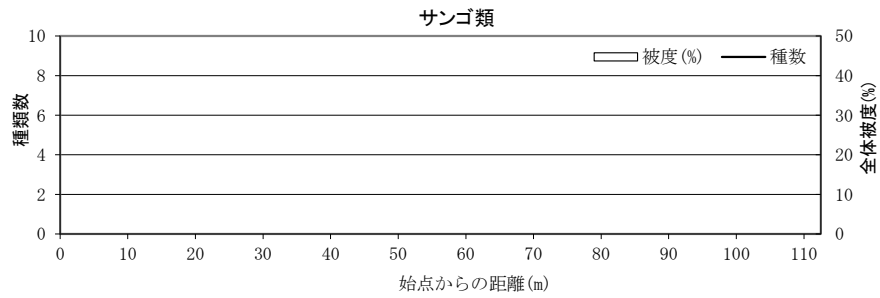
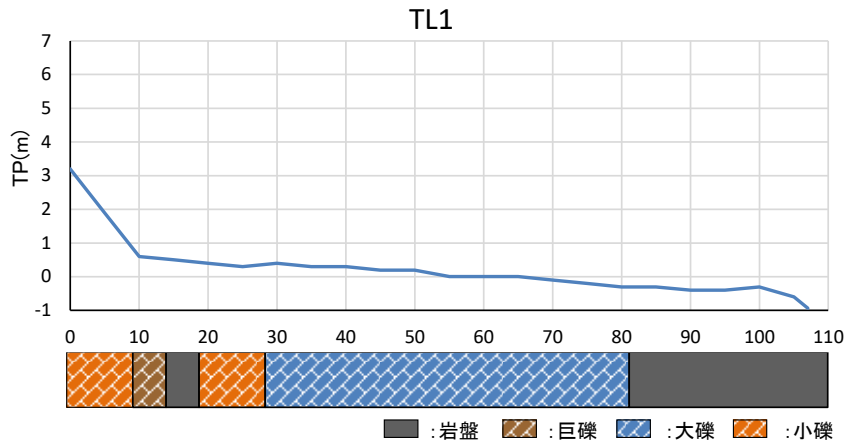


図-6.12.15 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 秋季

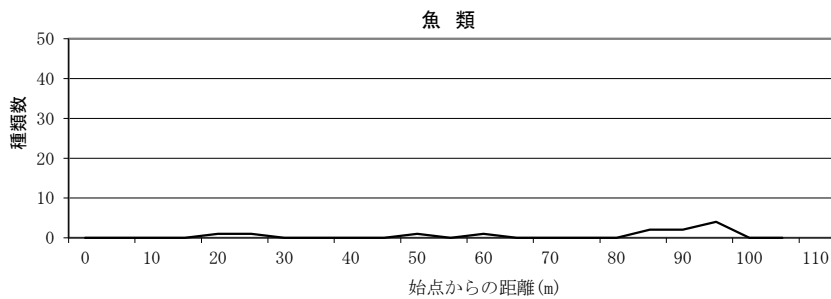
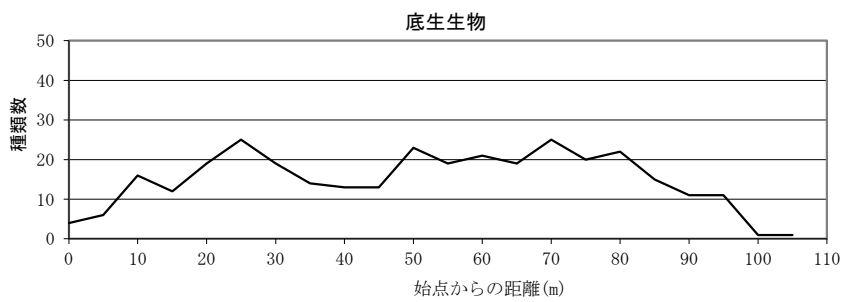
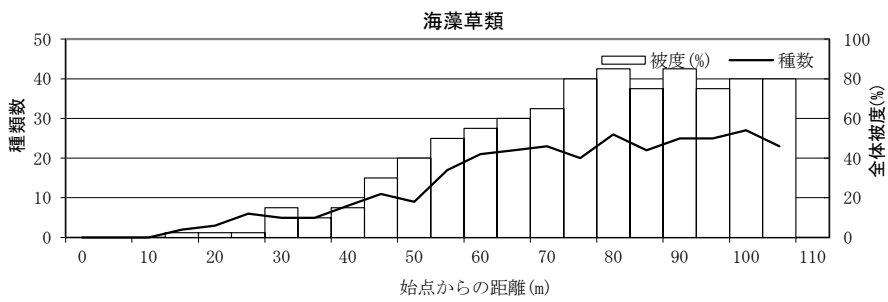
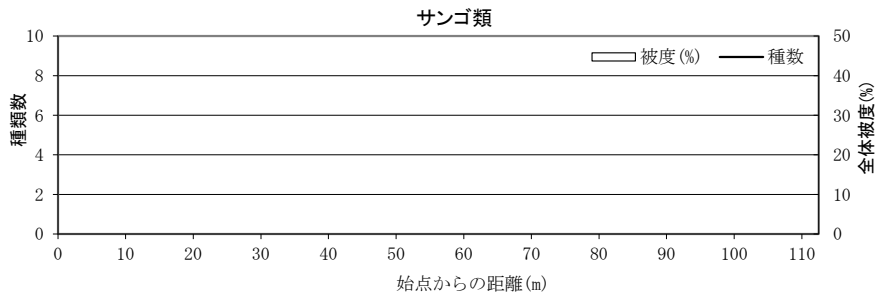
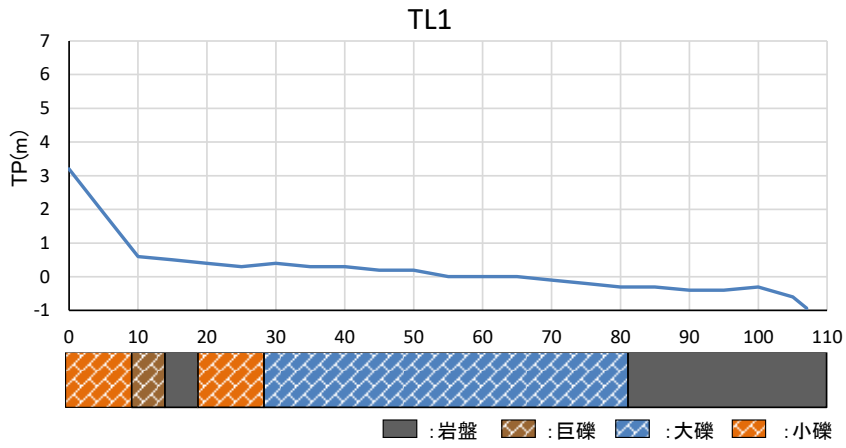


図-6.12.15 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL1) 冬季

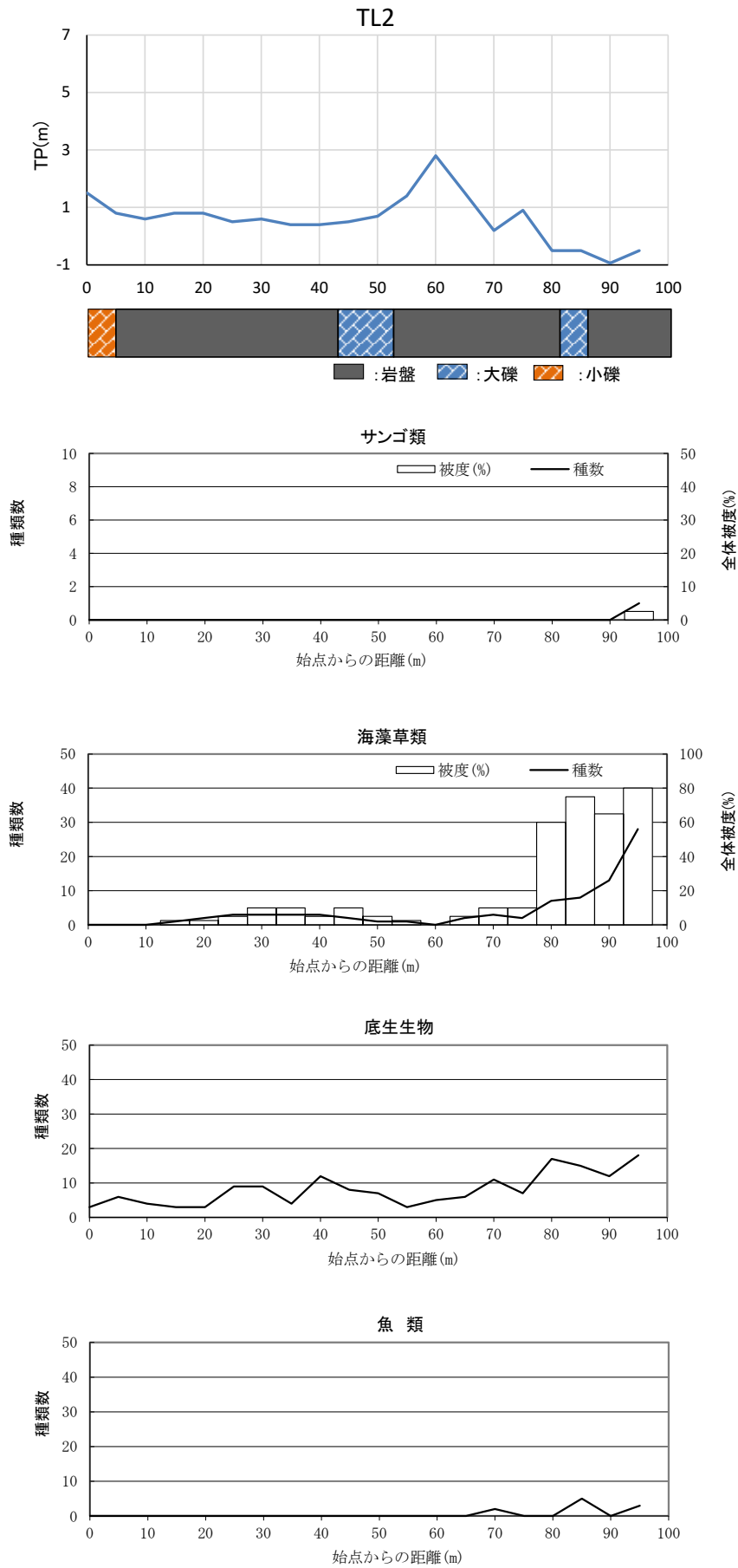


図-6.12.16 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 春季

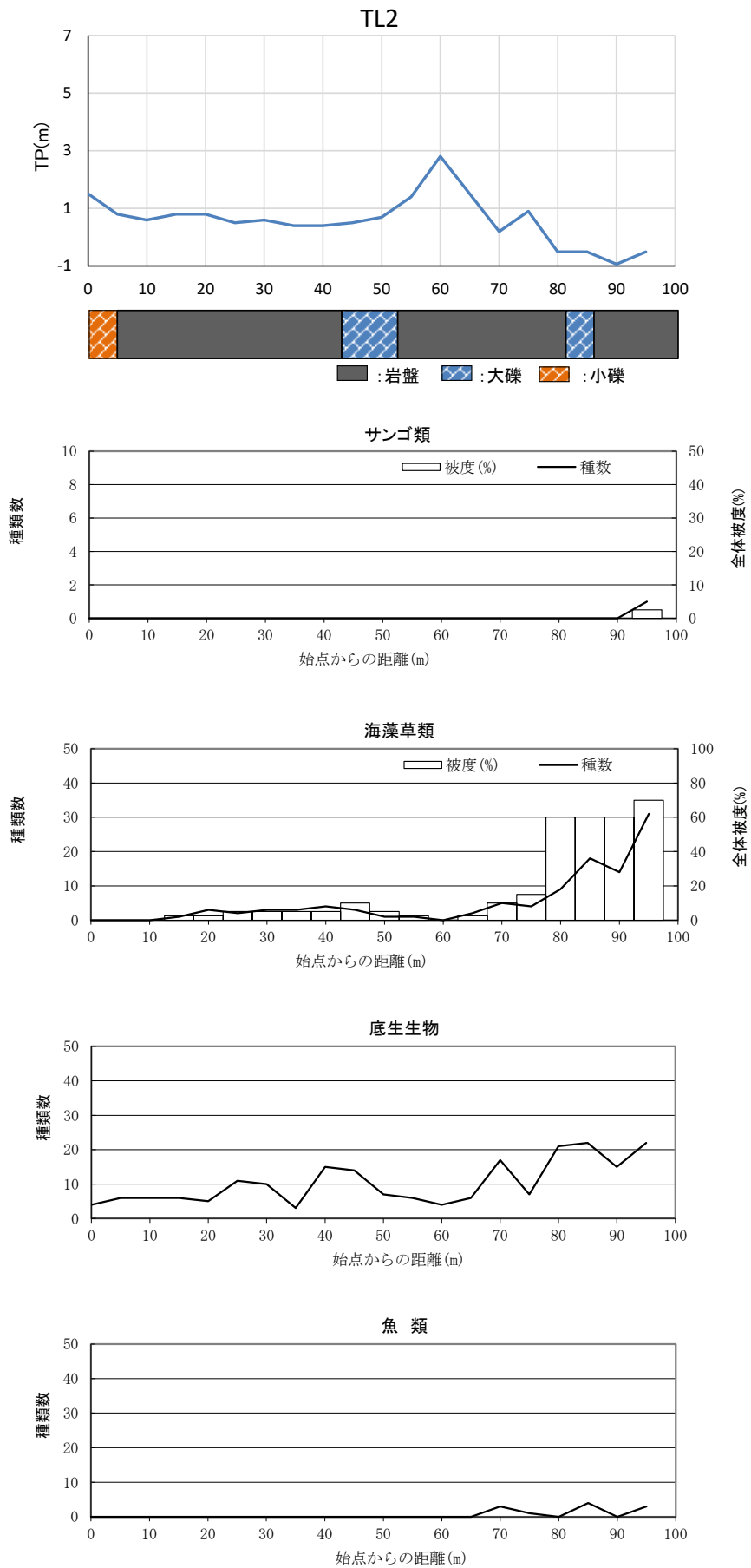


図-6.12.16 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 夏季

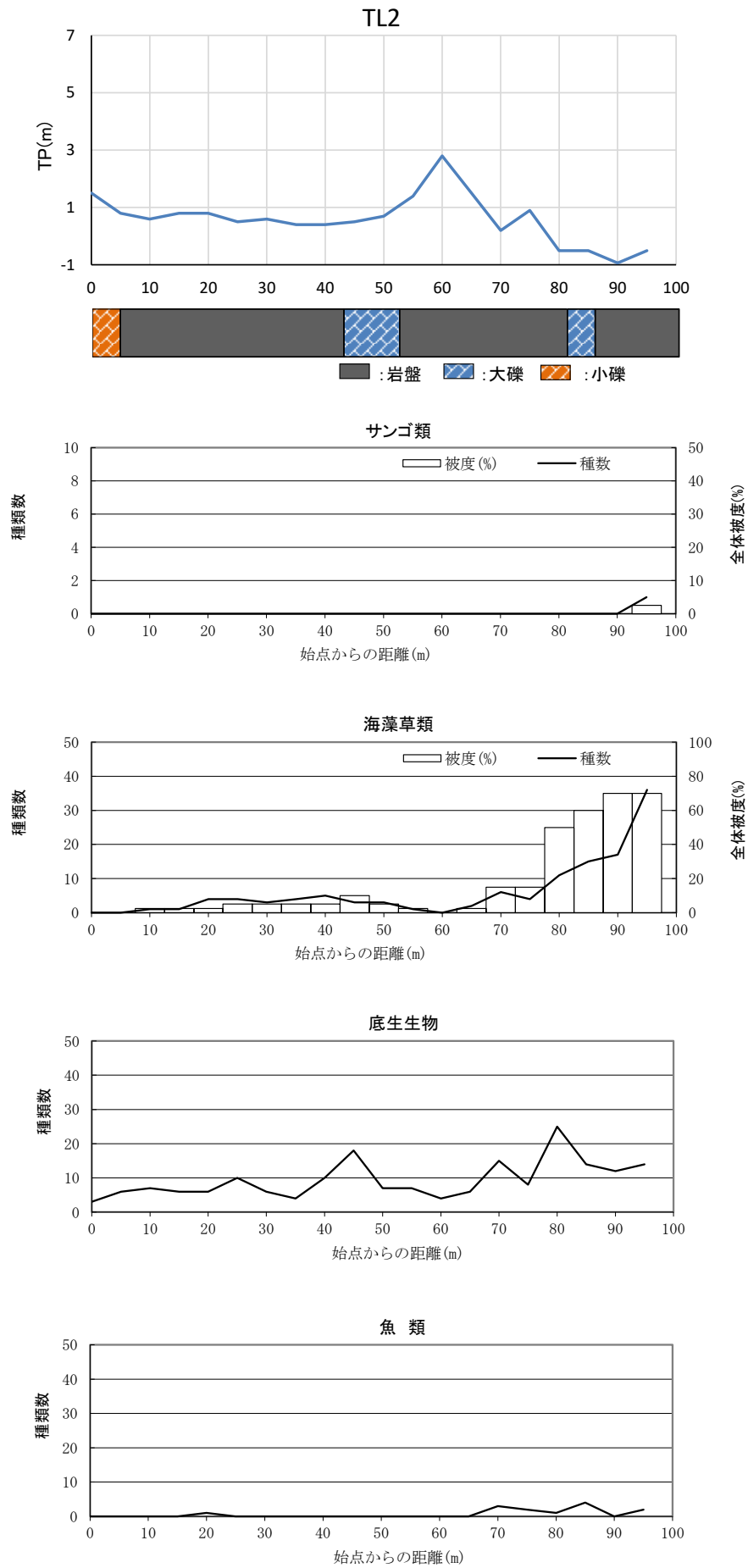


図-6.12.16 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 秋季



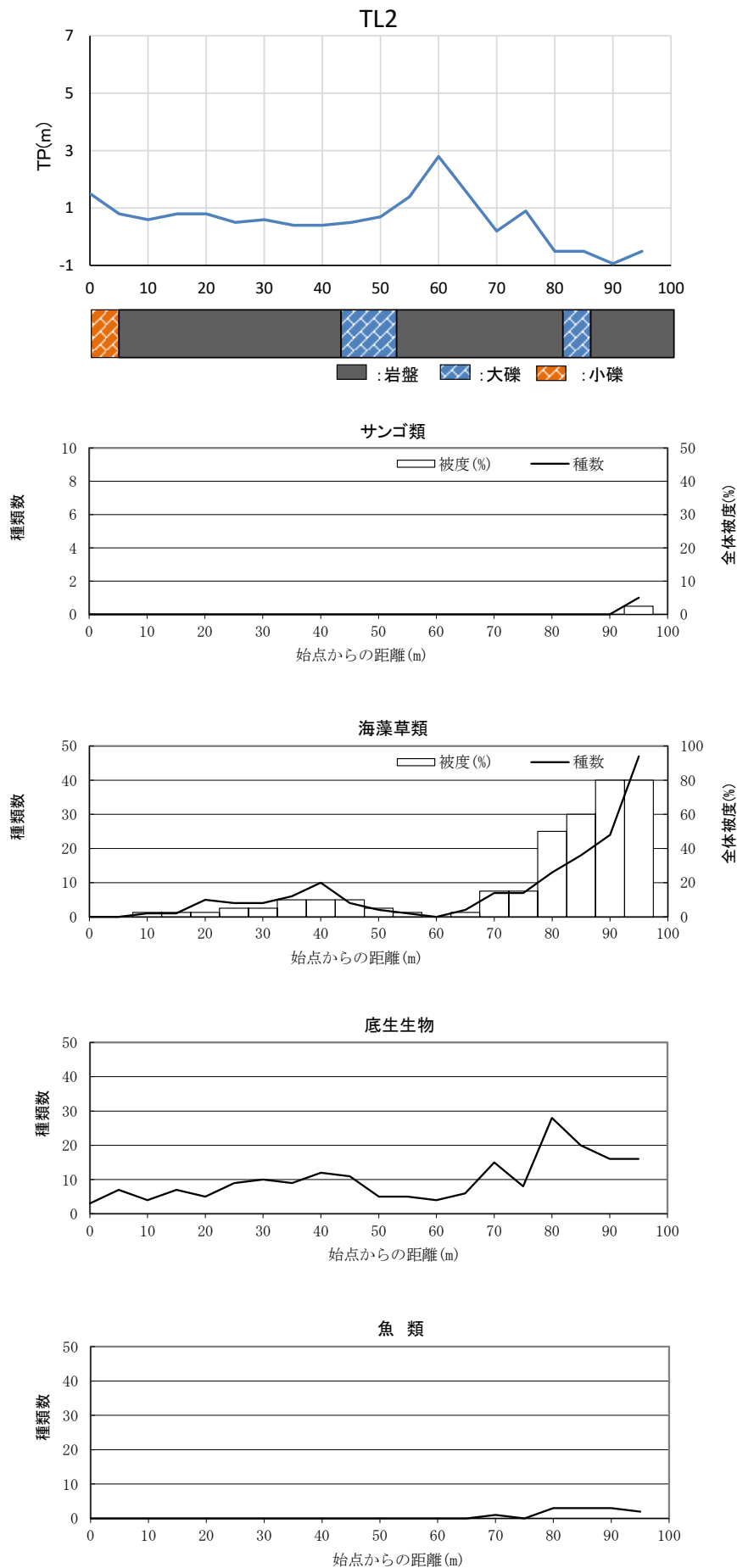


図-6.12.16 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL2) 冬季

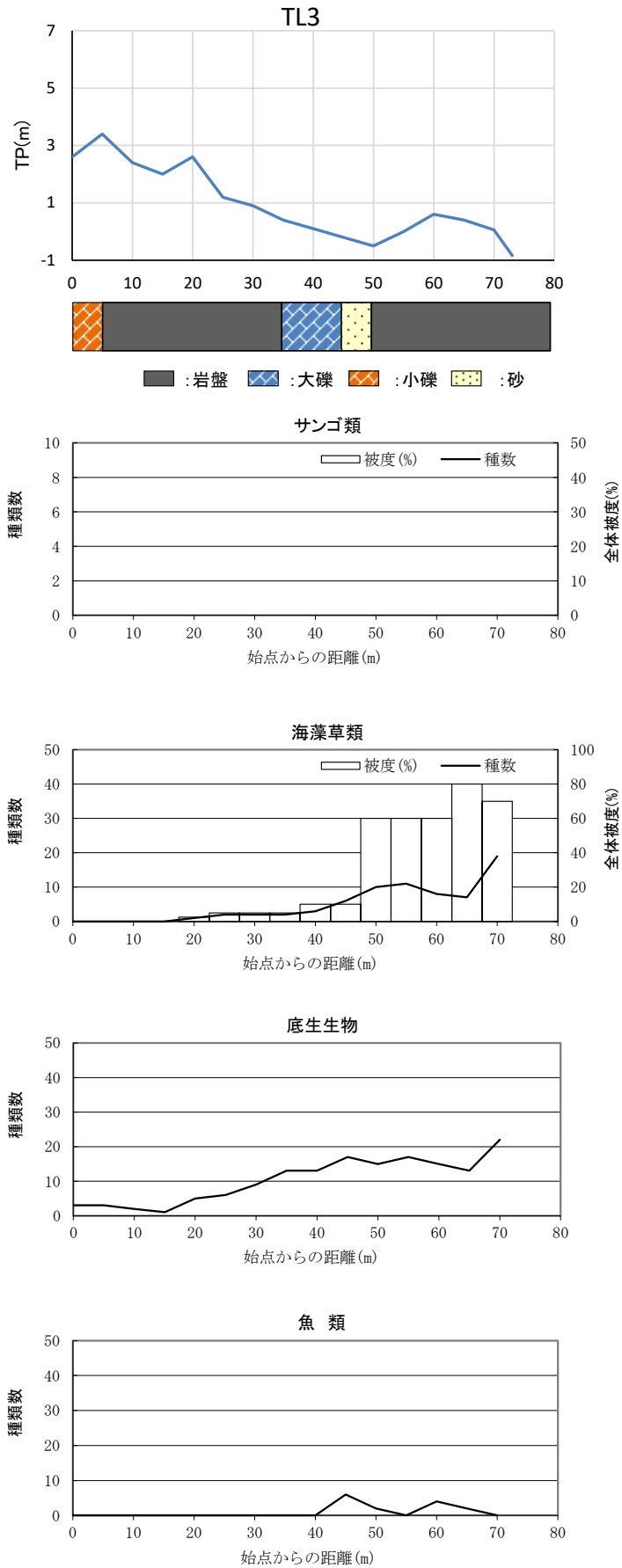


図-6.12.17 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査 : TL3) 春季

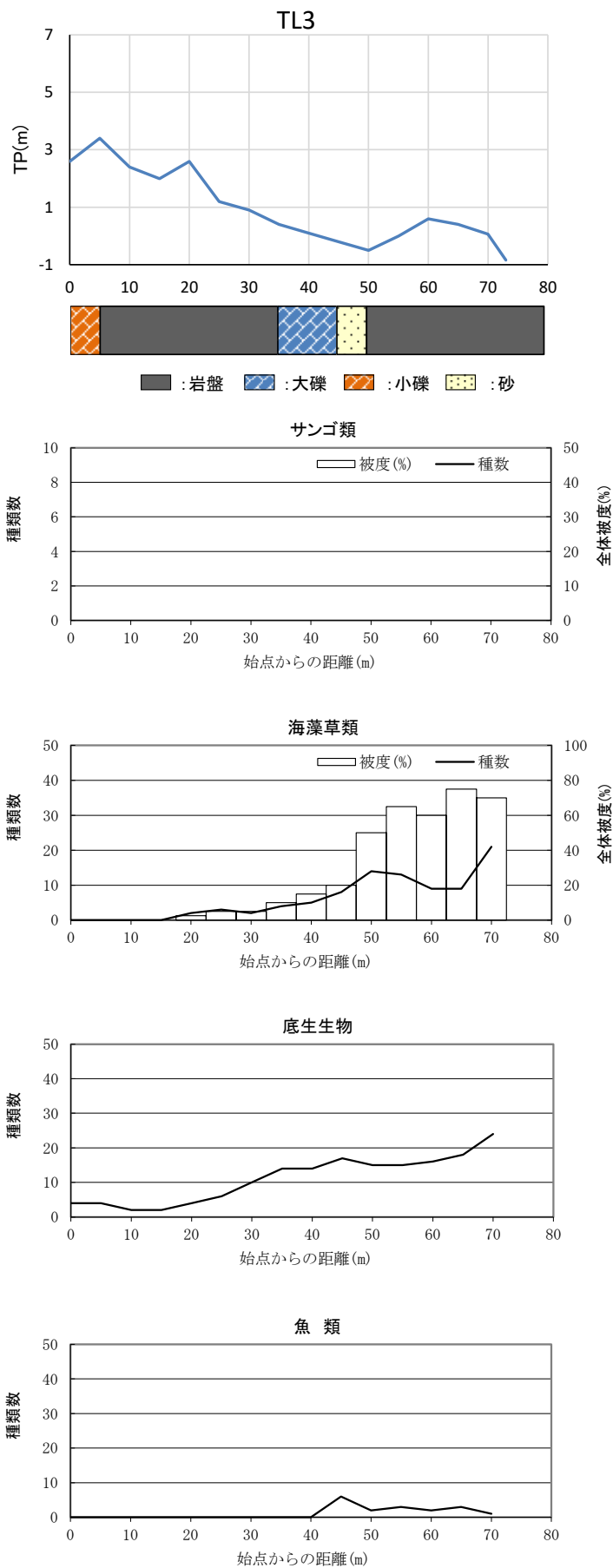


図-6.12.17 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 夏季

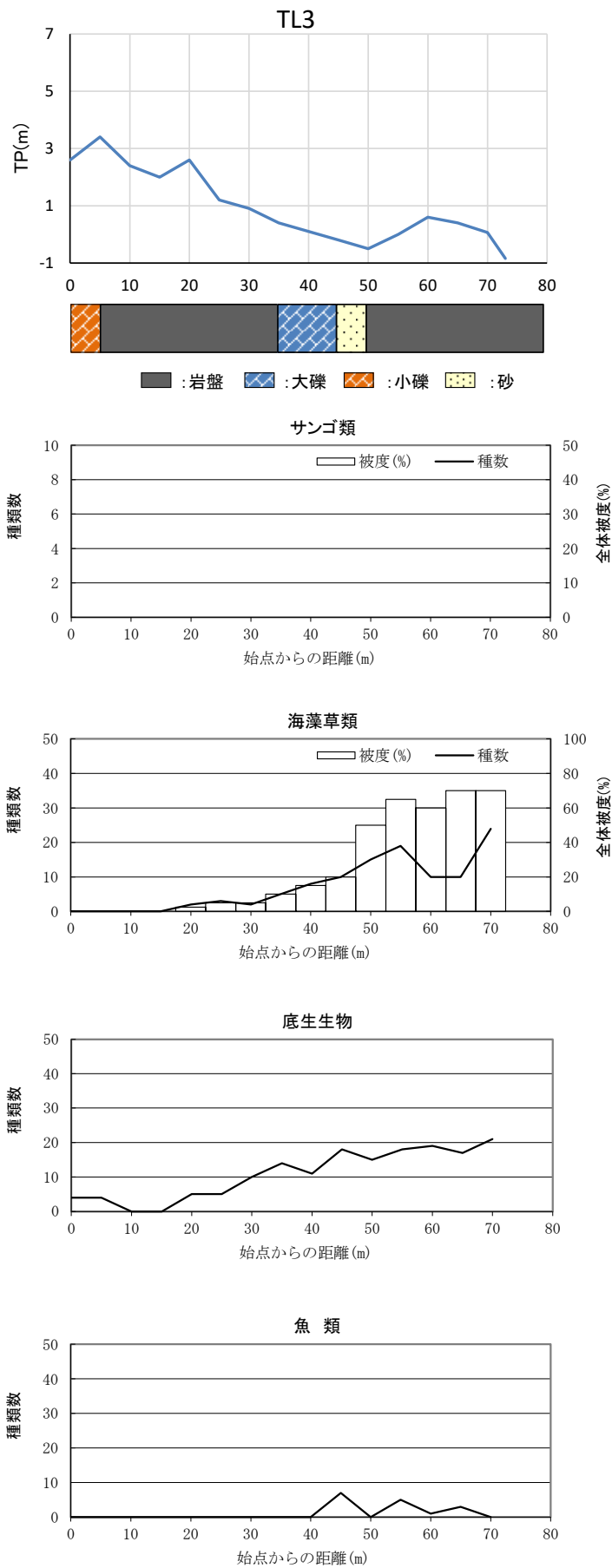


図-6.12.17 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 秋季

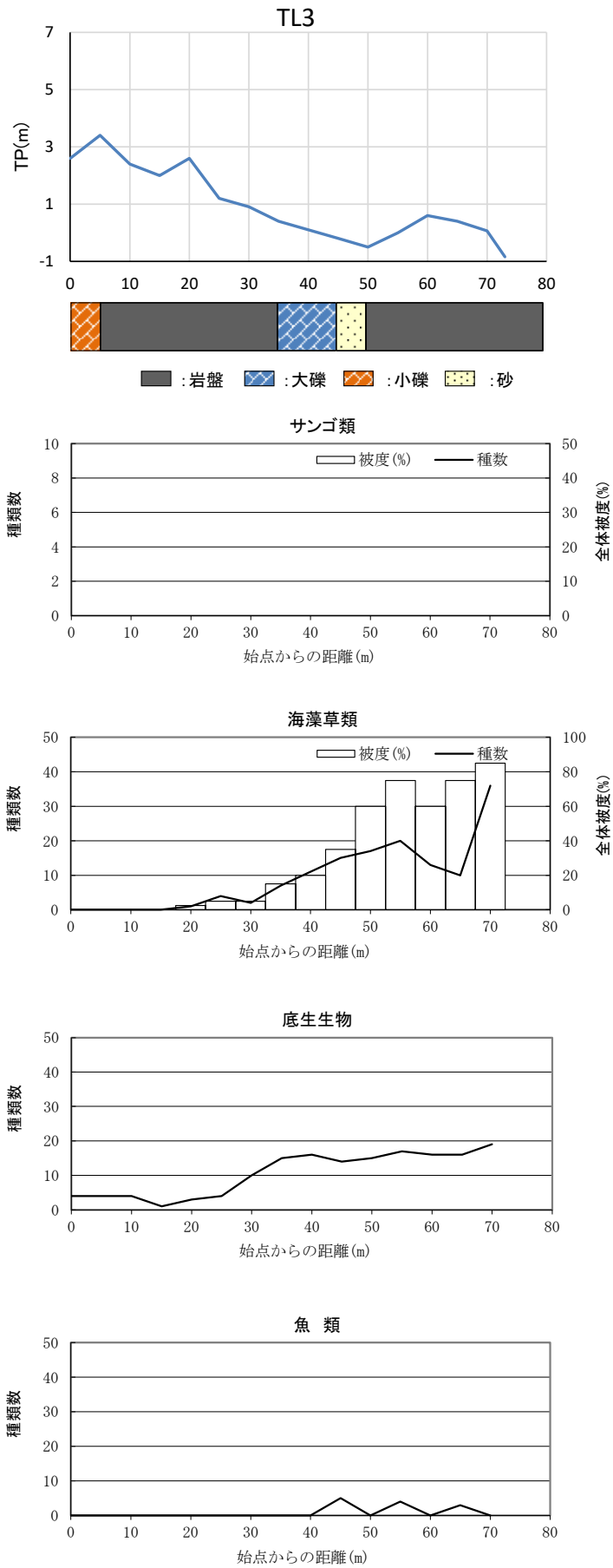


図-6.12.17 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL3) 冬季

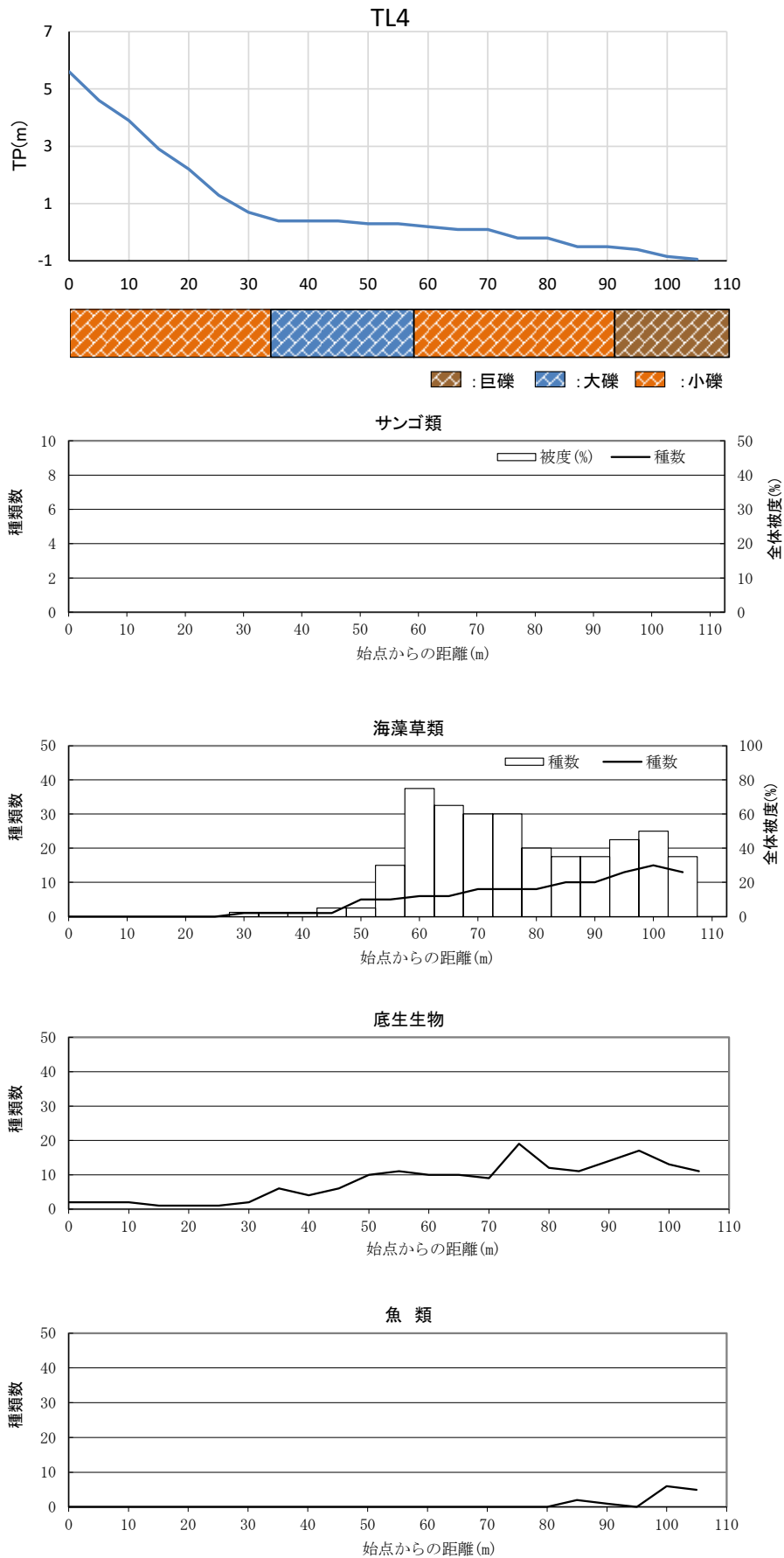


図-6.12.18 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 春季

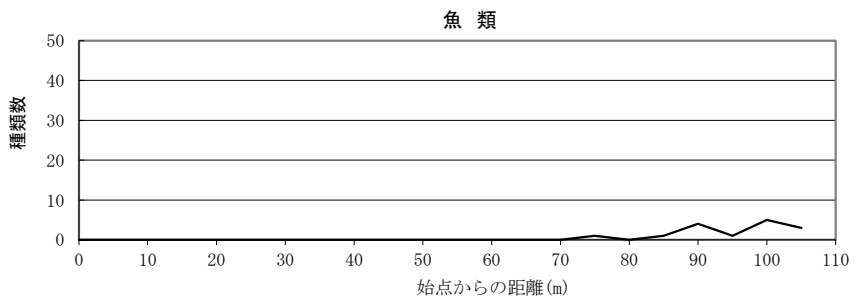
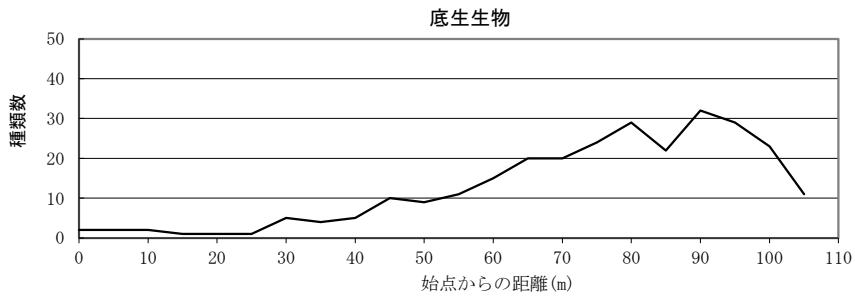
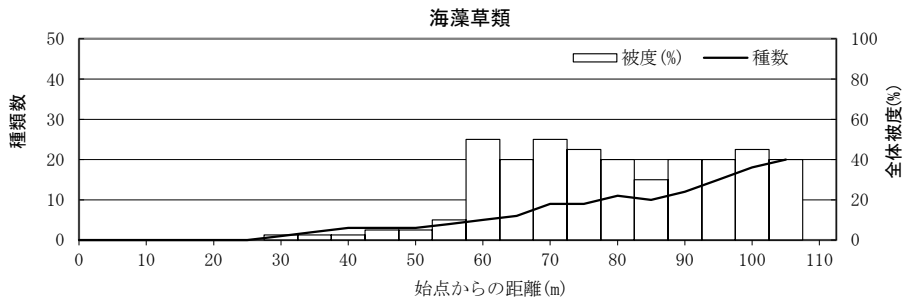
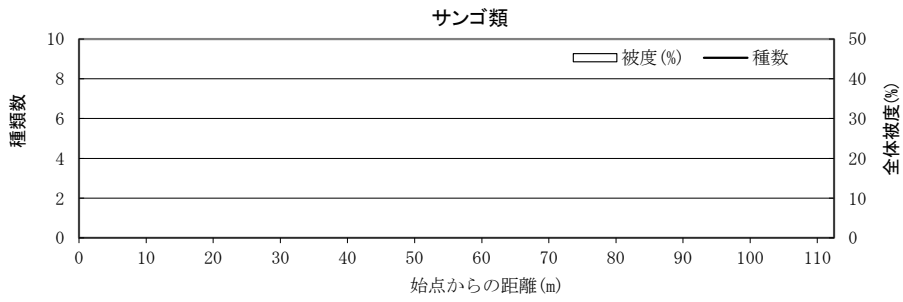
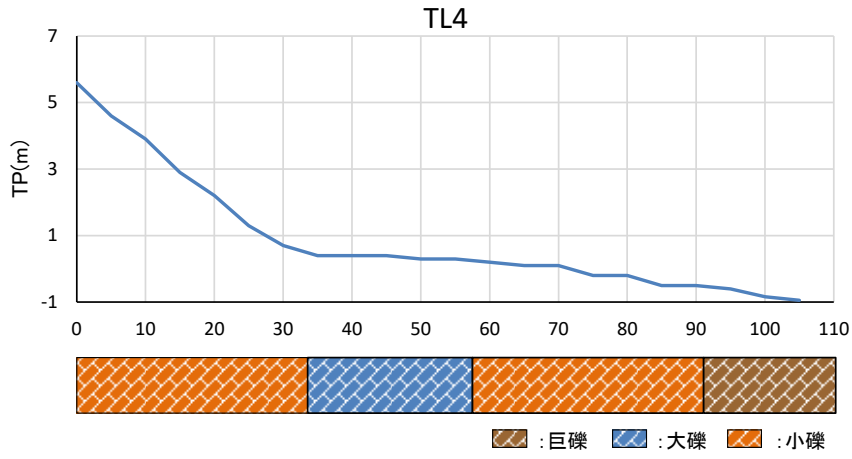


図-6.12.18 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 夏季

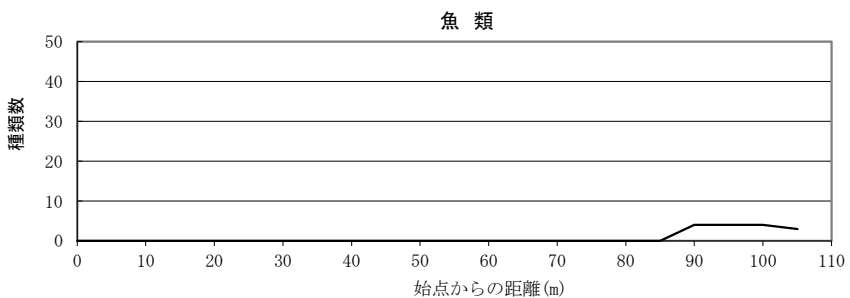
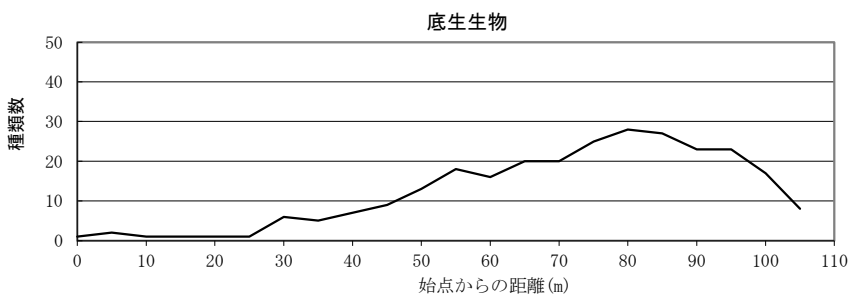
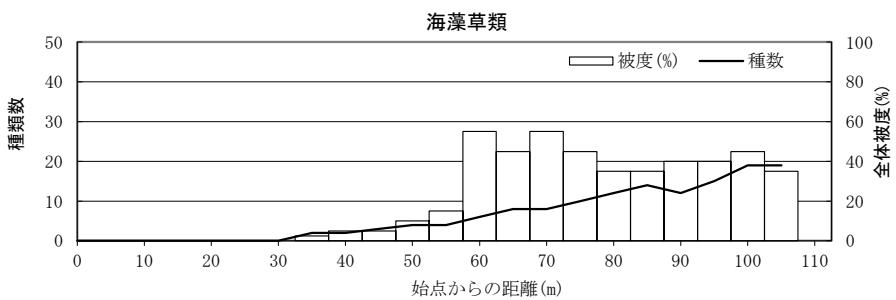
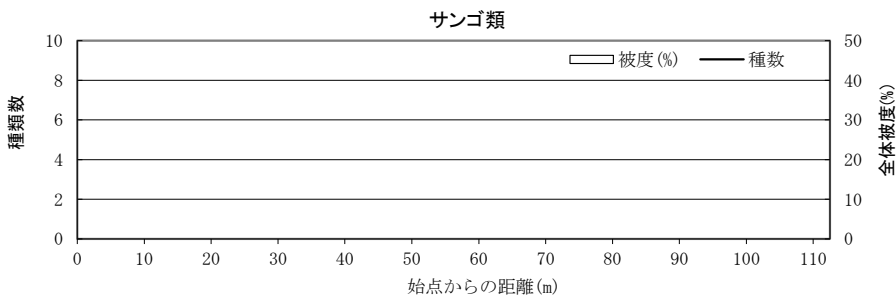
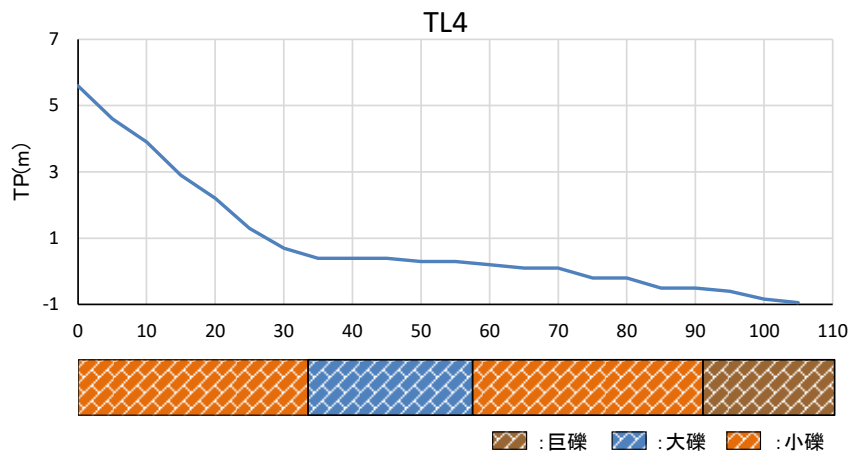


図-6.12.18 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 秋季



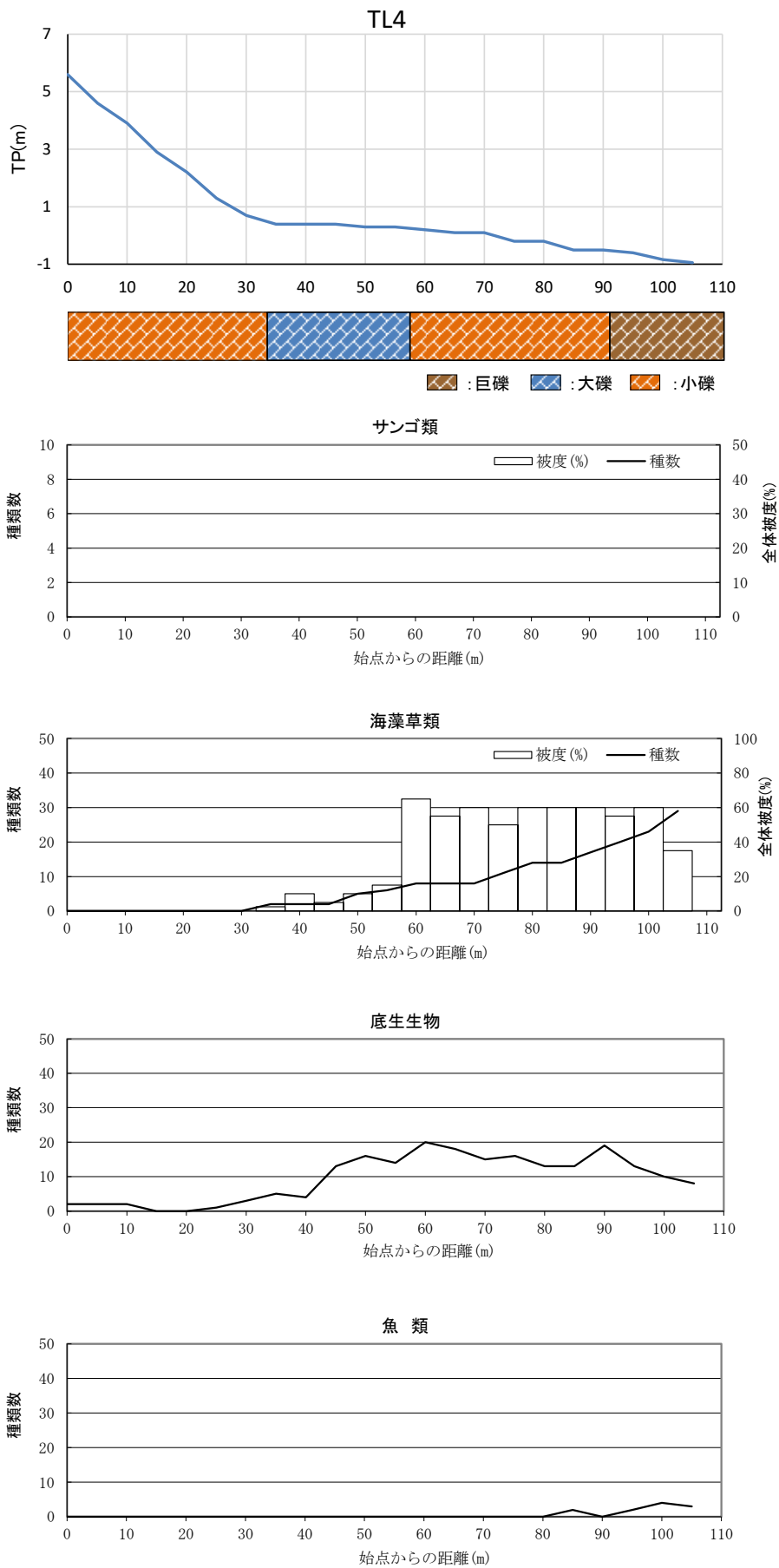


図-6.12.18 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL4) 冬季

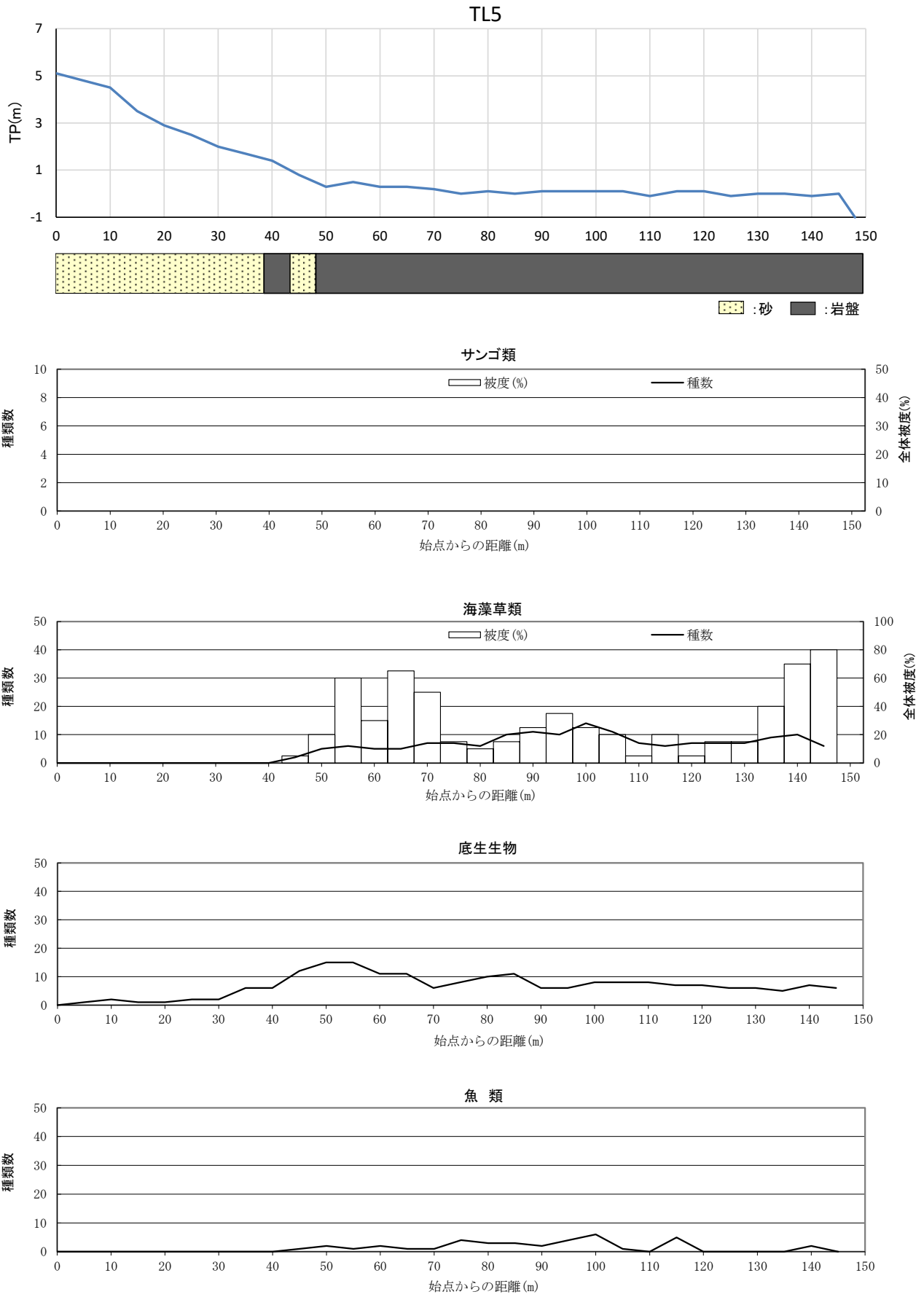


図-6.12.19 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 春季

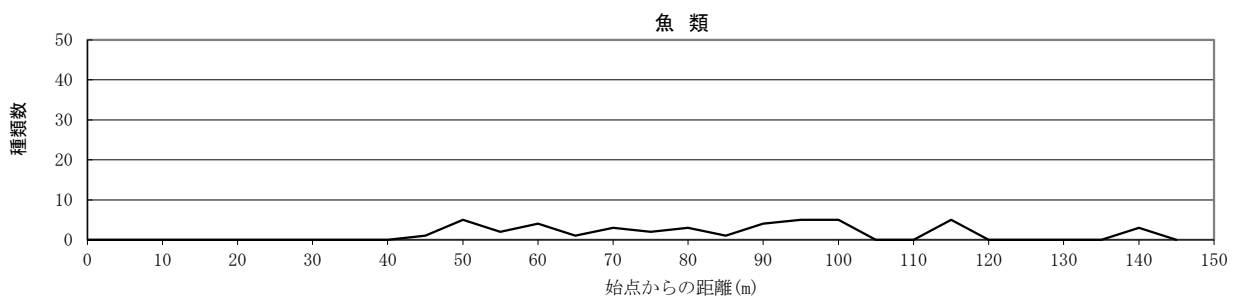
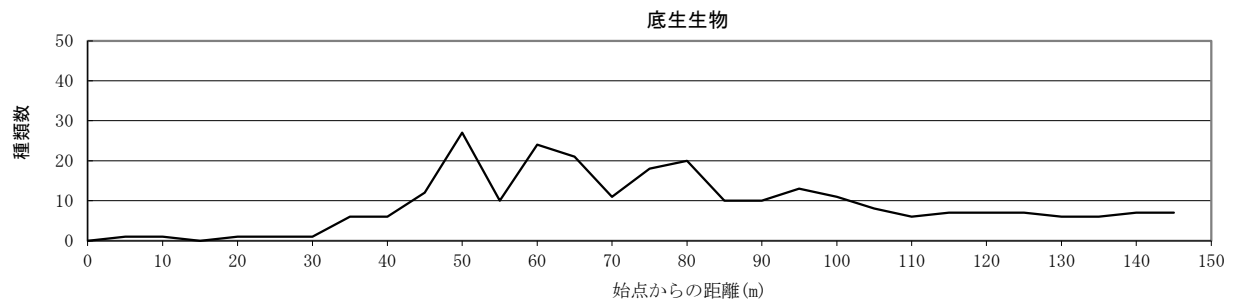
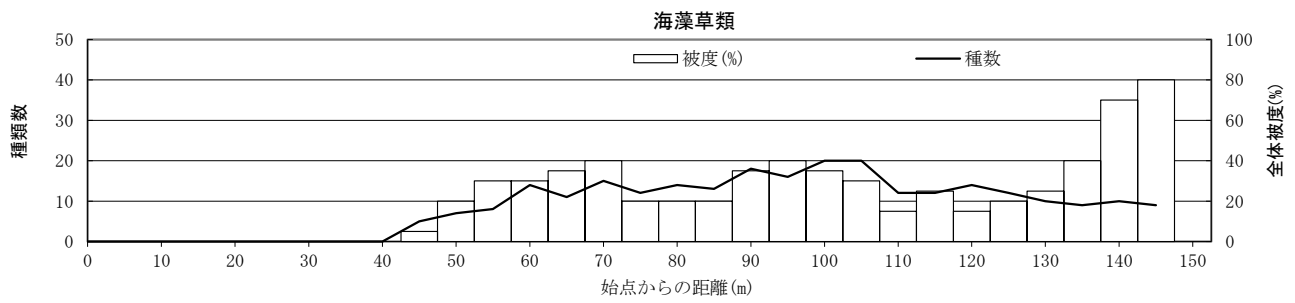
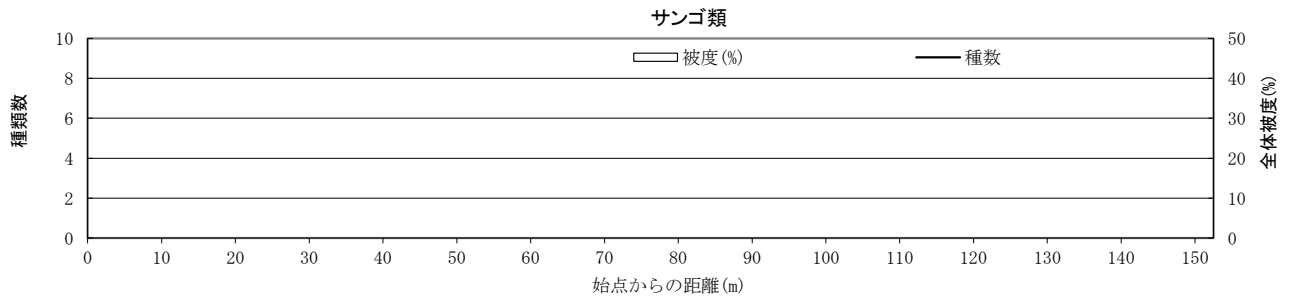
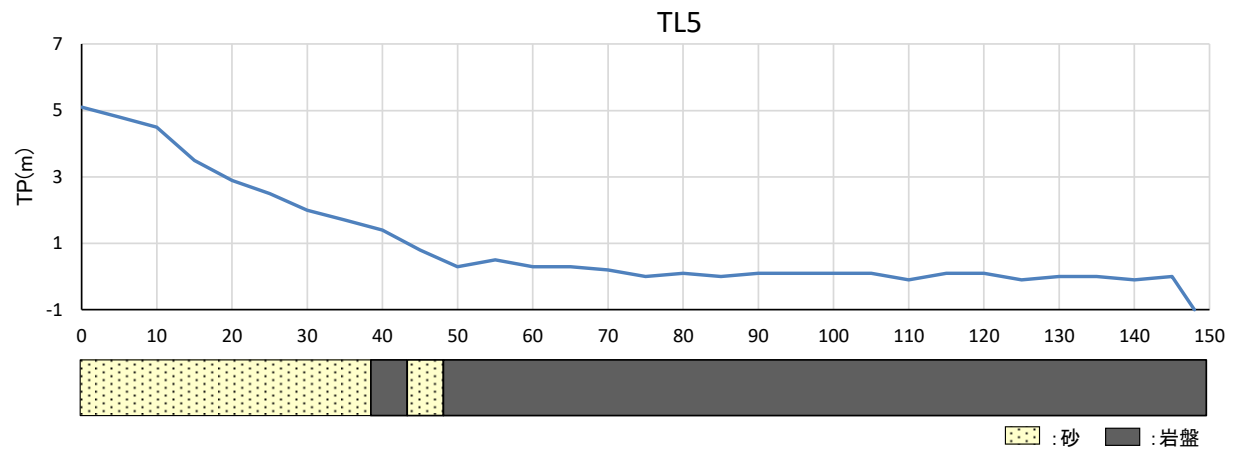


図-6.12.19 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 夏季

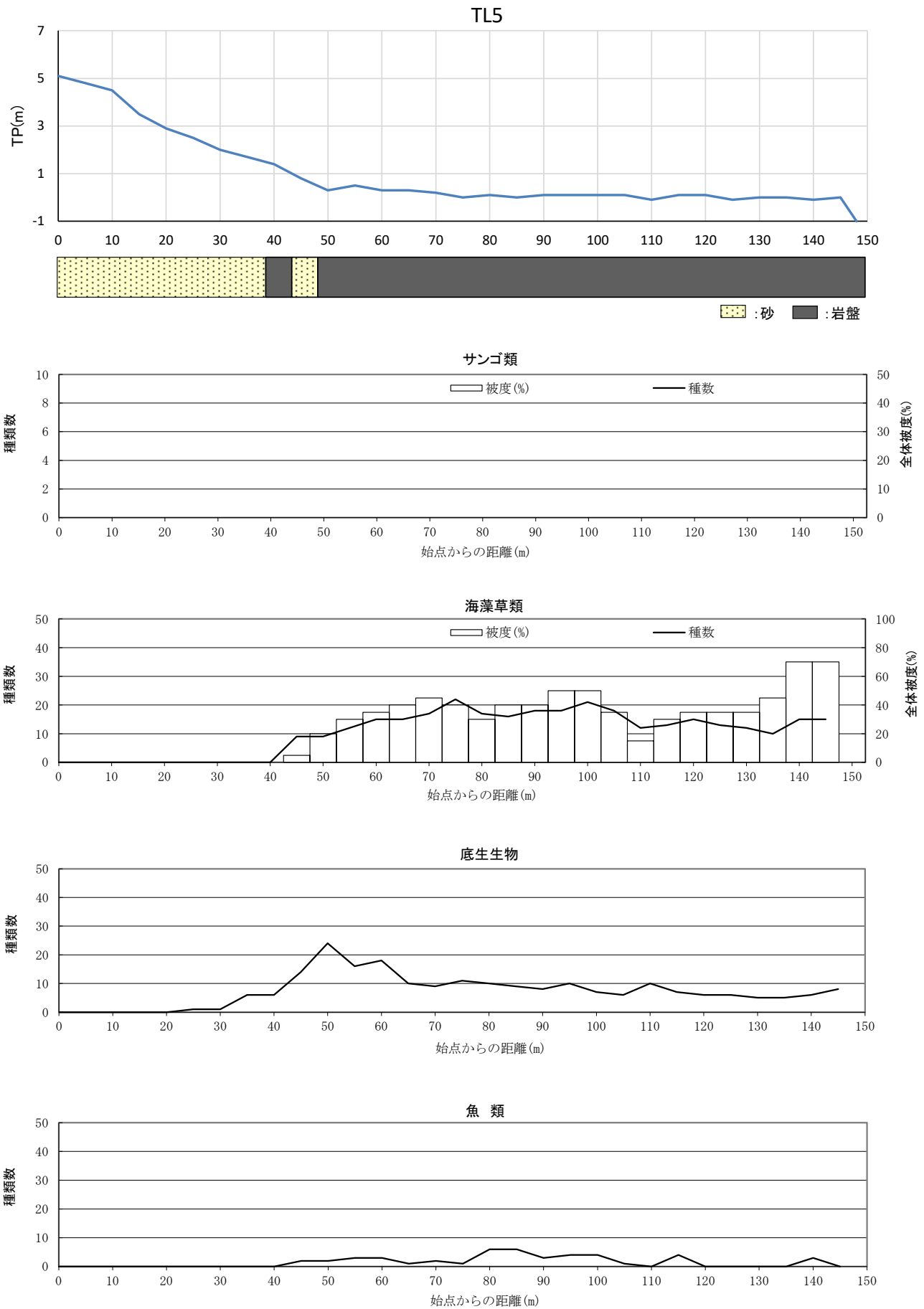


図-6.12.19 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL5) 秋季

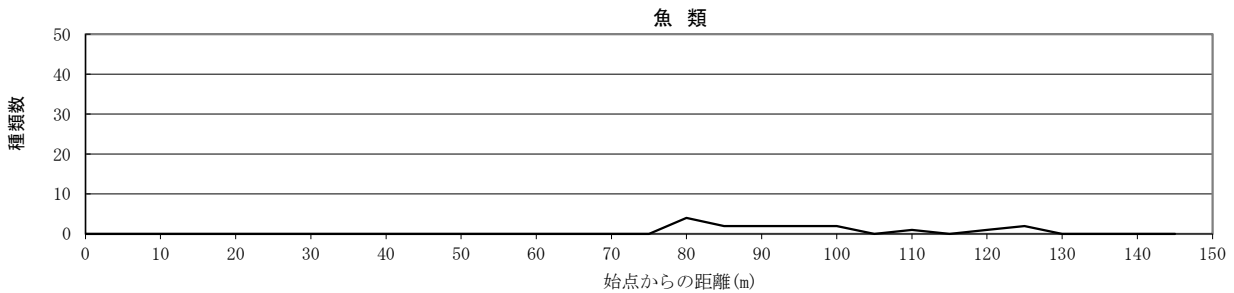
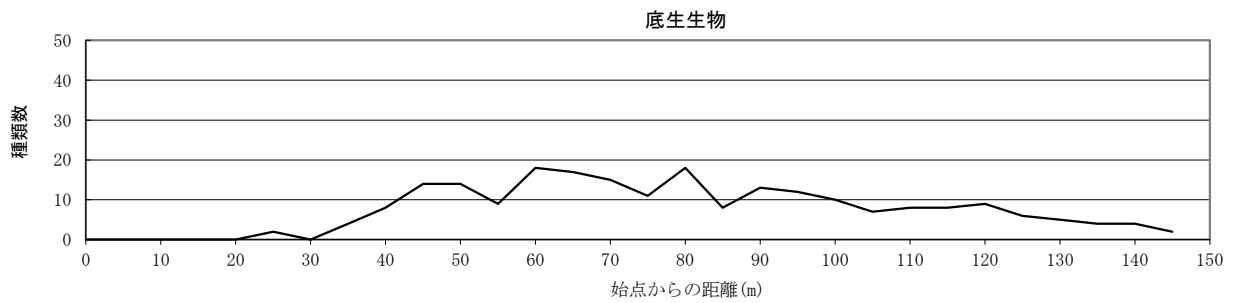
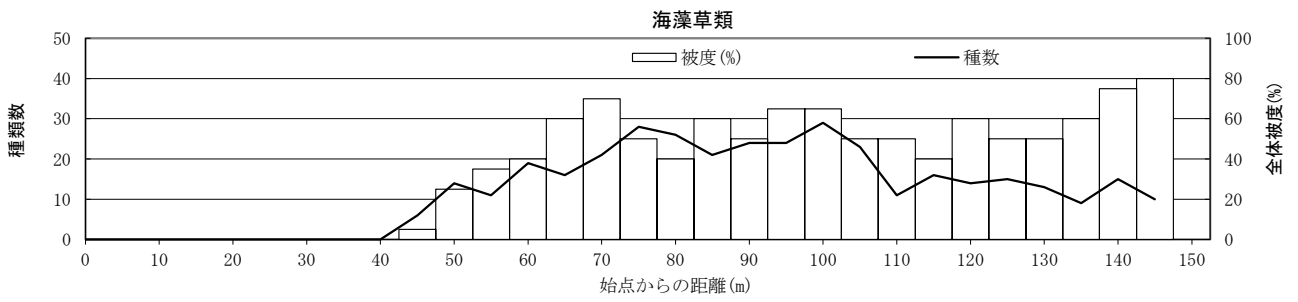
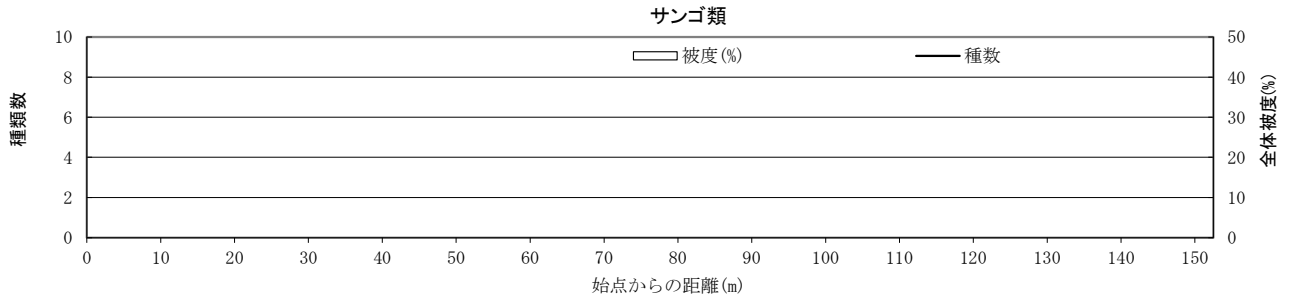
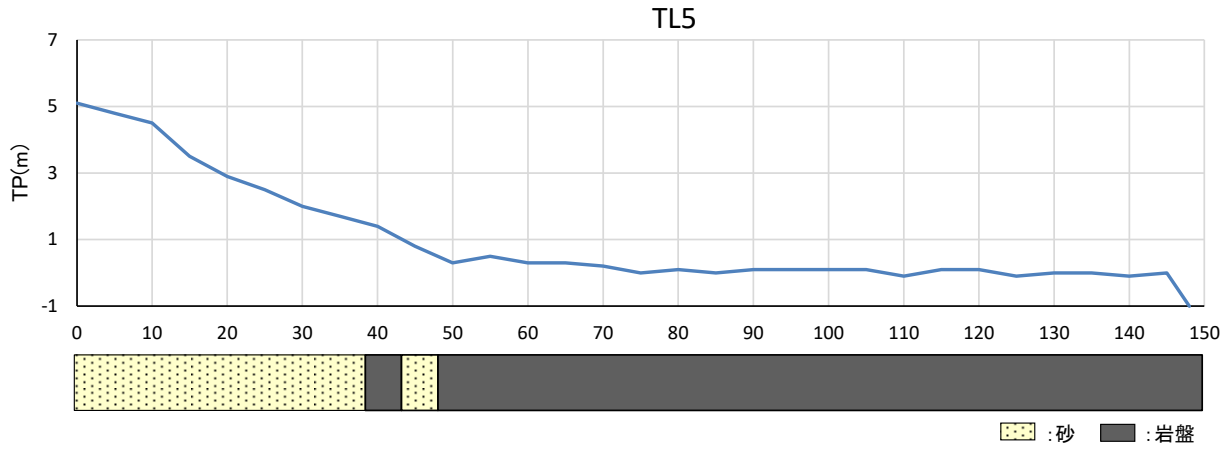


図-6.12.19 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査 : TL5) 冬季

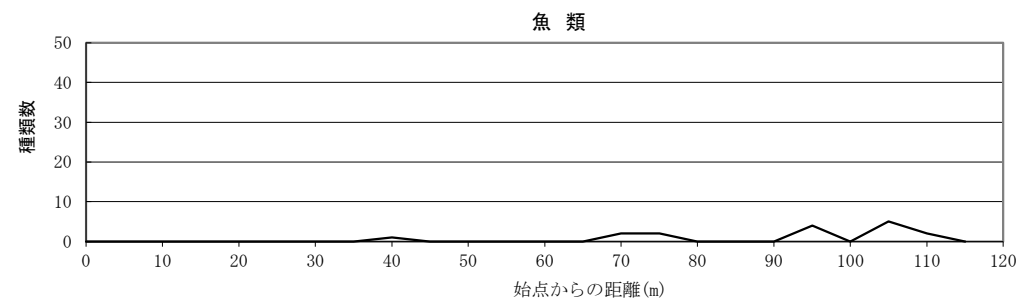
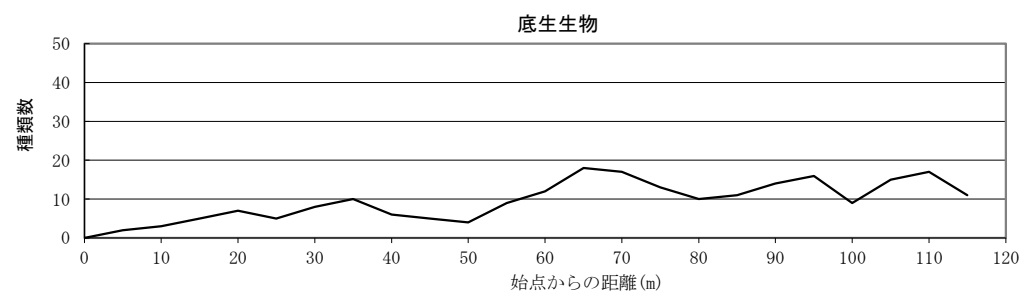
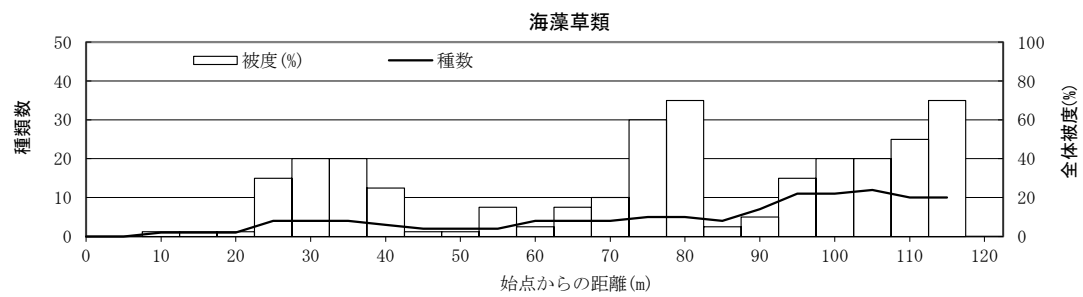
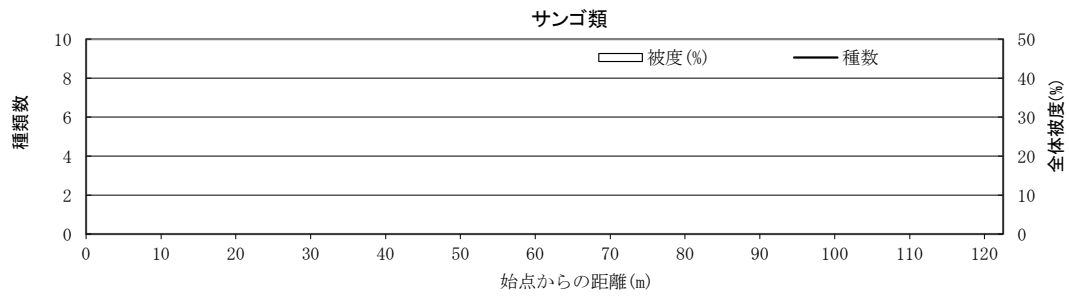
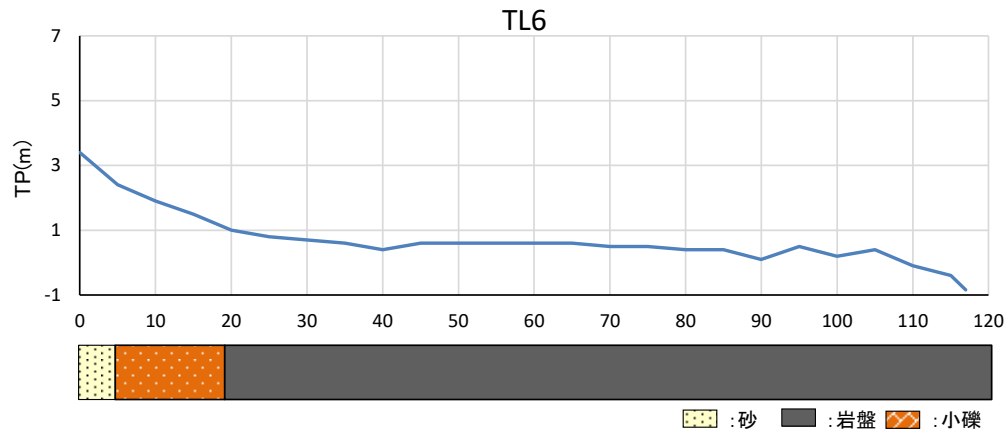


図-6.12.20 (1) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 春季

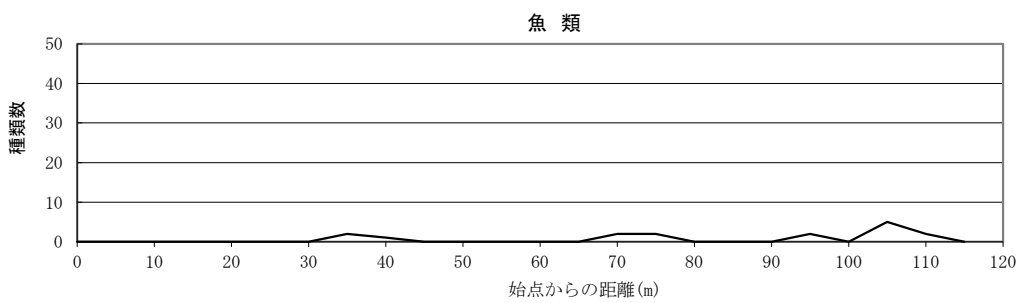
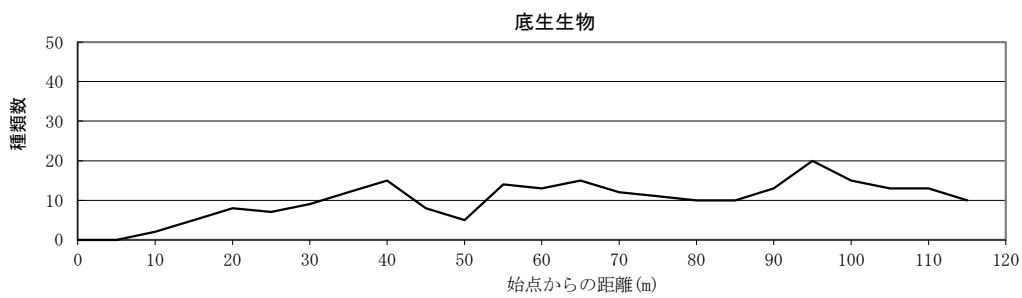
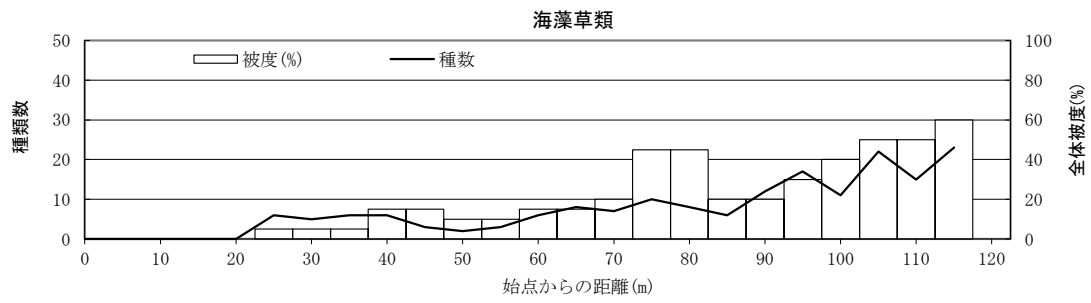
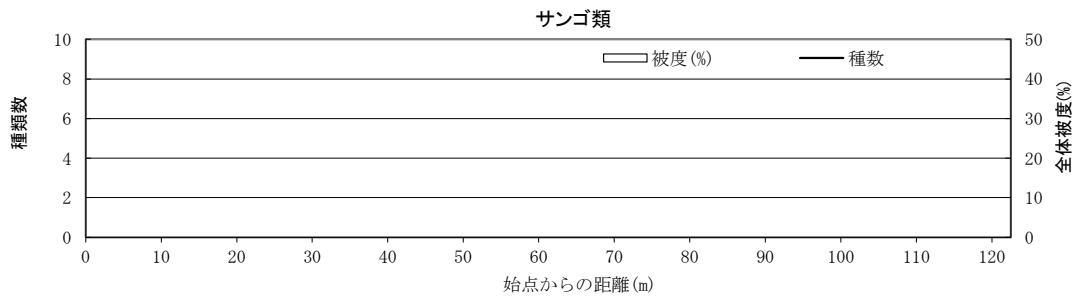
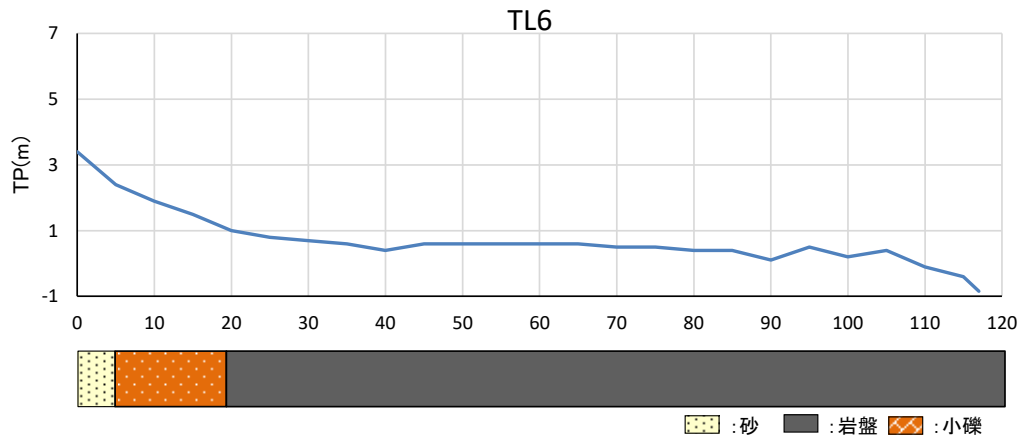


図-6.12.20 (2) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 夏季

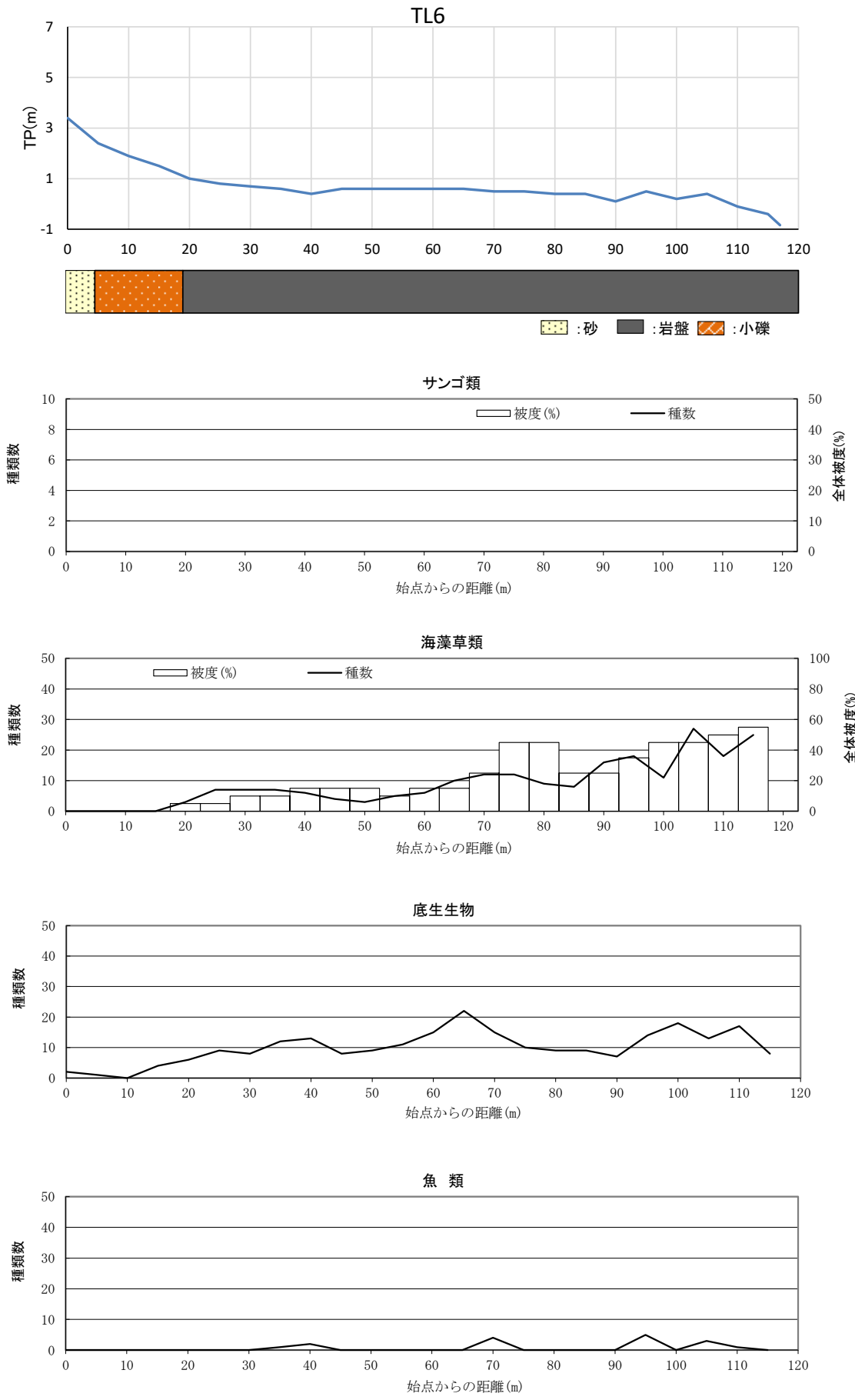


図-6.12.20 (3) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 秋季



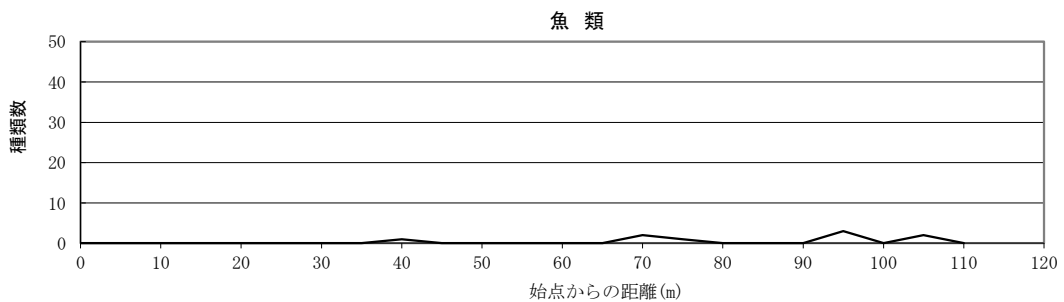
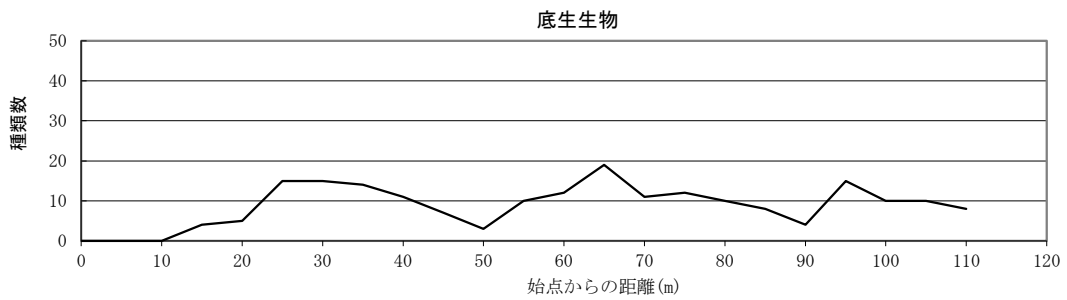
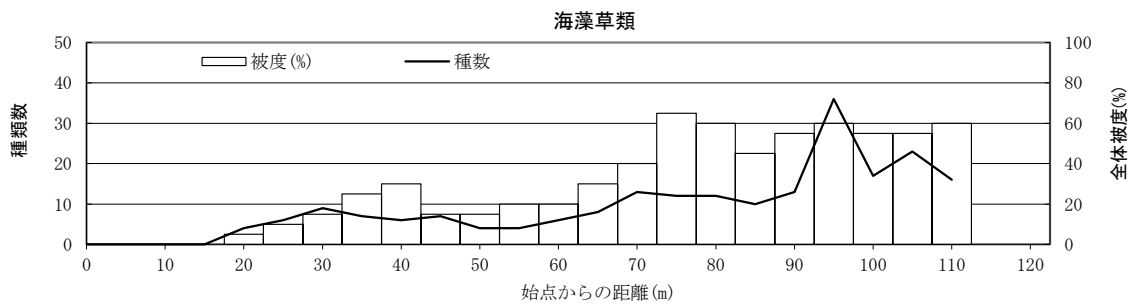
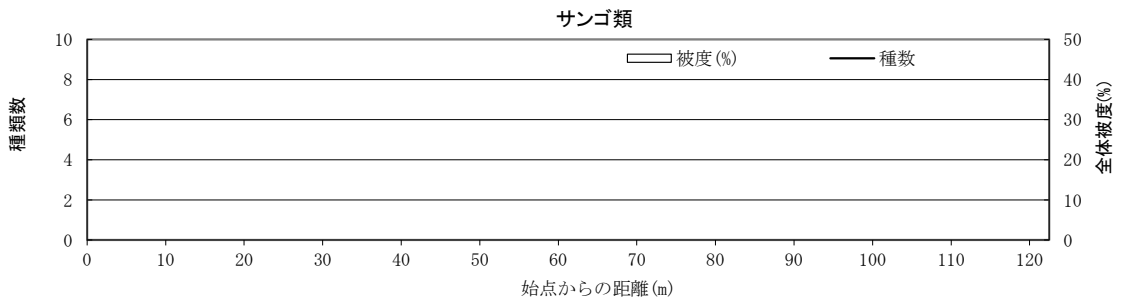
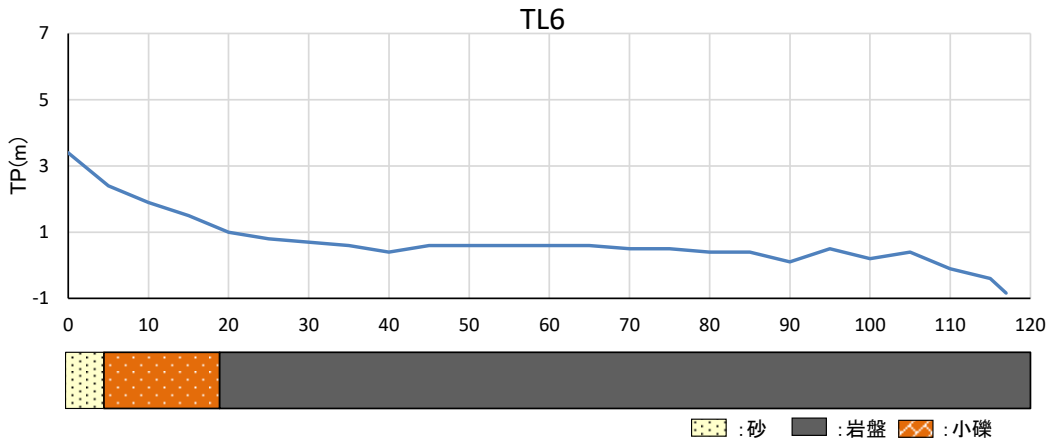


図-6.12.20 (4) 調査測線の断面模式図 (潮間帯生物ライン調査: TL6) 冬季

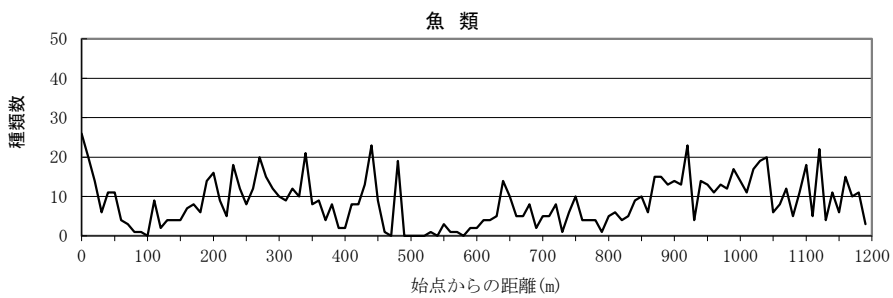
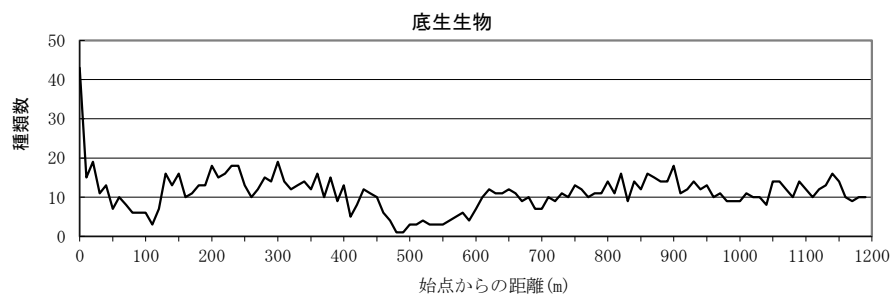
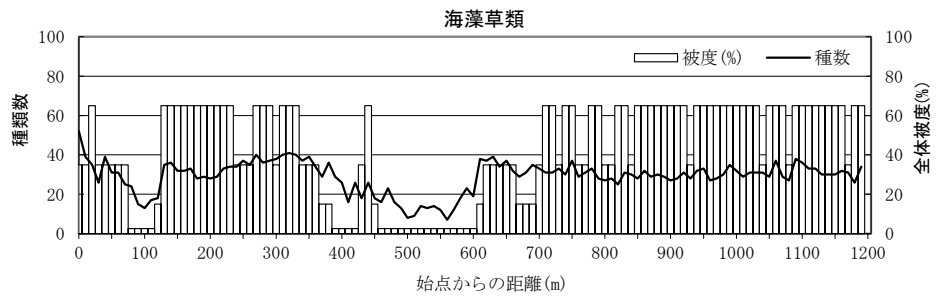
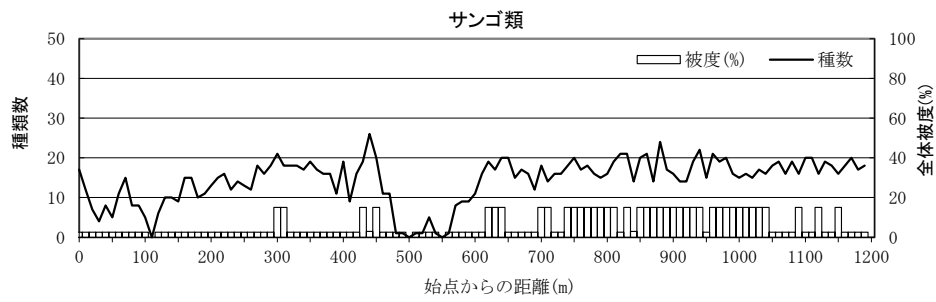
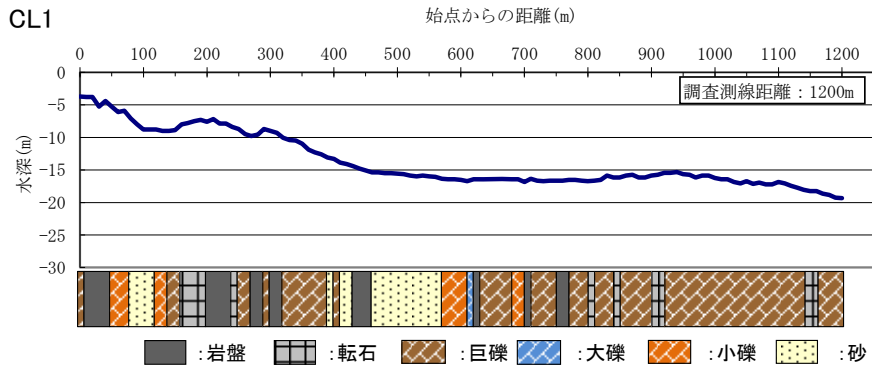


図-6.12.21 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査:CL1) 春季

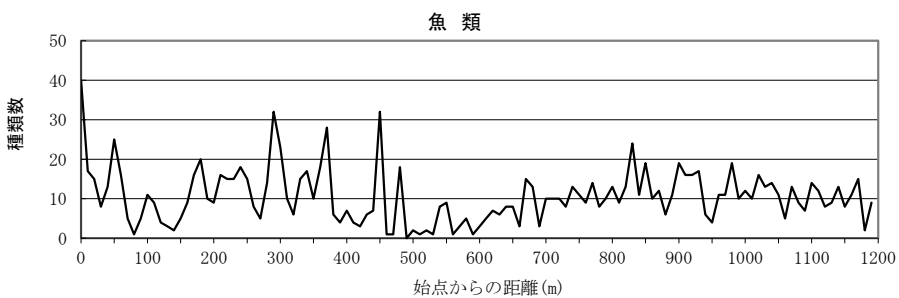
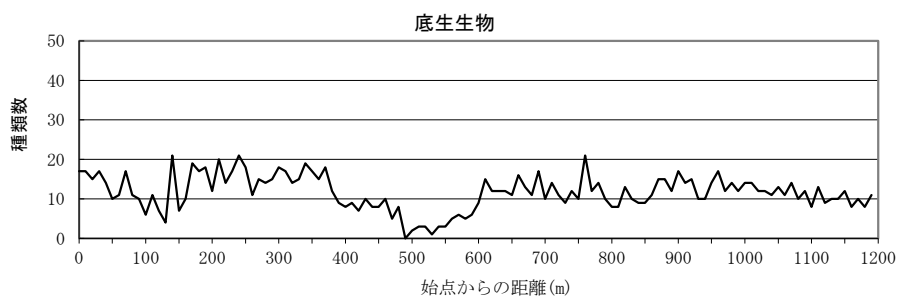
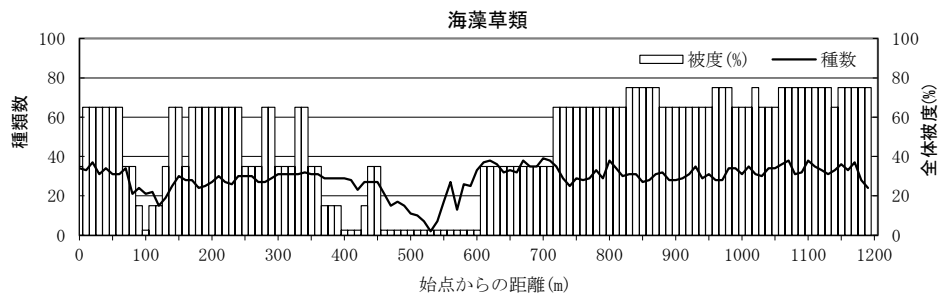
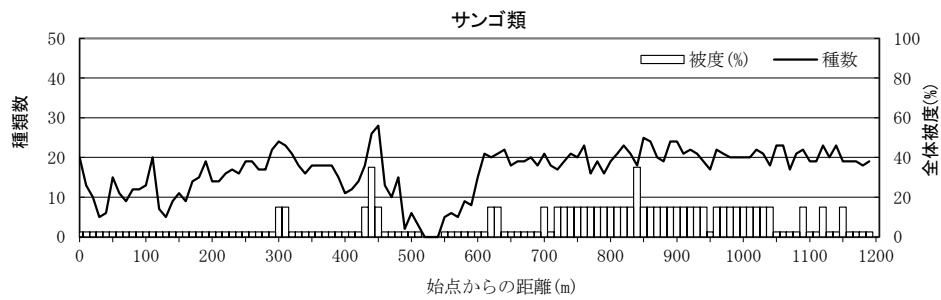
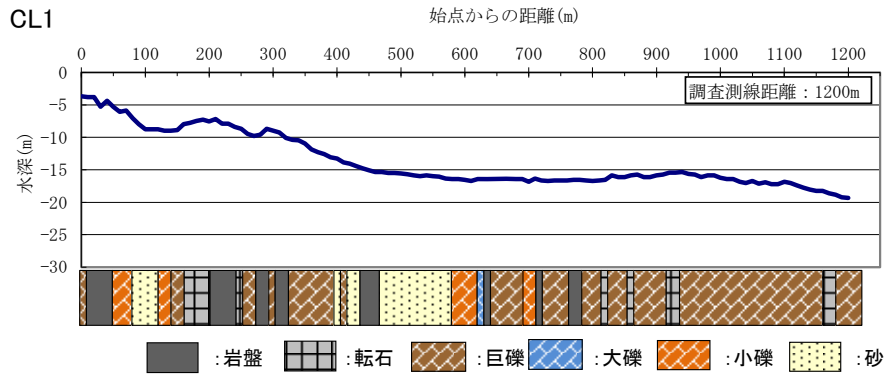


図-6.12.21 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL1) 夏季

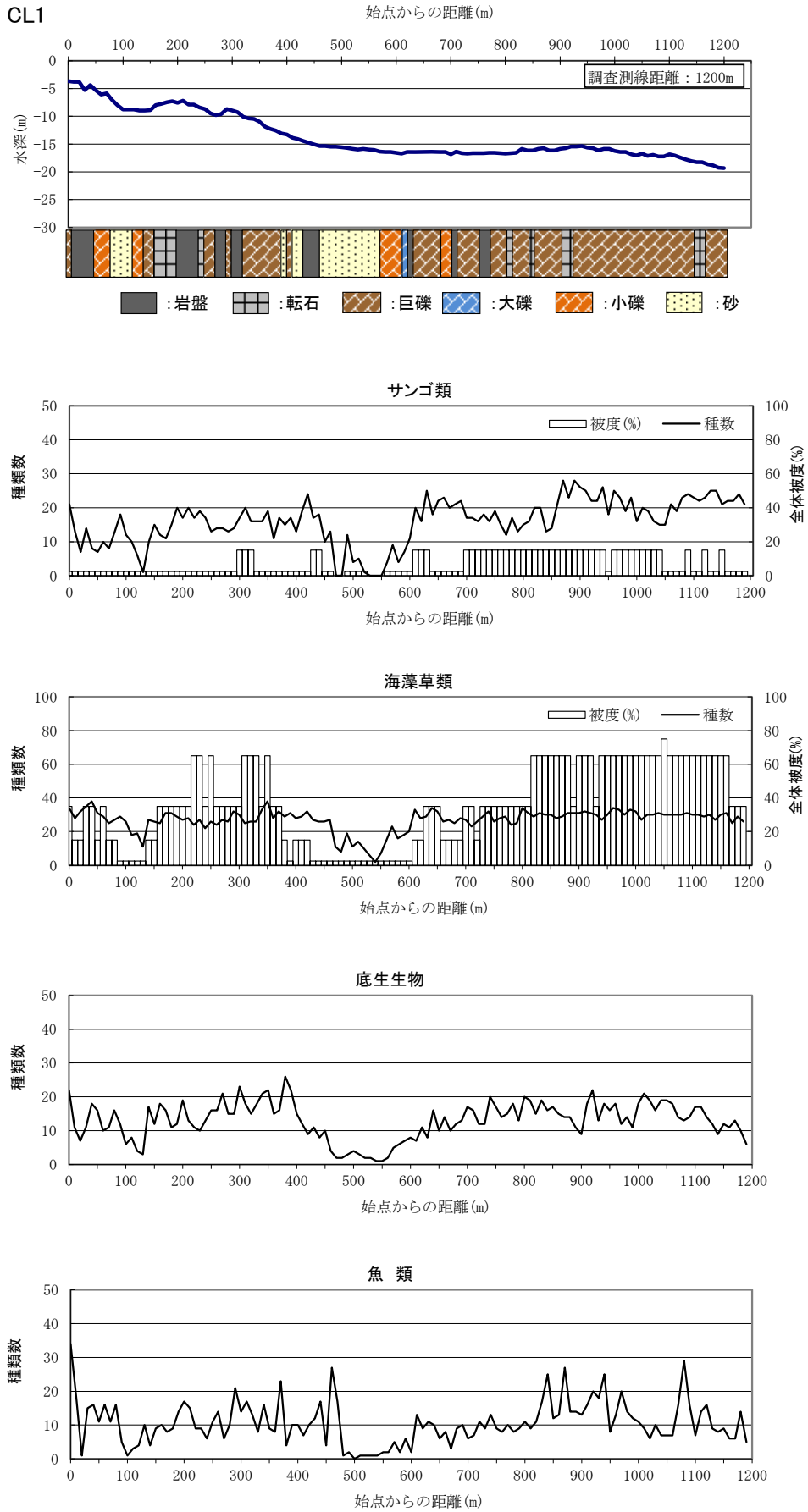


図-6.12.21 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL1) 秋季

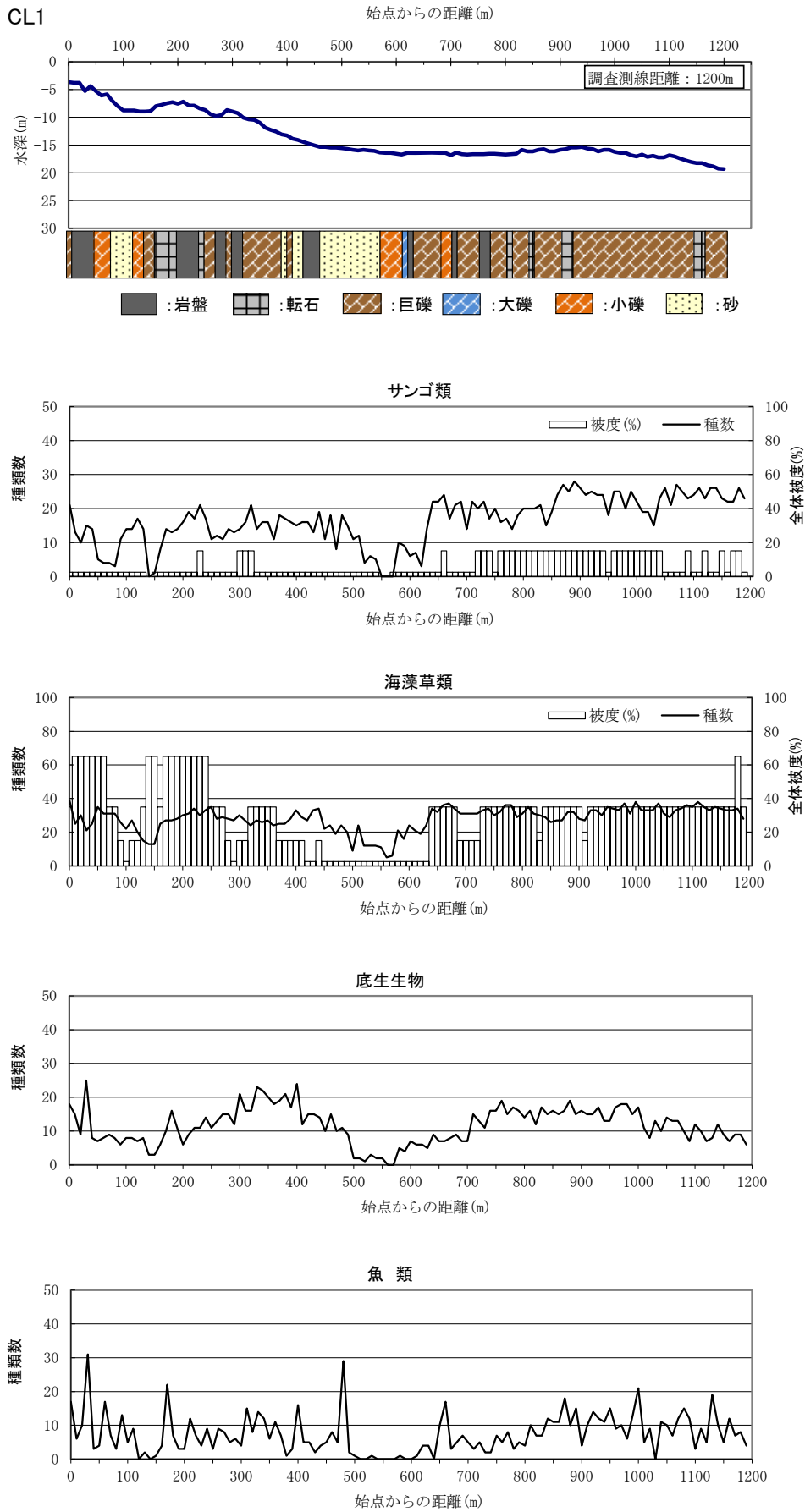


図-6.12.21 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL1) 冬季

CL2

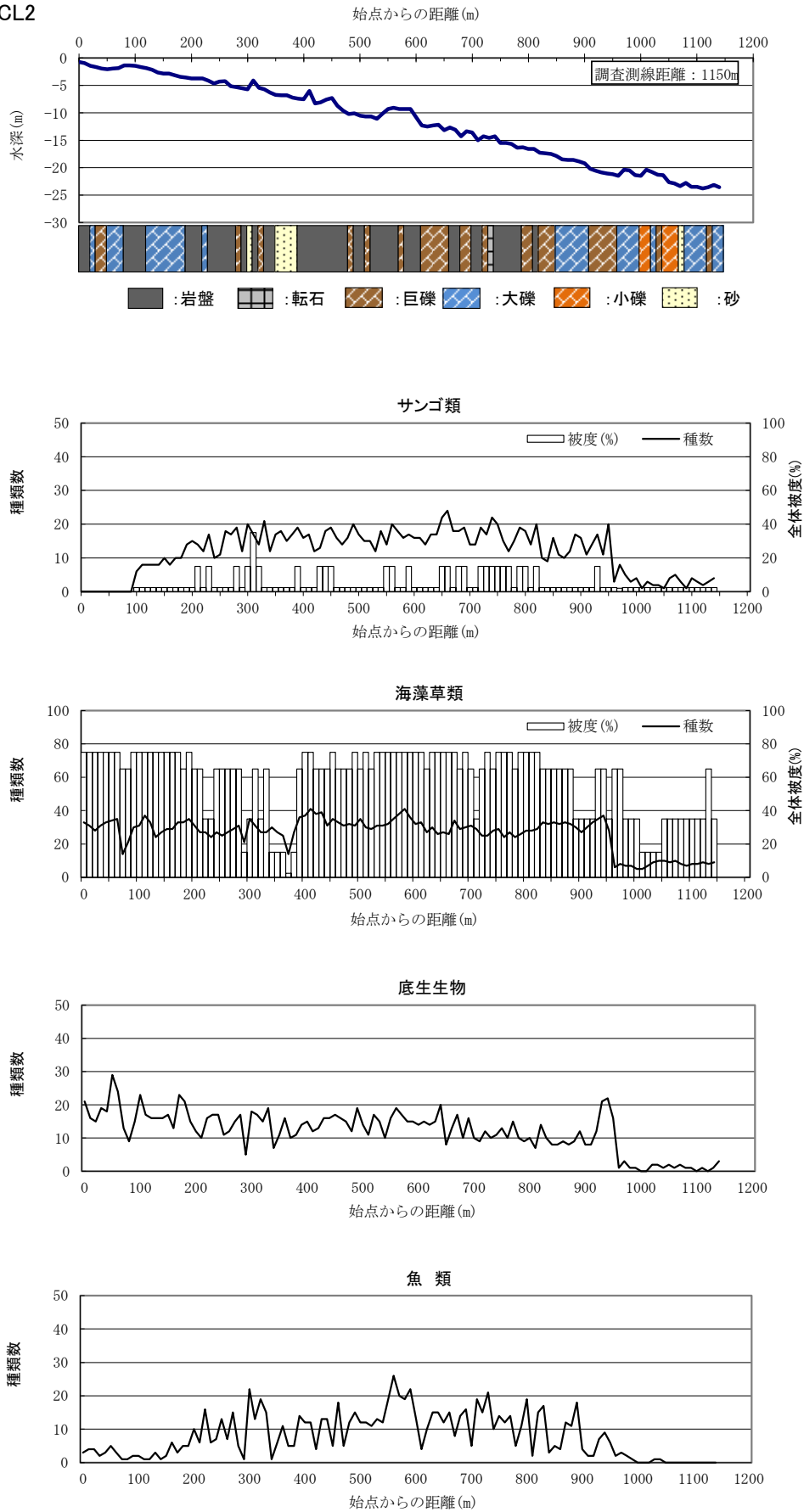


図-6.12.22 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 春季

CL2

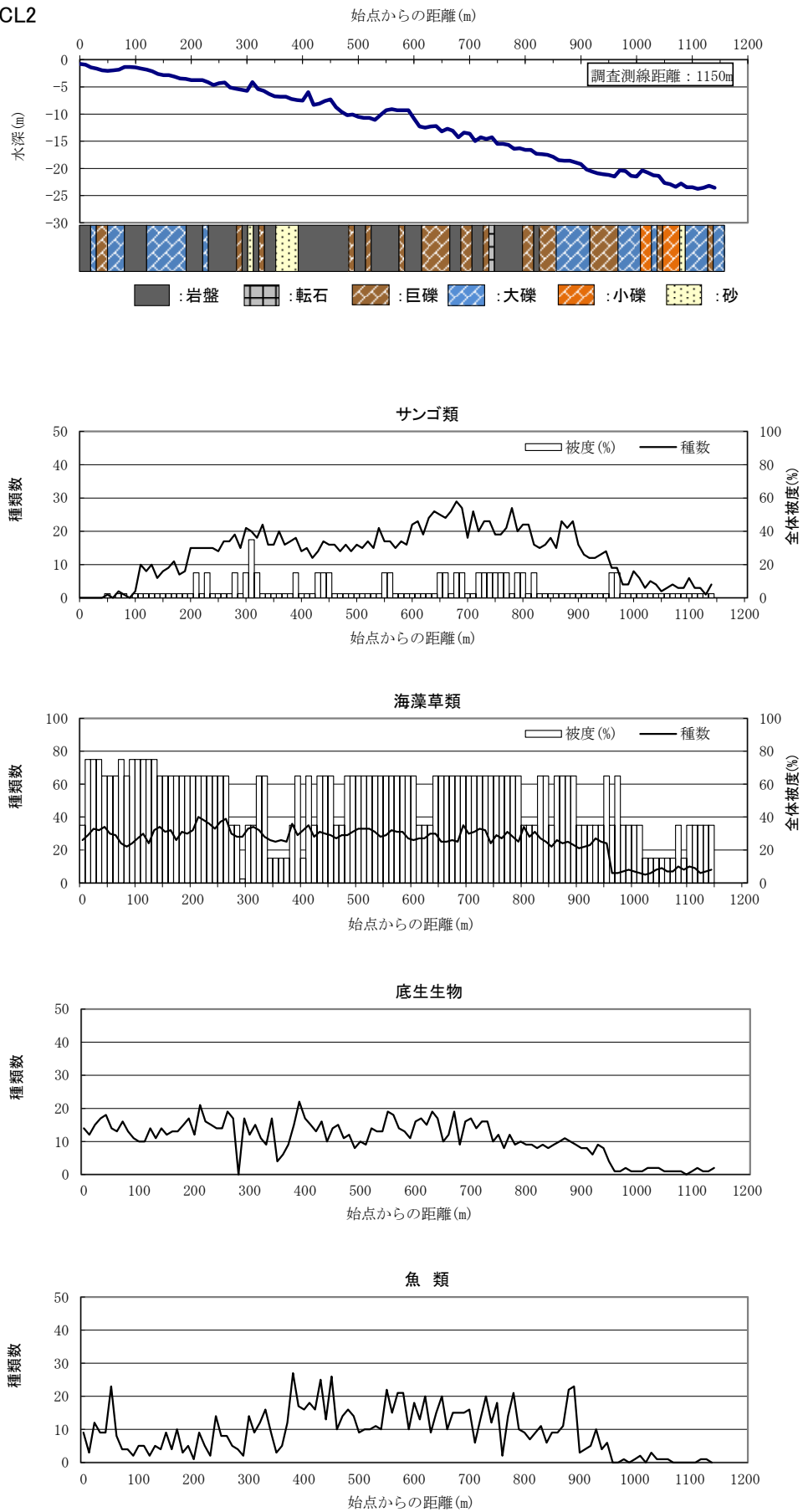


図-6.12.22 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL2) 夏季

CL2

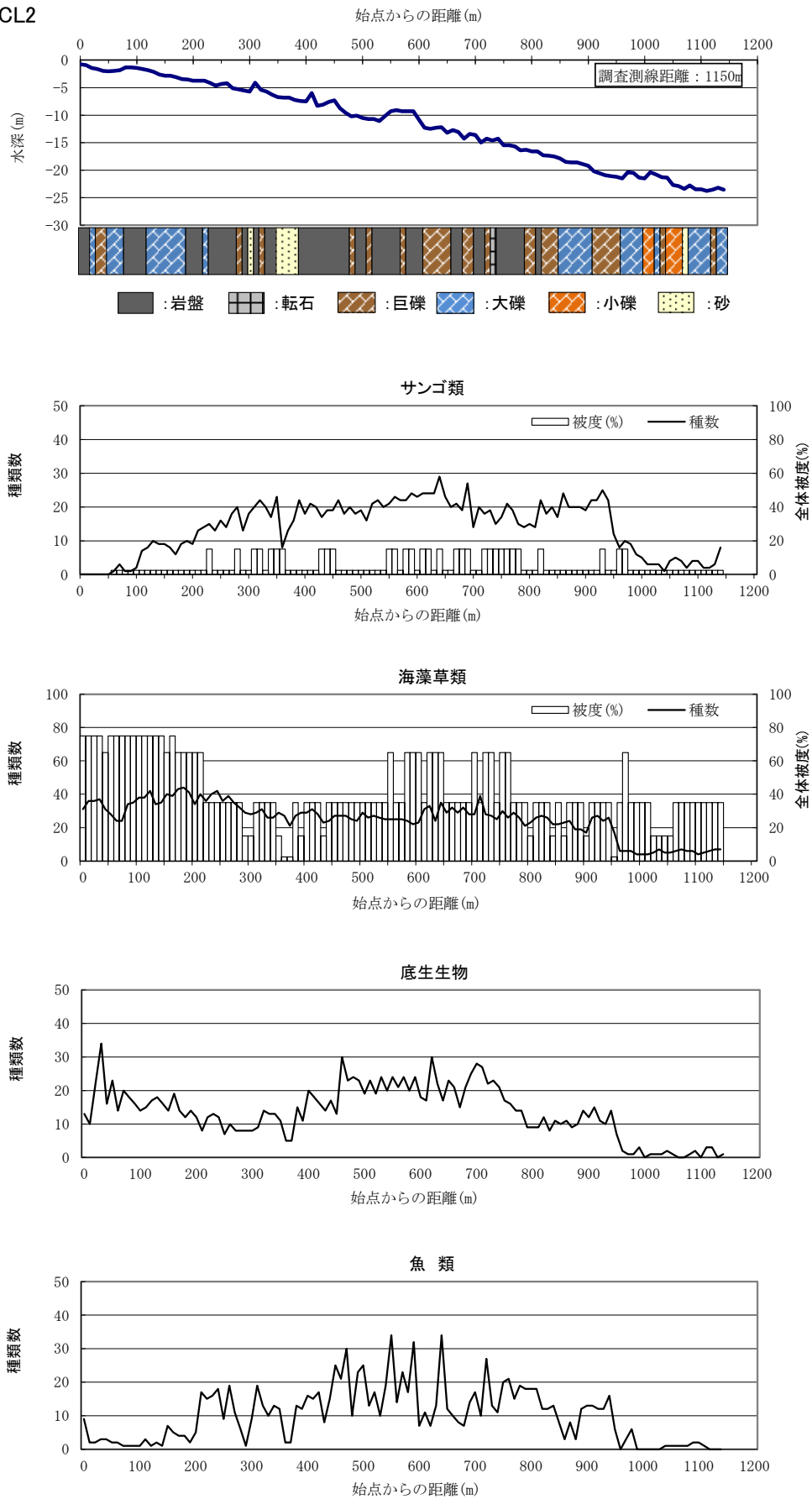


図-6.12.22 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 秋季



CL2

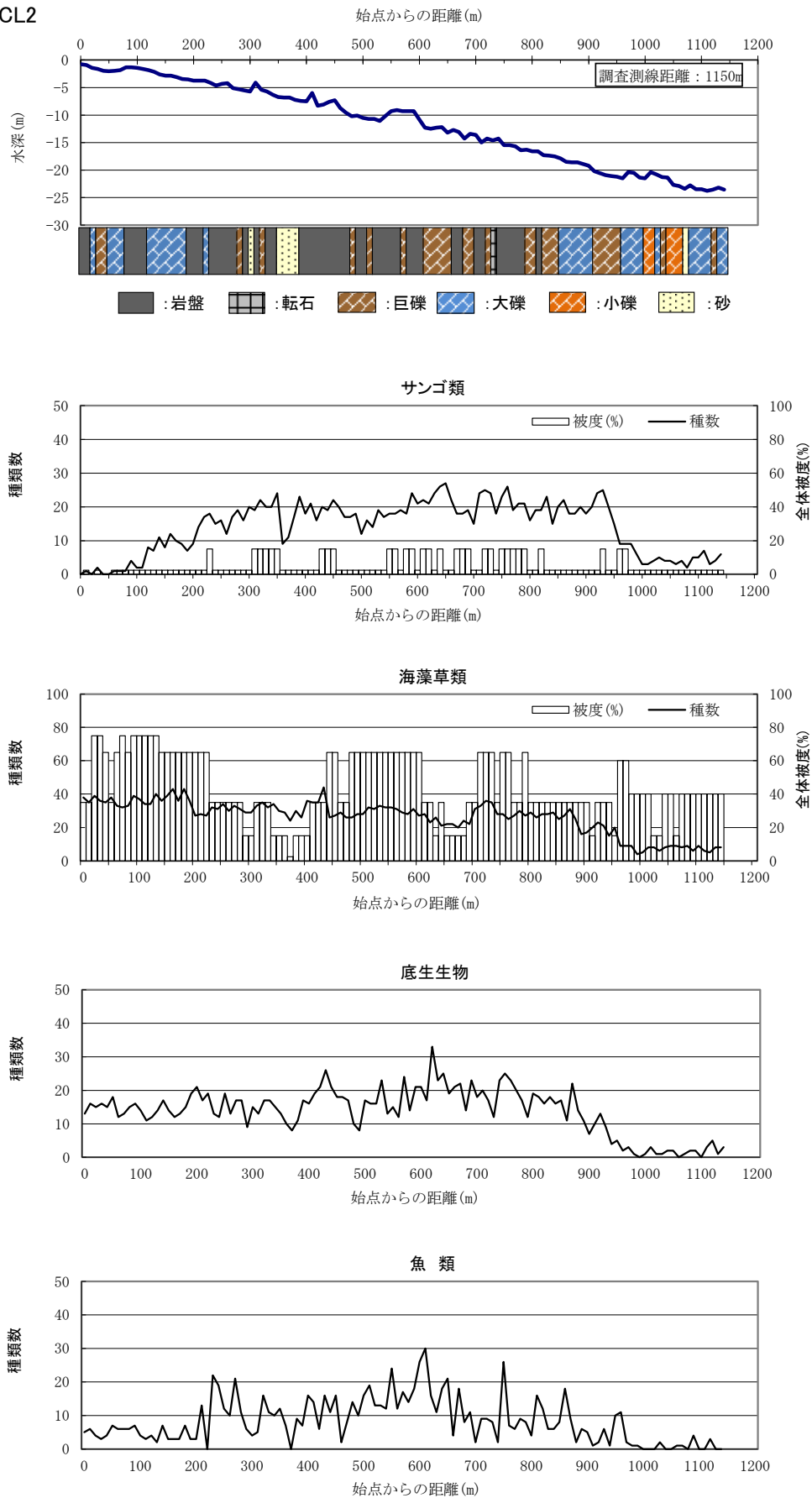


図-6.12.22 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL2) 冬季

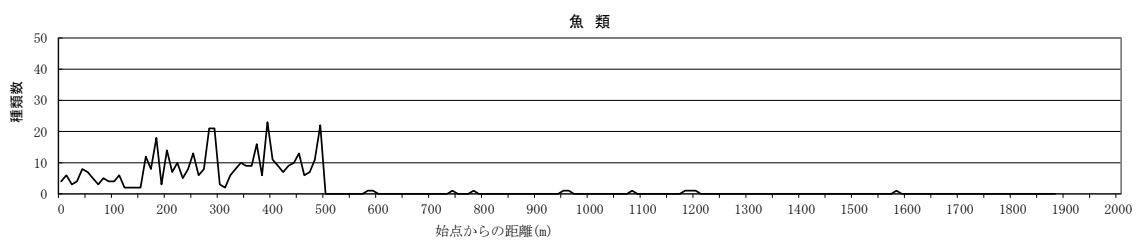
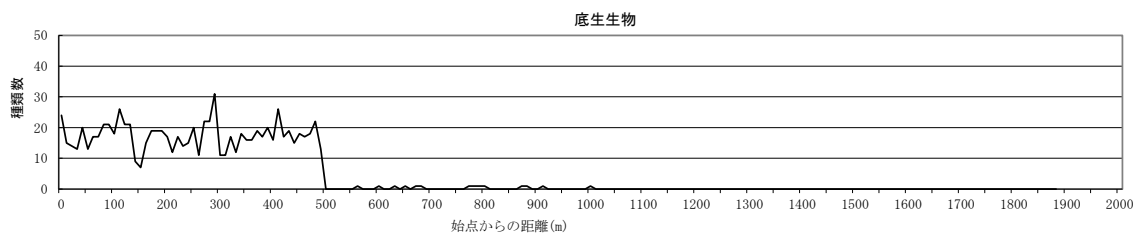
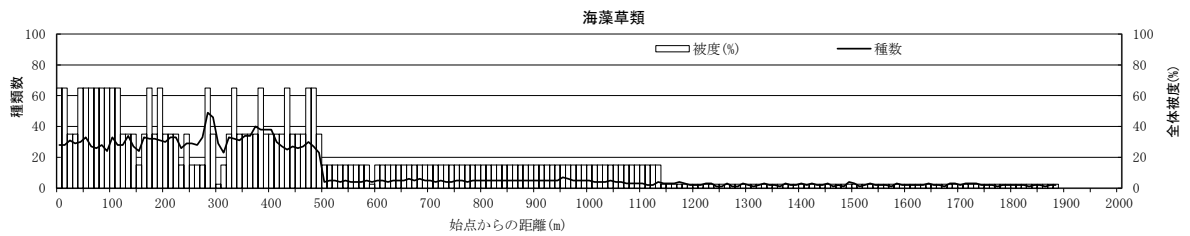
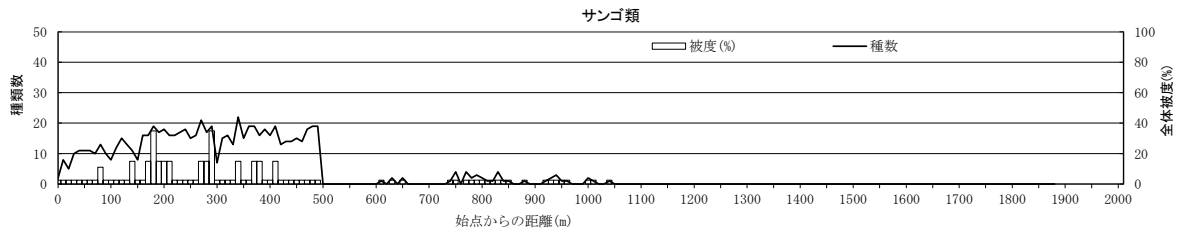
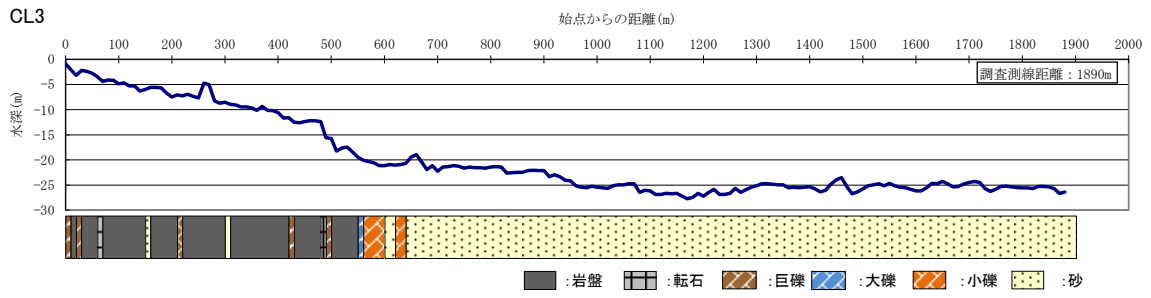


図-6.12.23 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 春季

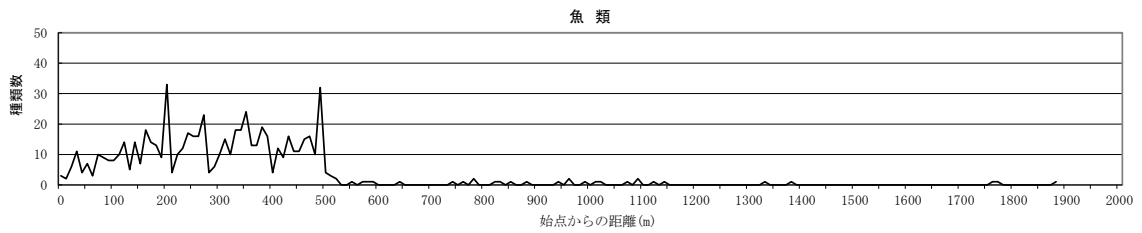
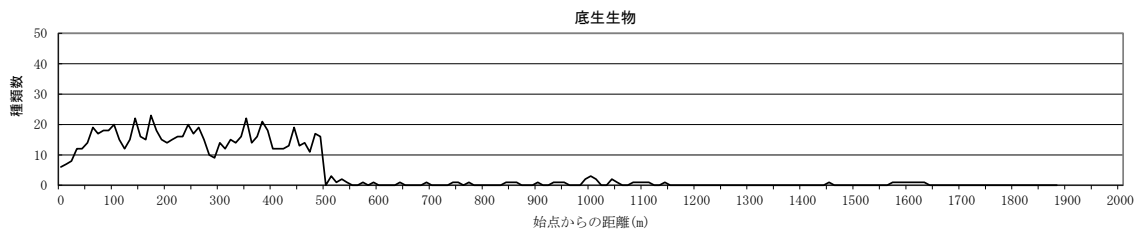
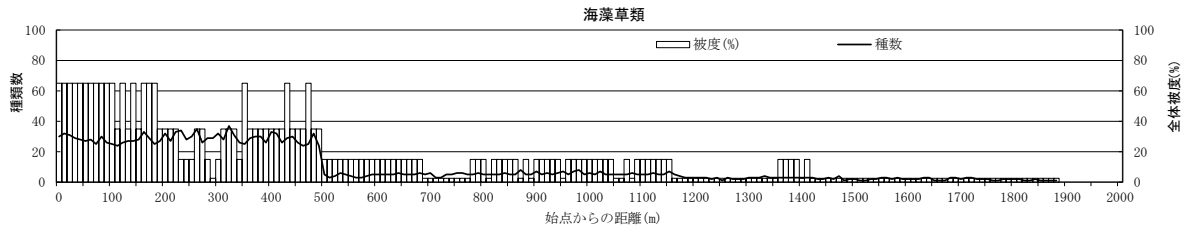
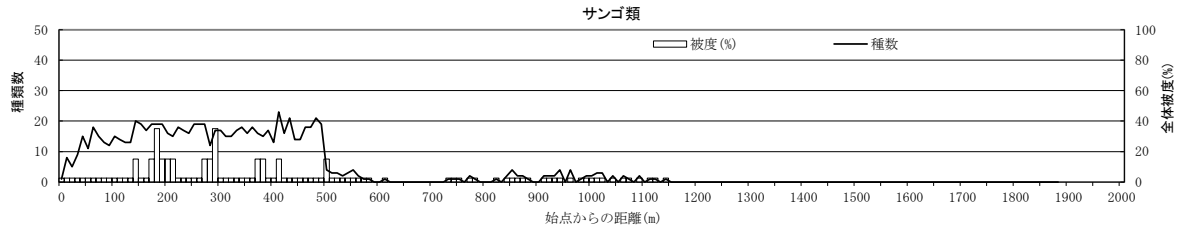
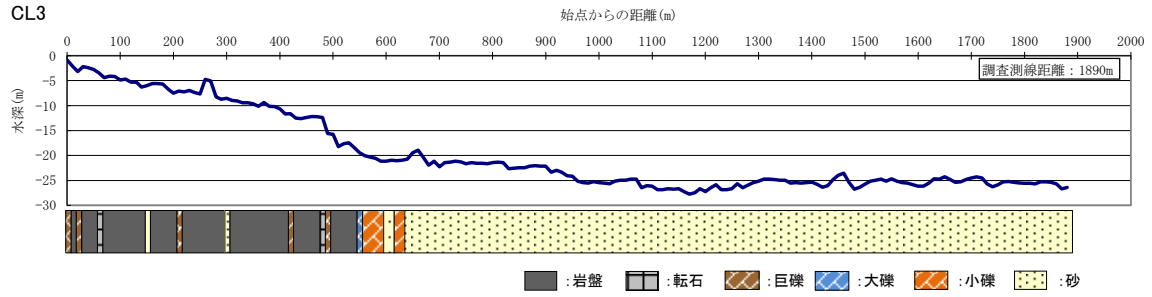


図-6.12.23 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 夏季

CL3

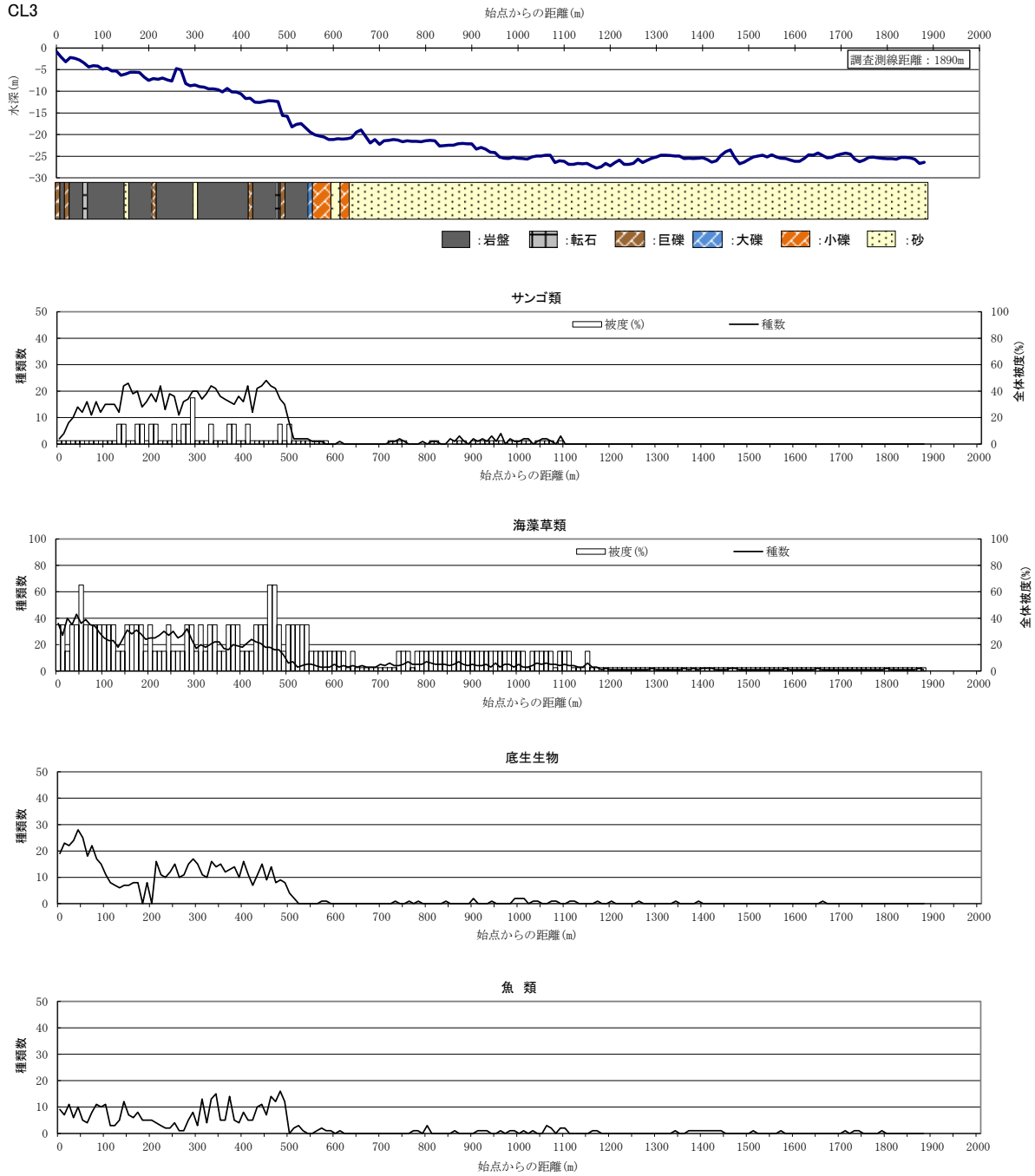


図-6.12.23 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 秋季

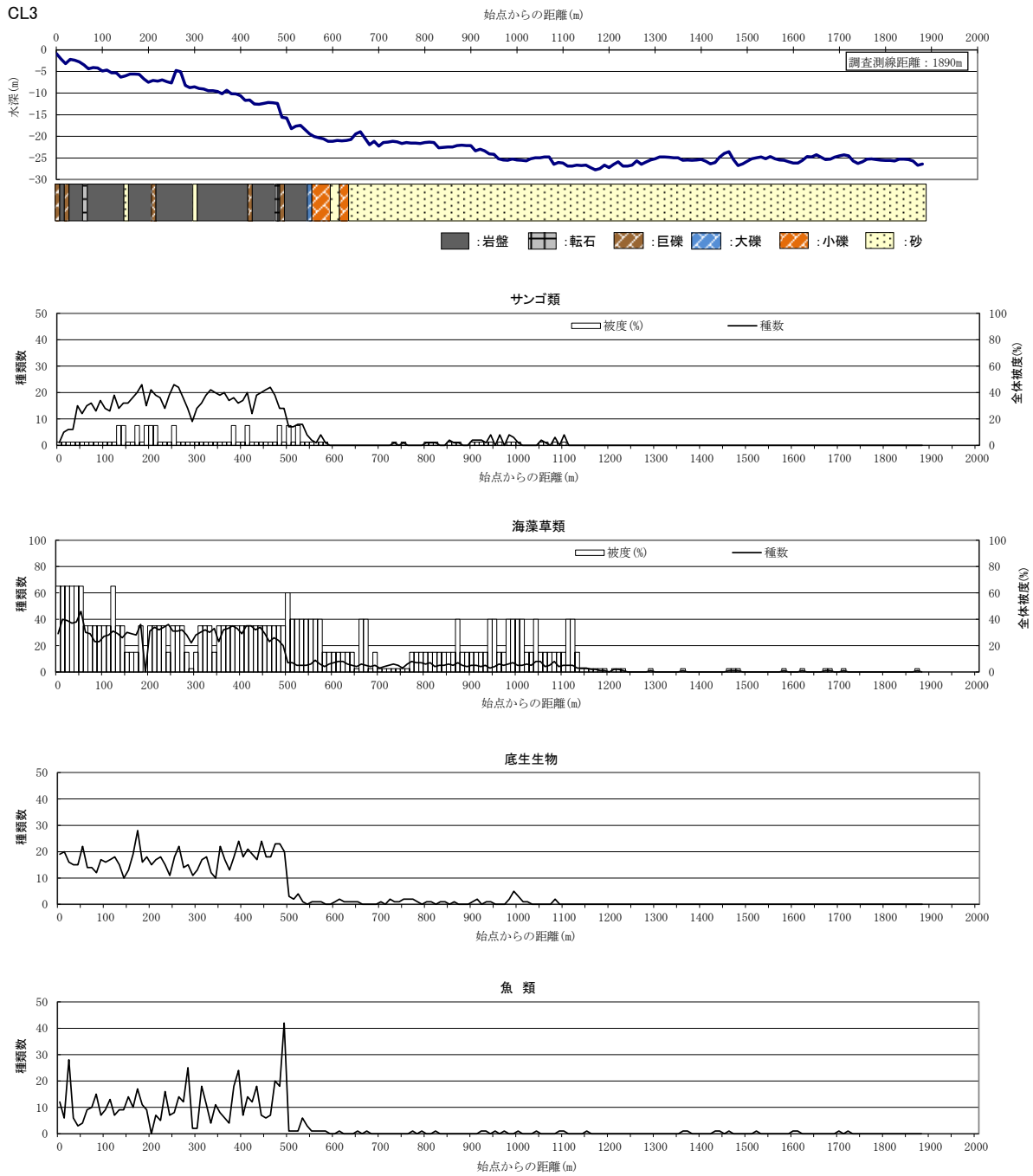


図-6.12.23 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL3) 冬季

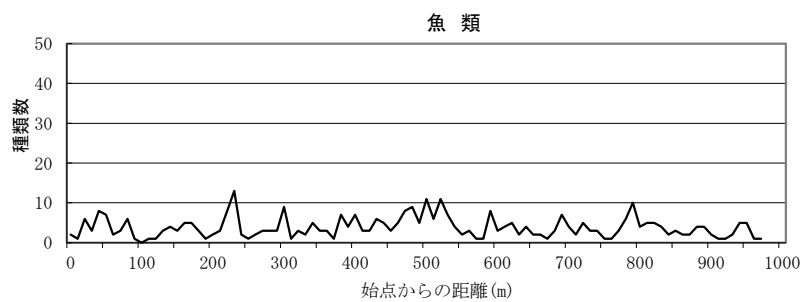
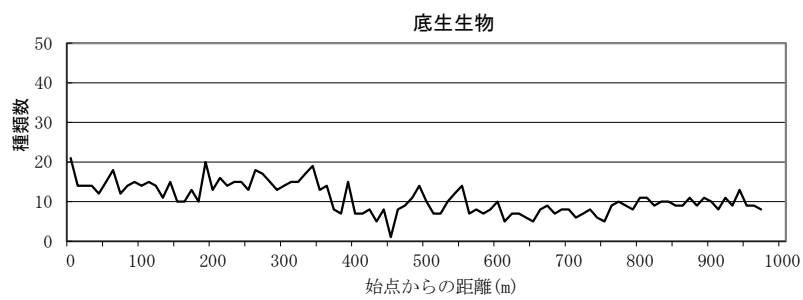
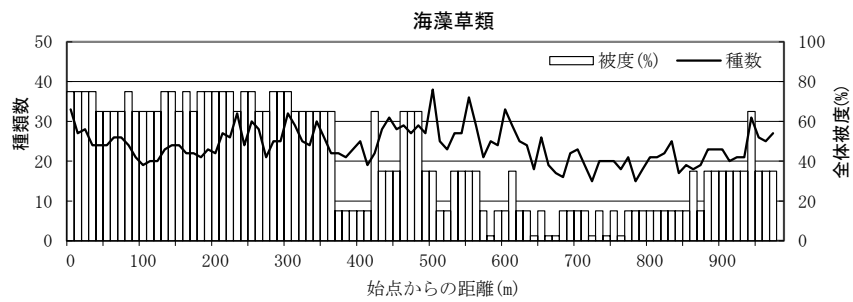
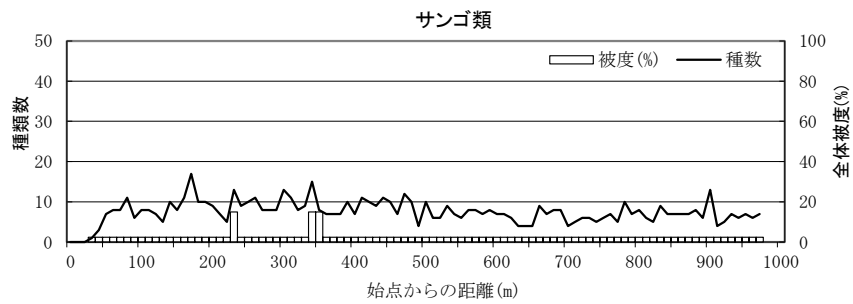
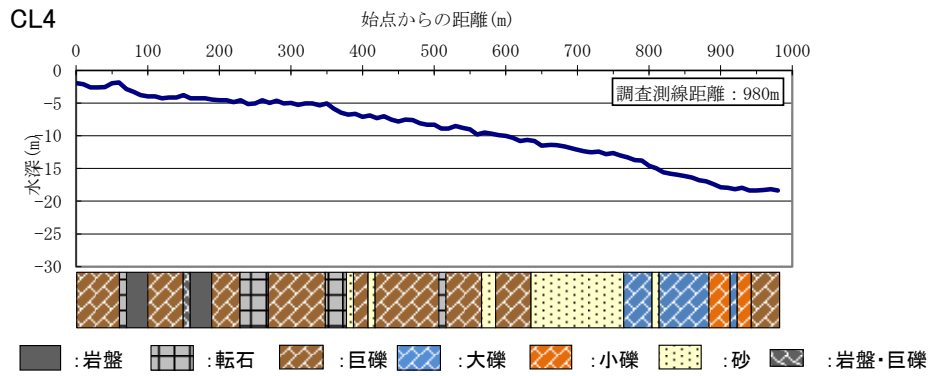


図-6.12.24 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 春季

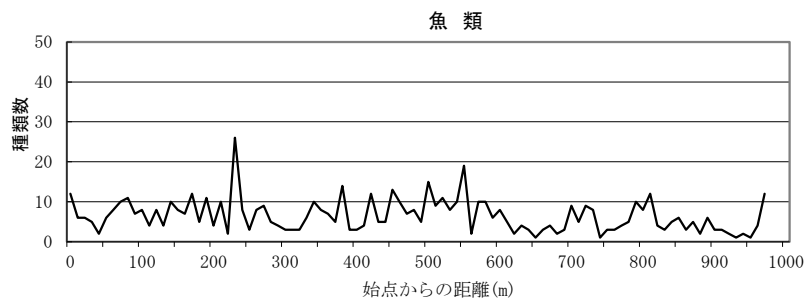
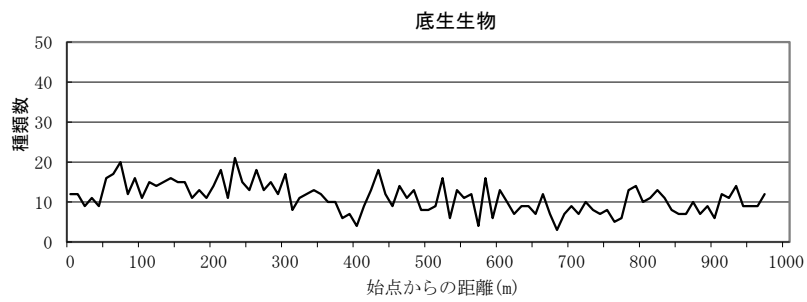
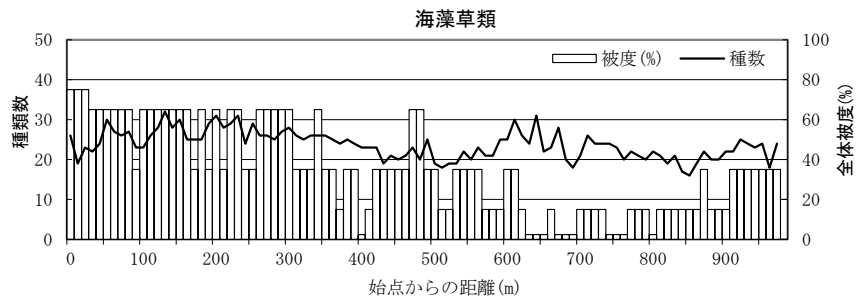
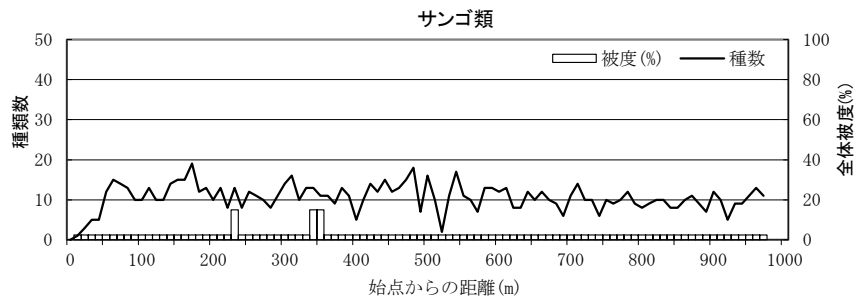
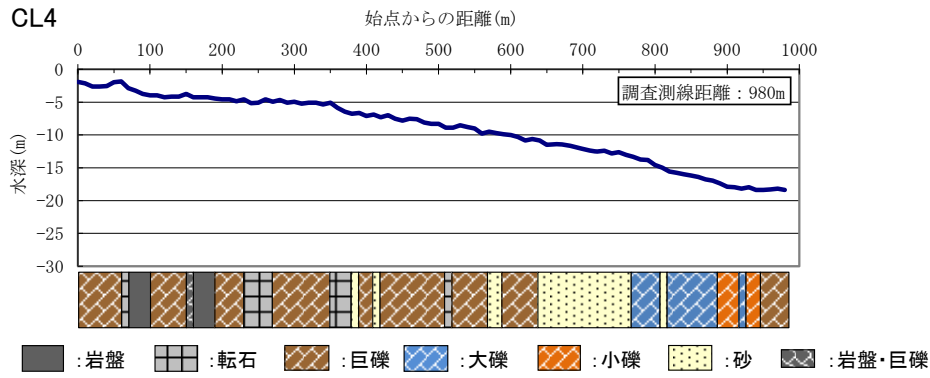


図-6.12.24 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 夏季

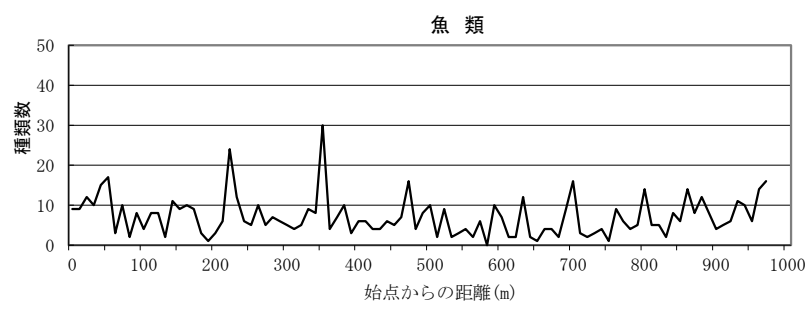
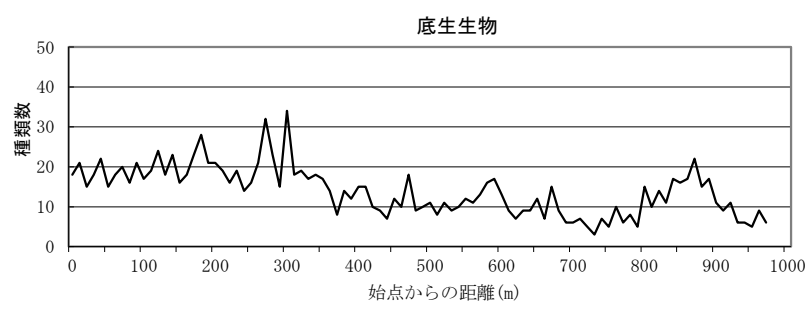
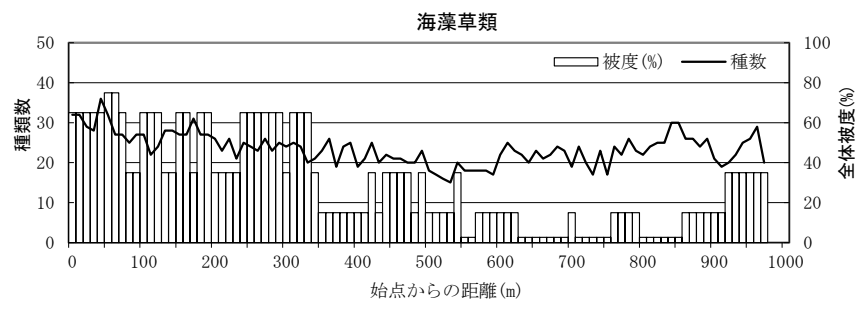
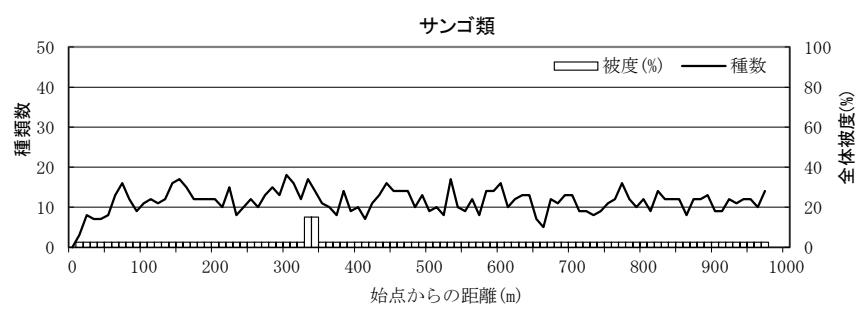
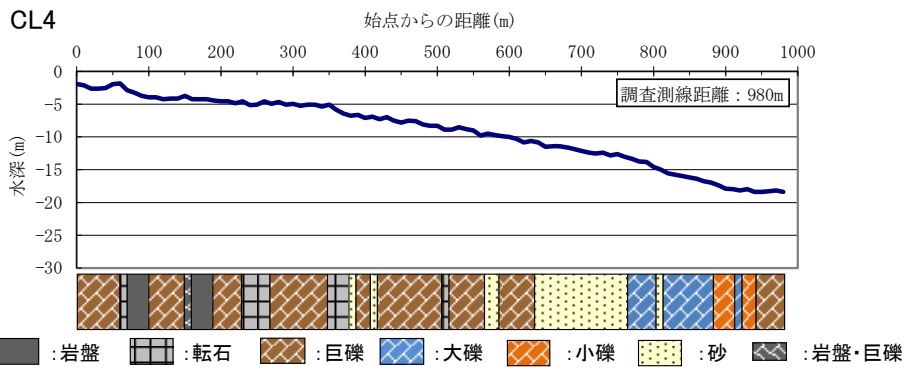


図-6.12.24 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL4) 秋季



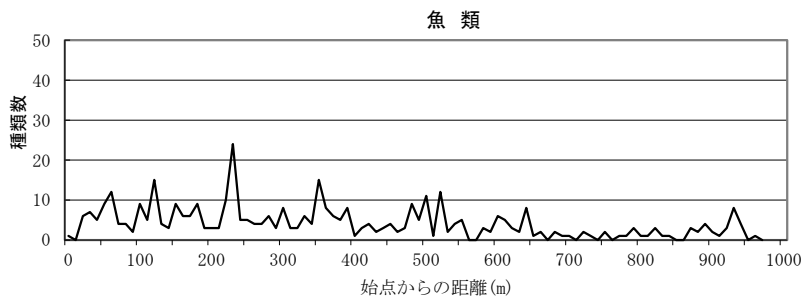
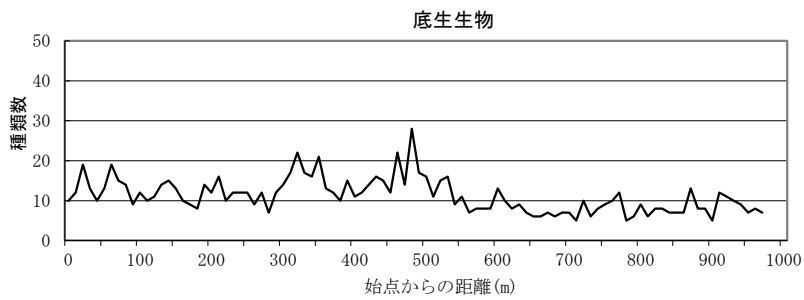
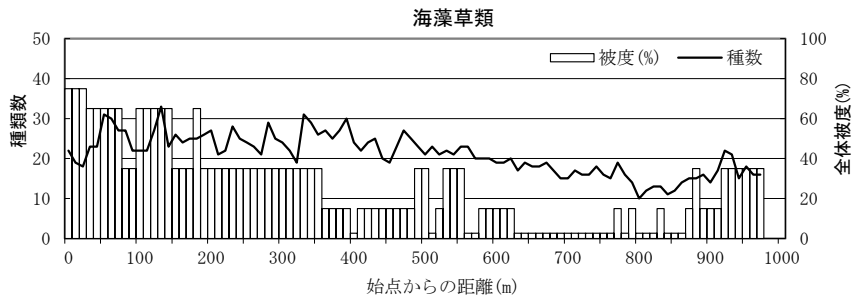
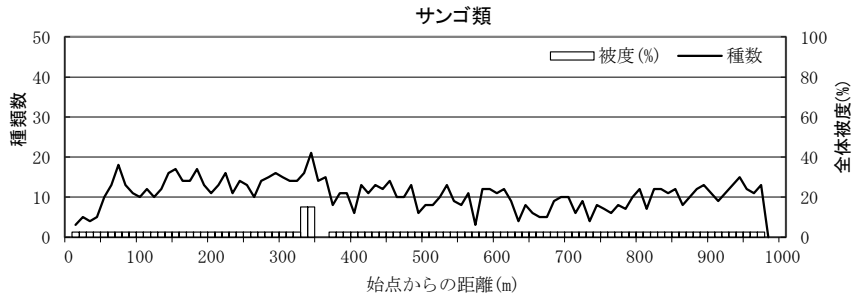
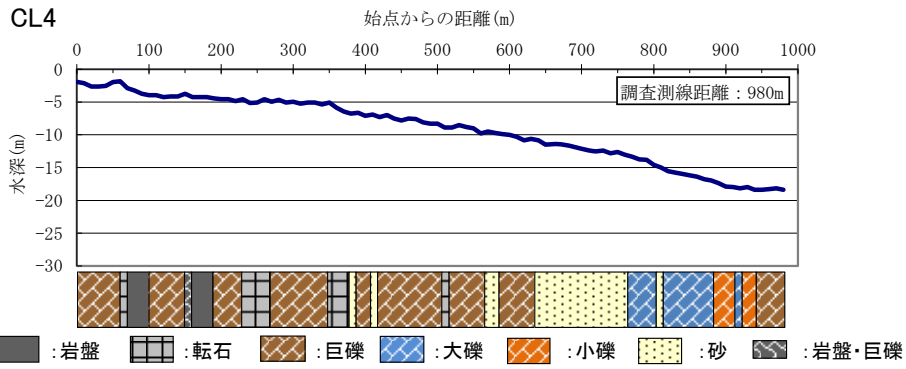


図-6.12.24 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL4) 冬季

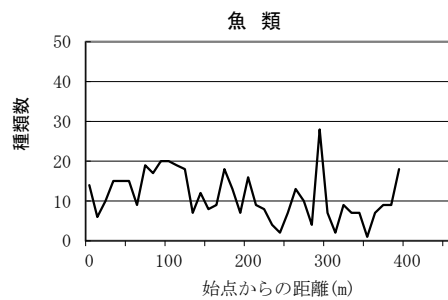
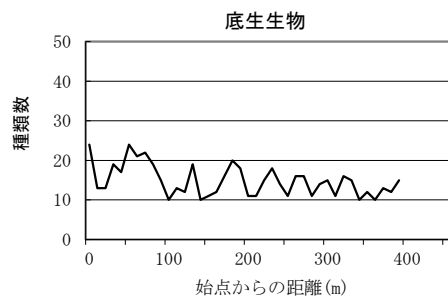
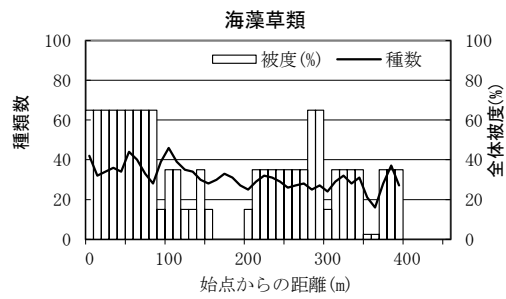
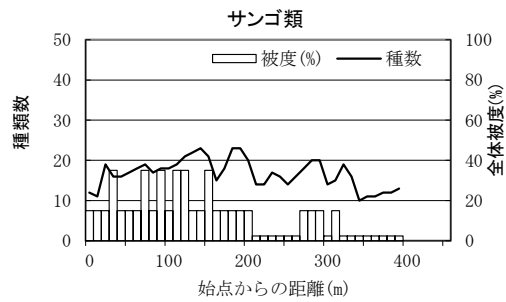
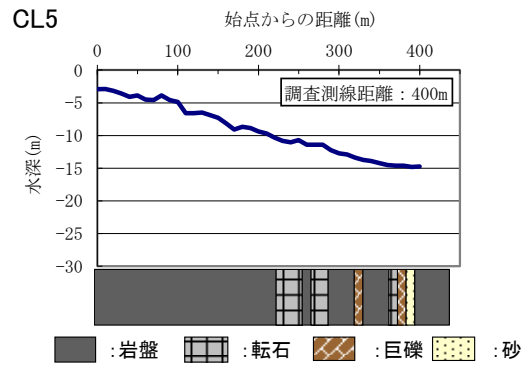


図-6.12.25 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 春季

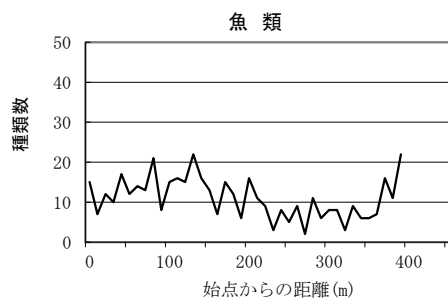
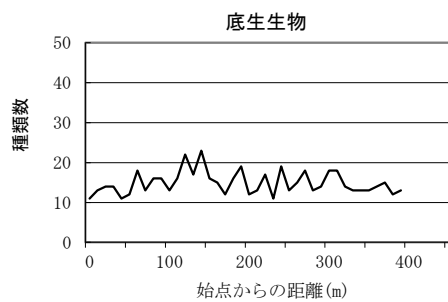
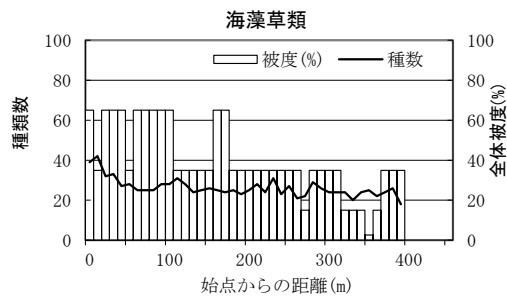
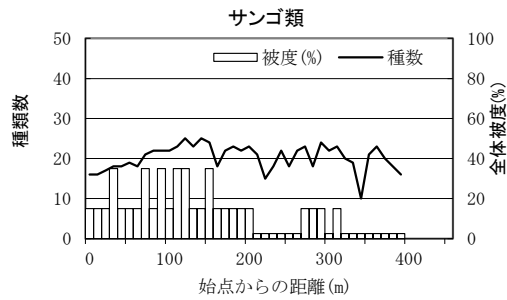
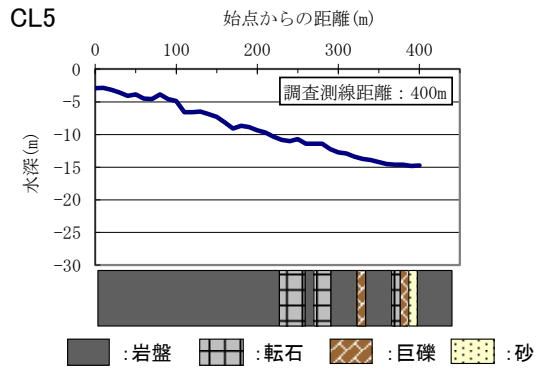


図-6.12.25 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL5) 夏季

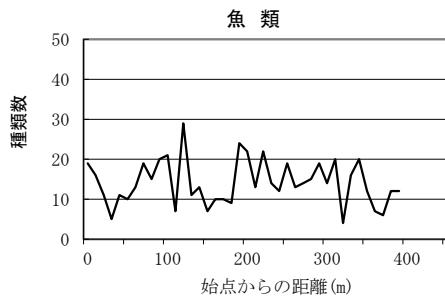
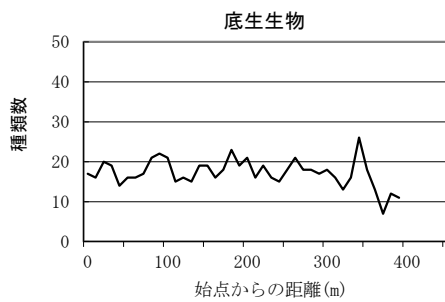
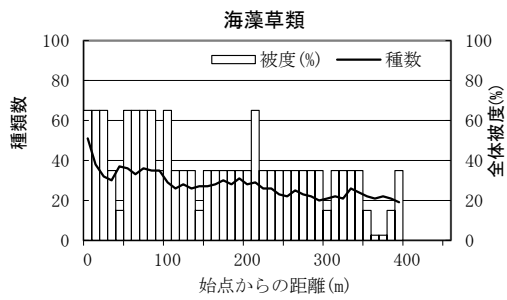
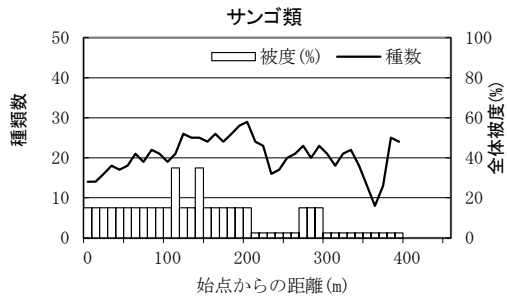
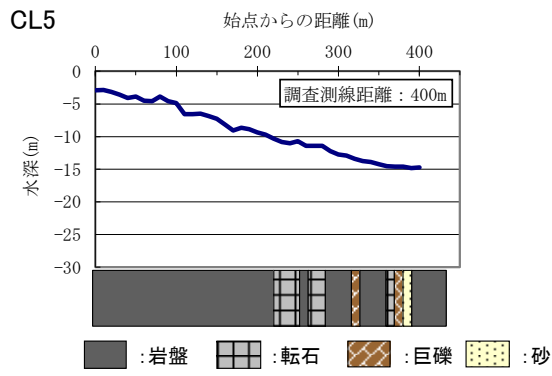


図-6.12.25 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 秋季

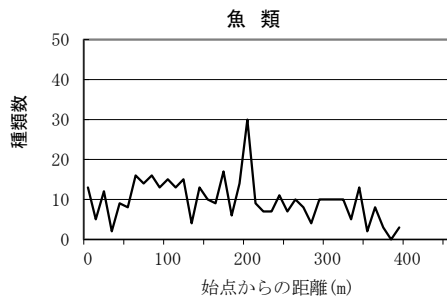
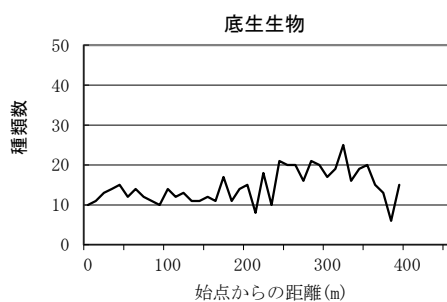
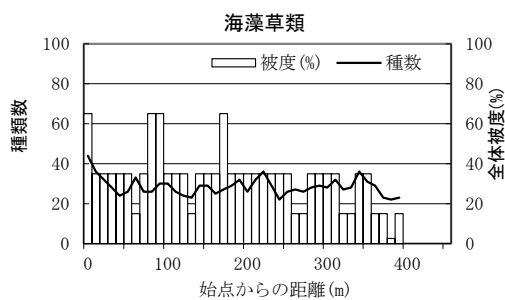
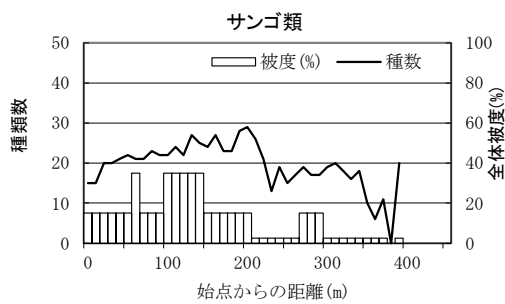
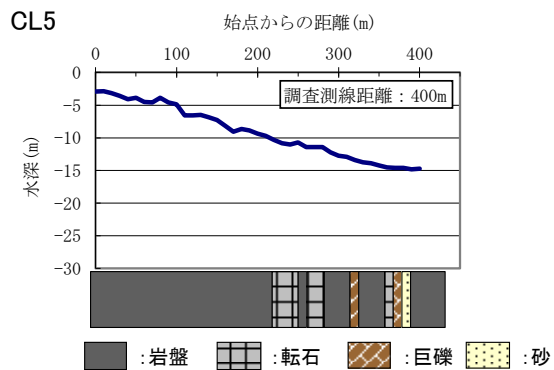


図-6.12.25 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL5) 冬季

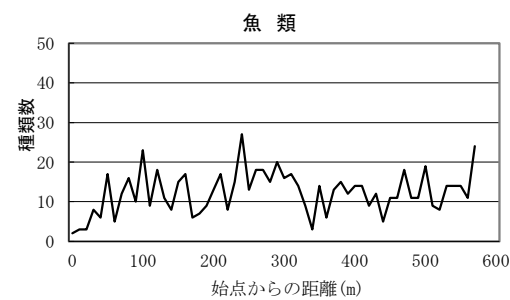
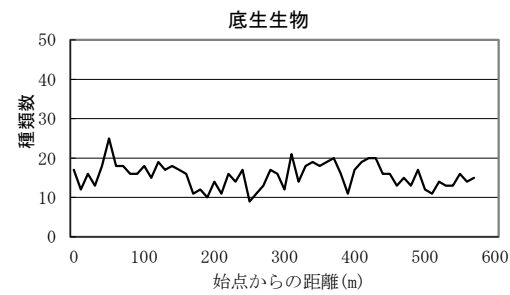
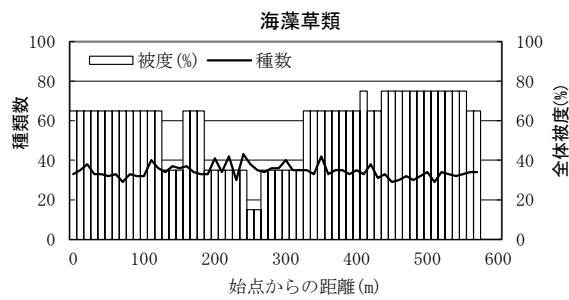
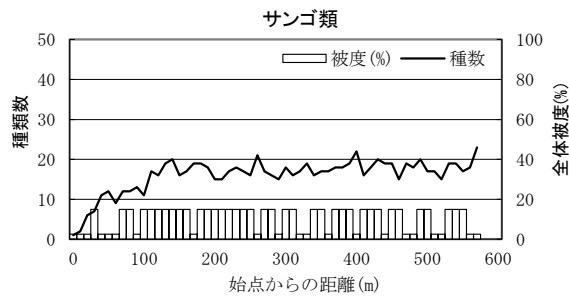
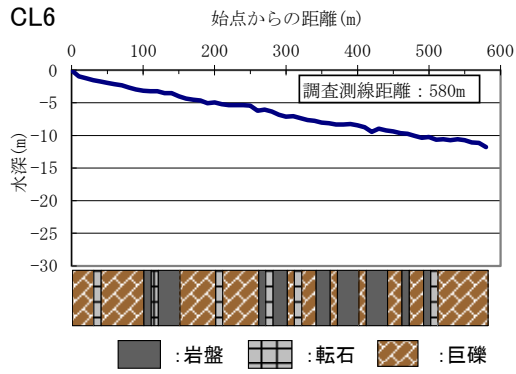


図-6.12.26 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL6) 春季

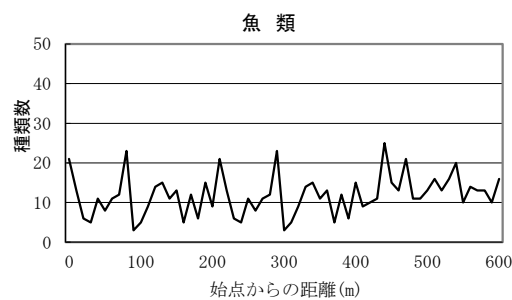
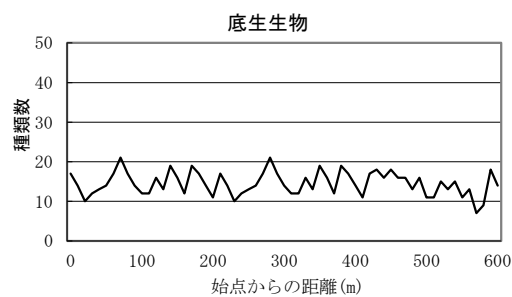
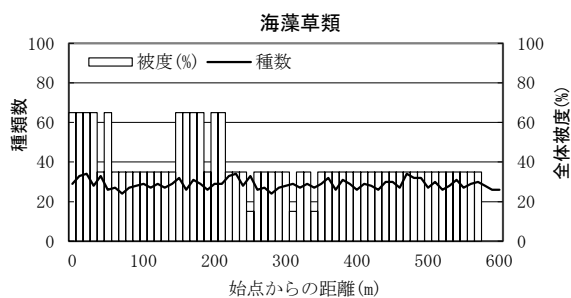
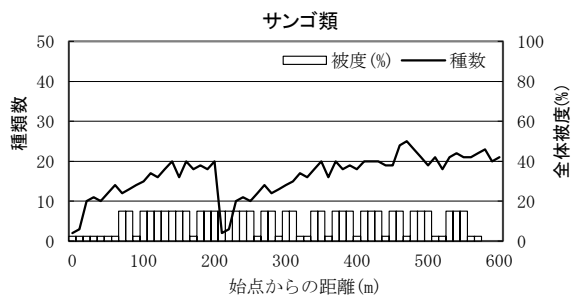
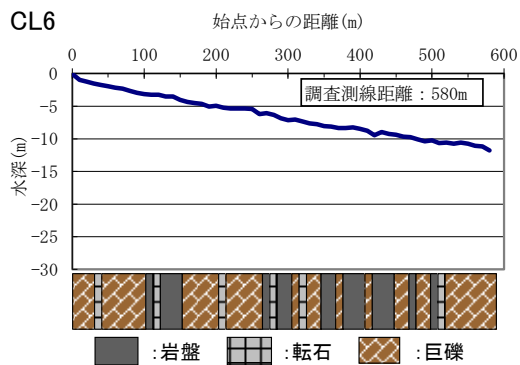


図-6.12.26 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 夏季

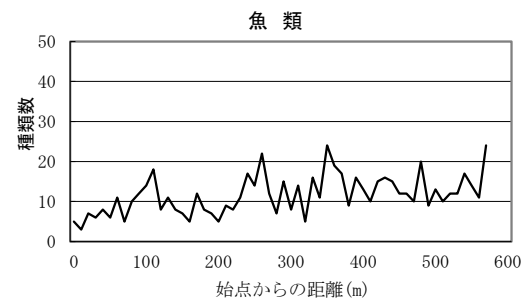
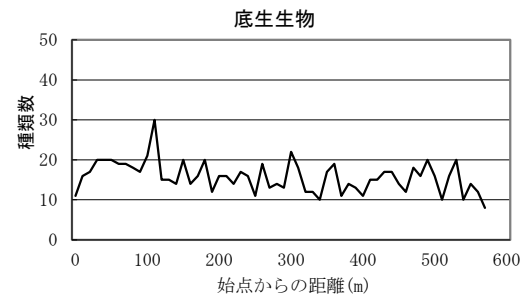
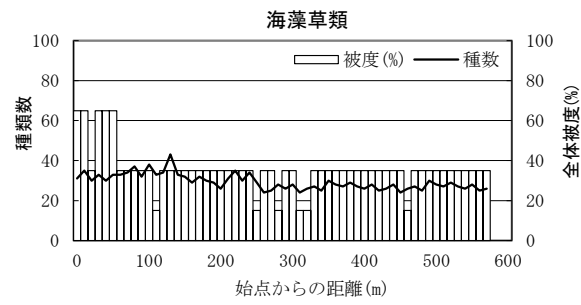
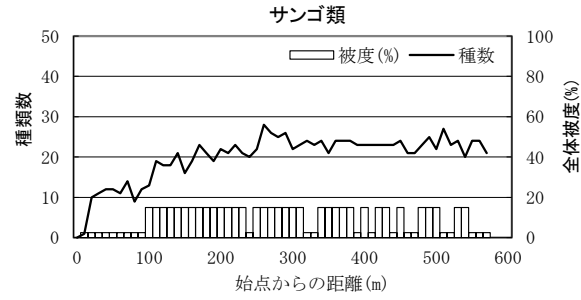
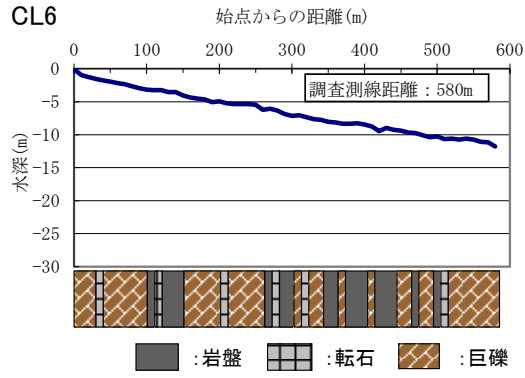


図-6.12.26 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 秋季



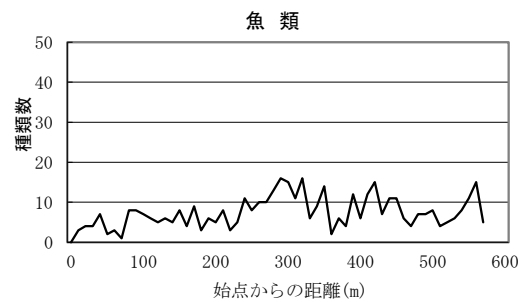
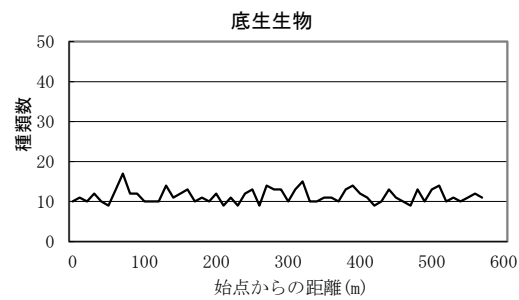
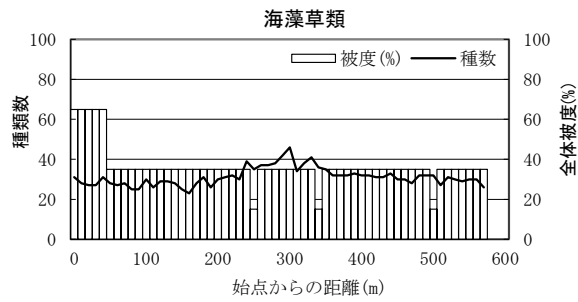
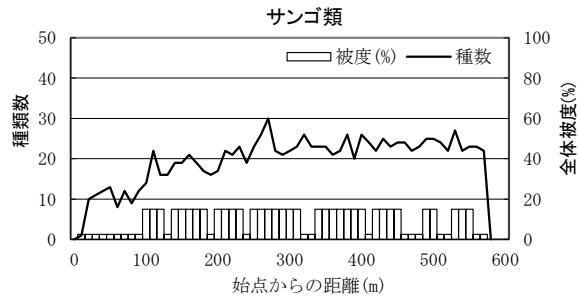
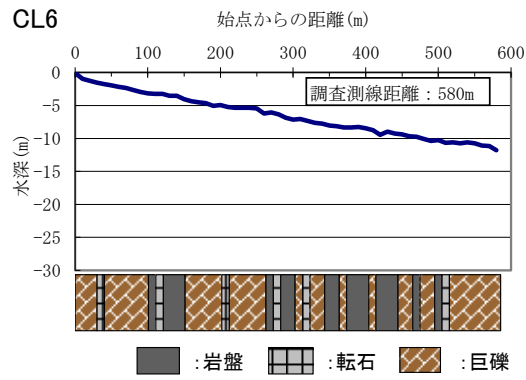


図-6.12.26 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL6) 冬季

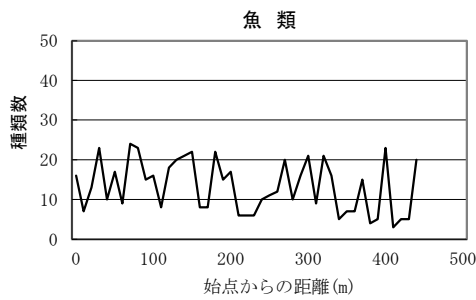
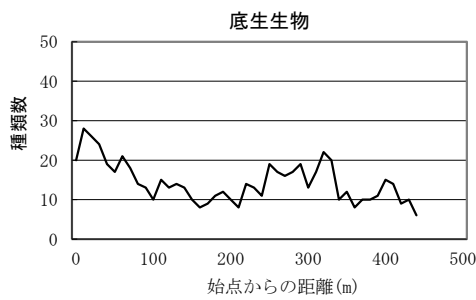
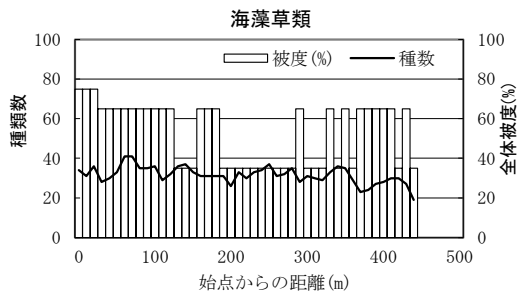
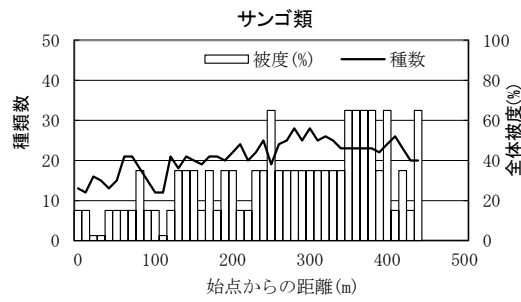
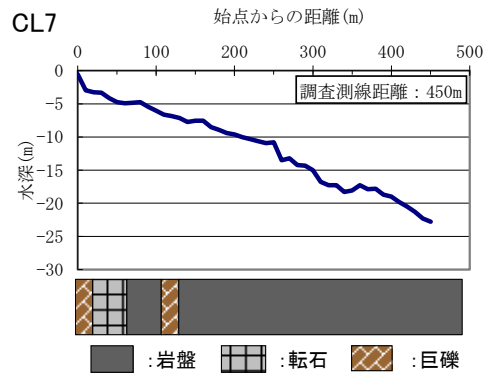


図-6.12.27 (1) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 春季

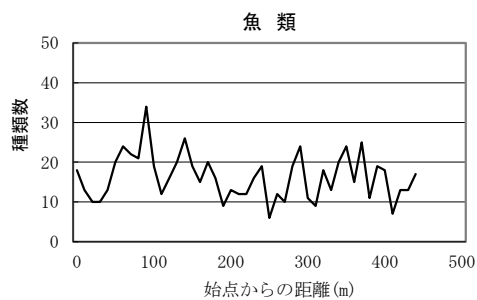
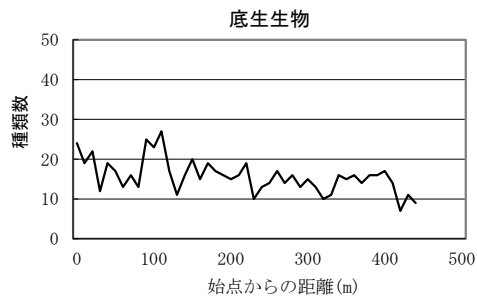
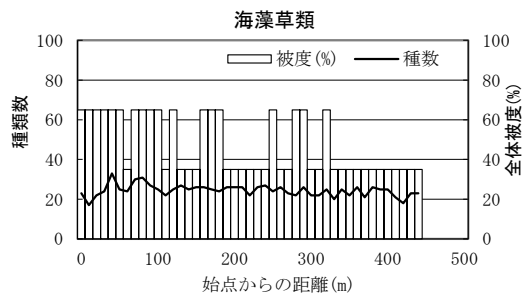
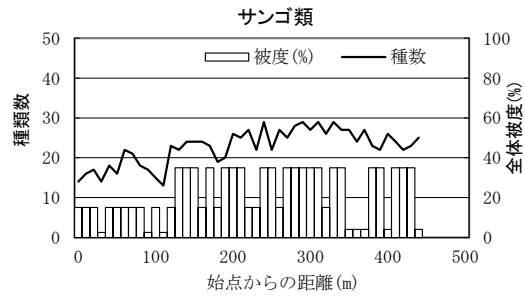
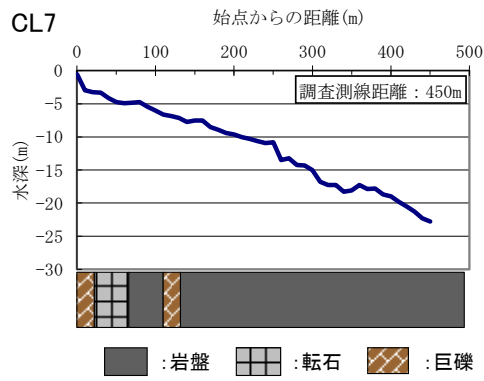


図-6.12.27 (2) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 夏季

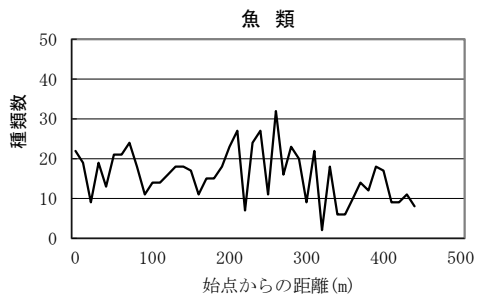
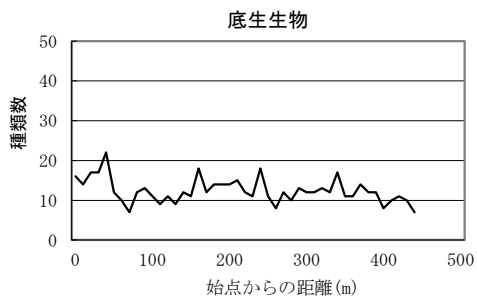
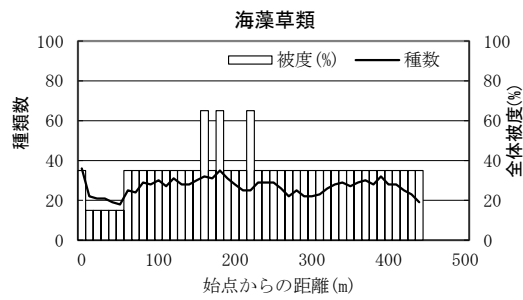
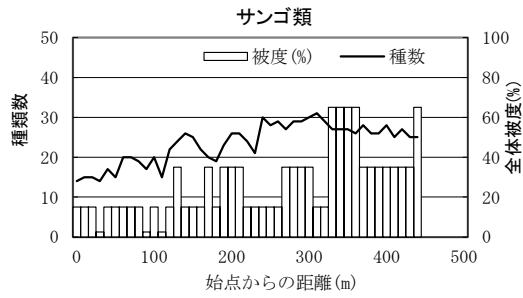
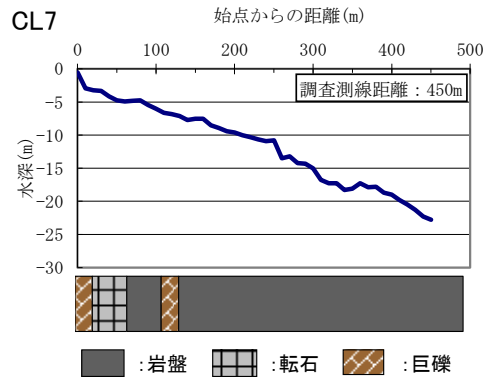


図-6.12.27 (3) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査: CL7) 秋季

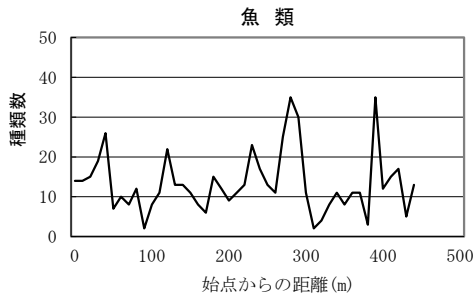
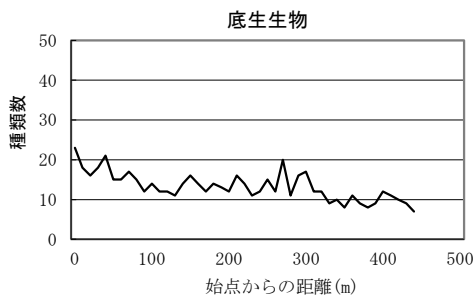
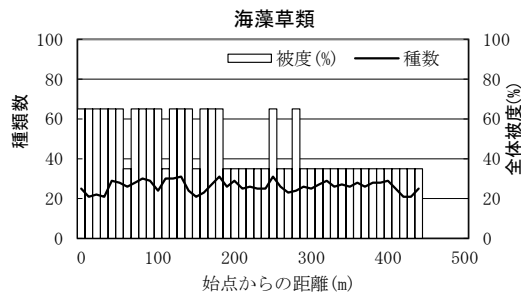
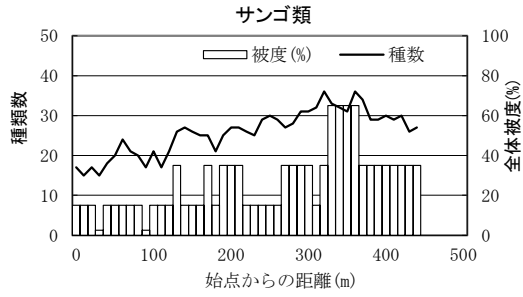
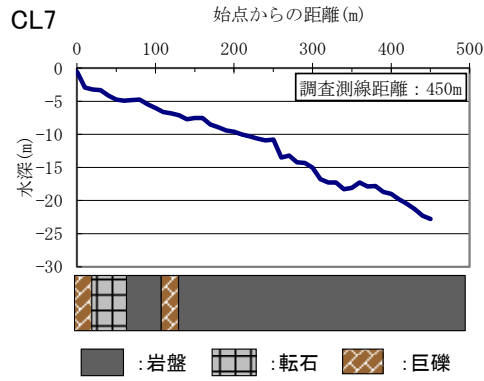





図-6.12.27 (4) 調査測線の断面模式図 (サンゴ類・海藻草類ライン調査：CL7) 冬季

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ハナガスマカノコ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (1) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  カヤノミカニモリ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (2) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  リュウキュウウミニナ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (3) 重要な種の確認位置 (底生動物)



重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オオウスイロヘソカドガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (4) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  クビキレガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (5) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヤマトクビキレガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (6) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  コベソコミミガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (7) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ハマシノミガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (8) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  マクガイ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (9) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  コハクマメアゲマキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (10) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  タガソデモドキ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (11) 重要な種の確認位置 (底生動物)



重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  スジホシムシモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (12) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  アマミスジホシムシモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (13) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  スジホシムシ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (14) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オオサカドロソコエビ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (15) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ブビエスナモグリ

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6.12.28 (16) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例



対象事業実施区域



対象事業実施区域(港湾施設)



ユビナガホンヤドカリ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (17) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オカガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (18) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  アカテガニ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (19) 重要な種の確認位置 (底生動物)



重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ベンケイガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (20) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ミナミアシハラガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (21) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヒメヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (22) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  タイワンヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (23) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヨツハヒライソモドキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (24) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヒメカクオサガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (25) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  フタハオサガニ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (26) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ナンヨウスナガニ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (27) 重要な種の確認位置 (底生動物)



重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ハクセンシオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (28) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オキナワハクセンシオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (29) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ルリマダラシオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (30) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ベニシオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (31) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  シオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (32) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ヤエヤマシオマネキ

0 0.5 1 2 km




1:40,000



図-6.12.28 (33) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示しておりません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  オナガナメクジウオ種群

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6. 12. 28 (34) 重要な種の確認位置 (底生動物)

重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例



対象事業実施区域



対象事業実施区域(港湾施設)



カタナメクジウオ

0 0.5 1 2 km

1:40,000






図-6.12.28 (35) 重要な種の確認位置 (底生動物)



重要な種の保護の観点から、  
確認位置については表示していません

凡例

-  対象事業実施区域
-  対象事業実施区域(港湾施設)
-  ネコザメ

0 0.5 1 2 km

1:40,000



図-6.12.29 (1) 重要な種の確認位置 (魚類)